

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第40集

か み りょう
上 領 遺 跡

2 0 0 4

財団法人 山口県教育財団

山口県埋蔵文化財センター



遺跡全景（南西から）



調査区全景（南西から）

序

本書は、一般県道湯ノ口美祢線道路改良（宅地関連）工事に伴い山口県から委託を受けて、山口県教育財団が実施した上領遺跡発掘調査の記録をまとめたものです。

調査の結果、弥生時代から中世の集落跡が確認され、弥生土器や須恵器・土師器など多くの遺物が出土しました。特に、須恵器には、ヘラで「大」の字が刻まれたものや円面硯の一部が発見され、近隣に古代の美祢郡の役所やその関連施設等があった可能性を示すものとして注目されます。

本書が、文化財保護に対する理解を深め、教育並びに学術研究の資料や郷土史の基礎資料として、有効に活用されることを願うものであります。

終わりに、当発掘調査の実施・報告書の作成にあたり、御指導・御協力いただいた関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成16年 3月

財団法人 山口県教育財団

理事長 牛見 正彦

例 言

- 1 本書は、山口県美祿市大嶺町大字東分子上領に所在する上領遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、一般県道湯ノ口美祿線道路改良（宅地関連）工事に伴い、財団法人山口県教育財団が山口県美祿土木事務所の委託を受けて実施したものである。
- 3 調査組織は次のとおりである。

調査主体	財団法人山口県教育財団	山口県埋蔵文化財センター
調査担当	指導主事 林 修 司	
	指導主事 松 浦 孝 和	
	調 査 員 有 馬 啓 介	
- 4 調査にあたっては、山口県教育委員会、山口県土木建築部道路建設課、山口県美祿土木事務所、美祿市教育委員会並びに地元関係各位から協力・援助を得た。
- 5 本書に掲載した第1図は、美祿市が、国土地理院発行の5万分の1の地形図を使用して作成した「美祿市全図」を、第2図は、山口県美祿土木事務所提供の地図を、第34図は、美祿市が作成した「美祿都市計画図」を、ともに複製使用したものである。
- 6 資料の鑑定・分析を下記の各氏に依頼した。記して謝意を表す。

須恵器胎土分析	大谷女子大学文学部	教 授	三 辻 利 一
石器・石製品の石材	山口県立山口博物館	専門学芸員	亀 谷 敦

（石材鑑定は表面観察による）
- 7 本書に使用した方位は、個別実測図（掘立柱建物跡実測図を除く）は磁北、それ以外は国土座標（世界標準系）の北で示す。また、標高は海拔標高（m）である。
- 8 本書に使用した土色の色調表記は、農林省農林水産技術会議事務局（監修）「新版標準土色帖」Munsell方式に従った。
- 9 図版中の遺物番号は、挿図の遺物番号と対応する。
- 10 本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。

S B	掘立柱建物跡	S D	溝状遺構	S K	土 坑	S P	柱 穴
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	-----
- 11 本書の作成・執筆は、林・松浦・有馬が共同で行い、編集は、林が行った。なお、本文の執筆分担は次のとおりである。

I 有馬 II 松浦 III-1 有馬 IV 林 V 林

本文目次

遺跡の位置と環境	1
調査の経緯と概要	5
遺構	11
1 掘立柱建物跡	11
2 土坑	21
3 溝状遺構	25
4 柱穴	26
5 3 B地区トレンチ	29
6 遺物包含層	29
遺物	37
1 掘立柱建物跡出土遺物	37
2 土坑出土遺物	38
3 柱穴出土遺物	41
4 遺物包含層出土遺物	43
5 表面採集遺物	48
6 石器・石製品	51
7 金属製品	51
まとめ	61
付編 上領遺跡出土須恵器の蛍光X線分析	65
1 はじめに	65
2 分析法	65
3 分析結果	66
須恵器胎土分析データ表	71

図版目次

巻頭図版 1	遺跡全景
巻頭図版 2	調査区全景
図版 1	調査区遠景（南西から）調査区遠景（南東から）
図版 2	1地区全景 2・3地区全景
図版 3	1 D・2 A地区掘立柱建物群
図版 4	1 A地区遺構群 3 A地区遺構群
図版 5	1 B地区 S K 1263遺物出土状況 1 B地区 S K 1263遺物出土状況
図版 6	1 B地区 S K 1262完掘状況 1 B地区 S K 1262完掘状況
図版 7	2 A地区 S K 2012遺物出土状況 2 A地区 S K 2012遺物出土状況 2 A地区 S K 2012遺物出土状況 2 A地区 S K 2014遺物出土状況 2 A地区 S K 2014遺物出土状況
図版 8	1 A地区 S K 1015遺物出土状況 1 A地区 S K 1016遺物出土状況 1 B地区 S K 1155完掘状況 3 A地区 S K 3001完掘状況 3 A地区 S K 3002土層断面 1 D地区 S D 1164完掘状況 3 A地区 S P 3004遺物出土状況 1 B地区 S P 1004遺物出土状況
図版 9	1 B地区 S P 1013遺物出土状況 1 B地区 S P 1134遺物出土状況 1 A地区 S P 1264遺物出土状況 2 A地区 S P 2007遺物出土状況 1 B地区 S P 1205遺物出土状況 1 B地区 S P 1075遺物出土状況 1 D地区 S P 1018遺物出土状況 1 A地区 S P 1014遺物出土状況
図版 10	1 B地区 S P 1261遺物出土状況 1 B地区遺物包含層遺物出土状況 2 A地区遺物包含層遺物出土状況 2 A地区遺物包含層遺物出土状況 2 A地区遺物包含層遺物出土状況 2 A地区遺物包含層遺物出土状況 3 A地区トレンチ東側 3 A地区トレンチ西側
図版 11	土坑出土遺物

図 版	12	土坑出土遺物・掘立柱建物跡出土遺物
図 版	13	掘立柱建物跡出土遺物・柱穴出土遺物
図 版	14	1 A・1 B地区遺物包含層出土遺物
図 版	15	1 A・1 B地区遺物包含層出土遺物
図 版	16	1 D・2 A地区遺物包含層出土遺物
図 版	17	1 D・2 A地区遺物包含層出土遺物
図 版	18	表面採集遺物
図 版	19	石器・石製品
図 版	20	石器・石製品・金属製品

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第2図	調査区設定図	6
第3図	遺構配置図	7
第4図	掘立柱建物跡実測図	13
第5図	掘立柱建物跡実測図	14
第6図	掘立柱建物跡実測図	15
第7図	掘立柱建物跡実測図	17
第8図	掘立柱建物跡実測図	18
第9図	掘立柱建物跡実測図	19
第10図	S K 1263実測図	21
第11図	S K 1262実測図	22
第12図	S K 2014実測図	22
第13図	S K 2001、2012実測図	23
第14図	S K 1016、1012、1015、3001、3002実測図	24
第15図	S K 1155実測図	25
第16図	S D 1164土層断面図	25
第17図	S P 1004、1014実測図	26
第18図	S P 1264、2007、1013、3004、1075、1205実測図	27
第19図	S P 1261、1018、1134実測図	28
第20図	3 B地区トレンチ土層断面図	29
第21図	掘立柱建物跡出土遺物実測図	37
第22図	土坑出土遺物実測図	38
第23図	土坑出土遺物実測図	39
第24図	土坑出土遺物実測図	40
第25図	柱穴出土遺物実測図	42
第26図	1 A・1 B地区遺物包含層出土遺物実測図	44
第27図	1 A・1 B地区遺物包含層出土遺物実測図	45
第28図	1 D・2 A地区遺物包含層出土遺物実測図	47
第29図	1 D・2 A地区遺物包含層出土遺物実測図	48
第30図	表面採集遺物実測図	49
第31図	石器・石製品実測図	49
第32図	石器・石製品実測図	50
第33図	金属製品実測図	51
第34図	上領遺跡の時代別遺構分布図	63

表 目 次

第1表	掘立柱建物跡一覧表	20
第2表	遺構一覧表	30
第3表	遺物観察一覧表	52

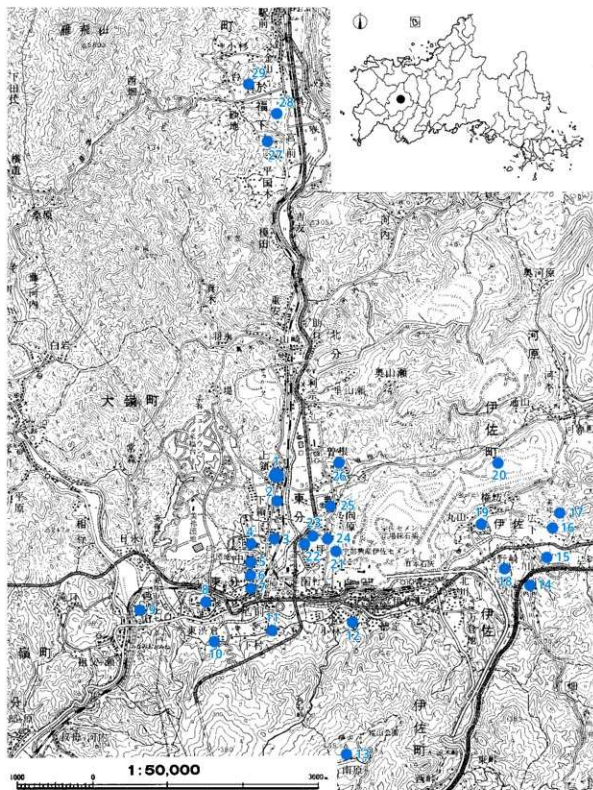
遺跡の位置と環境

上領遺跡は、美祿市大嶺町大字東分字上領に所在する弥生時代から中世にかけての集落遺跡である。東西1km、南北3.2kmほど広がる大嶺盆地の西周縁、厚狭川西岸に立地する。尾原山の南麓で、舌状に伸びる低丘陵の付け根部分にあたる。

美祿市は本州最西端部を占める山口県の西部中央部、日本海と瀬戸内海のほぼ中間に位置する。秋吉台カルスト地形の西側にあたり、古生代・中生代・新生代の各地質時代の地層にみられる化石の豊富さで「化石の宝庫」と評されている。地下資源が豊富で、石灰岩・珪石・大理石などを産出している。美祿市域は、標高100m以上の中小起伏山地と丘陵地によって占められている。一部の木屋川水系地域を除けば、市の中央を流れ周防灘に注ぐ厚狭川水系に属する。北部には標高600mを超える花尾山山地があり、日本海側と瀬戸内海側の分水嶺となる。また、厚狭川東岸の地域は石灰岩台地および丘陵地となっており、標高300m～350mの小起伏面台地である於福台や伊佐台が広がる。カルスト地形特有の凹地形であるドリ―ネやウパーレが多く、ウパーレにある入見の集落は特に有名である。市の中心部に位置する大嶺盆地や伊佐盆地は、縁辺ポリエの性格をもつ。その南には真言宗の古刹南原寺が八合目に所在する桜山がある。気候は寒暖の差が大きい内陸性の気候を呈し、県内では寒冷・多雨地域に属する。

美祿市やその周辺部における人類の営みの開始は、採集された石器等により岩宿時代（旧石器時代）であると推定されている。秋吉台上の北馬コロピでは真岩やサヌカイト製の尖頭形石器、船が窪からはチョッパーやナイフ形石器が採集されている¹⁾。また、美祿市域からは、大嶺町西浜倉丘陵で礫核石器、於福万光の洪積台地からはスクレイパーが確認されるなど、僅かではあるが岩宿時代の人類の痕跡を垣間見ることができる。これらの地域には石灰岩洞窟が分布し、哺乳動物の化石が多く見つかっている。岩宿時代まで遡る人骨の発見が期待されているが、現在のところ、その確実な例はない。今から約1万3000年前、日本列島では土器を製作、使用する文化が誕生した。縄文時代である。地質学上では洪積世が終わり、沖積世の時代となる。秋吉台上やその台麓には縄文時代の遺跡が多く分布している。昭和31年（1956年）には秋吉台において組織的な学術調査が行われ、多くの遺跡が発見された²⁾。美祿市域には大嶺町長ケ坪の洞穴住居遺跡の可能性あるコジキ穴遺跡³⁾、於福町萩原の萩原遺跡がある。

その後、大陸より灌漑を伴う本格的な稲作農耕技術が伝播し、長かった狩猟・採集の時代は終わりを告げる⁴⁾。縄文時代に後続する弥生時代は金属器の使用や大陸系磨製石器等によっても特徴づけられる。この時代、人々は秋吉台やその台麓から徐々に沖積平野縁辺の低丘陵に下りてくる。これはポリエの湧水と深く関係すると考えられている。なぜなら、厚狭川流域の於福盆地や大嶺盆地、伊佐盆地などのカルスト盆地周縁の低丘陵や洪積台地上に遺跡が集中するからである⁵⁾。大嶺盆地を望む比高30m余りの洪積台地にある大嶺町中村の東分中村遺跡では高等学校のグラウンド拡張工事中に多くの土坑が発見され、緊急発掘調査が行われた。多くの貯蔵穴や竪穴住居と思われる遺構、遠賀川式土器の系統のものを含む弥生土器、稲作農耕に使用したと考えられる磨製石砲丁や石斧等の大陸系磨製石器などが出土した。この調査により弥生時代前期から古墳時代にかけて断続的に人々が居住してい



- 1 上領遺跡 2 下領遺跡A地区 3 下領遺跡B地区 4 東分中村遺跡 5 東分中村古墳 6 吉則古墳
 7 平城遺跡 8 東洪倉遺跡 9 西洪倉遺跡 10 下村遺跡B地区 11 下村遺跡A地区 12 小林古墳
 13 南原寺遺跡 14 内川遺跡 15 内川古墳 16 広下遺跡 17 広下古墳 18 野崎遺跡 19 丸山遺跡
 20 伊佐台遺跡 21 横道古墳 22 コジキ穴遺跡 23 彦山遺跡 24 彦山古墳 25 向原遺跡 26 曾根遺跡
 27 宮ノ前古墳群 28 砂地岡遺跡 29 上ノ山遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

たということが確認された⁶⁾。また、厚狭川東岸の伊佐台の西端に立地する大嶺町長ヶ坪の彦山遺跡からは弥生時代中期の土器や未製品を含む多くの石斧が出土している。この遺跡は厚狭川の氾濫原からの比高が46m余りあり、畑作あるいは防衛的機能をもった高地性集落として注目されている。さらに、大嶺盆地東縁に立地する大嶺町曾根の曾根遺跡からは弥生時代後期の竪穴住居と土坑が検出されている⁷⁾。そして、於福盆地周縁部に位置する砂地岡遺跡⁸⁾と上ノ山遺跡⁹⁾でも近年発掘調査が行われ、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居が多数発見された。

3世紀の中頃になると、各地で巨大な墳丘をもつ墓が築かれ始めた。古墳時代である。伊佐町内川の内川古墳は伊佐盆地南東部の丘陵上に位置する古墳時代前半の2基の組合式箱式石棺墓からなる¹⁰⁾。伊佐町広下の広下古墳は標高200メートルの空山の山腹急斜面にあり、横穴式石室を内部主体とする。大嶺町長ヶ坪の彦山古墳は大嶺盆地に面した標高120メートルの舌状台地に位置する。横穴式石室を有する2基の円墳である。於福町於福下の宮ノ前古墳群は、於福ボリエの段丘に連なる丘陵の稜線ならびに丘麓に立地し、2基の円墳が確認されている。そして、特に注目すべきは古墳時代後期に比定される大嶺町向原の横道古墳である。伊佐台の甲の上南西中腹と、山麓台地の2か所に構築されている。7基ほど確認されており、3号墳に埋葬された人骨は幼児から熟年までの9体で、追葬された家族墓とみられている。また、鉄鏃や須恵器の坏、平瓶と土師器の破片等が出土している¹¹⁾。古墳時代前期には弥生時代の伝統をひく組合式箱式石棺墓が見られ、後期になると大嶺盆地周縁に横穴式石室をもつ古墳が多く構築されるのがこの地域の特徴であるといえよう。古墳時代の集落跡としては上領遺跡が知られている。土製の勾玉や、祭祀用に使われたと推定される土師器が多数出土している。さらに、弥生時代後期の土器を出土するとともに、土師器を伴う炉跡のある住居跡が確認されている¹²⁾。今回の発掘調査で、更に詳しくかつてのこの地の様子が浮き彫りになることが期待される。この他の集落跡と考えられているものには、大嶺町向原の向原遺跡、伊佐町内川の内川遺跡、伊佐町広下の広下遺跡などがある。いずれも平地周縁の沖積低地や丘陵部に立地している。

大化2年(646年)、新政権は改新の詔を発して、これまでの国造の国を再編成し、新しく全国を国に分けて、国の下に評(後に郡と改称)、評の下には里(後に郷と改称)を置き、初めて公地公民の理念による地方行政組織の確立に着手した。穴門国(後に長門国と改称)はこのとき阿武と穴門の両国を合わせて新しく成立した。国衙は豊浦郡の長府に置かれた。美祢郡は穴門国の一部であったことが「和名類聚抄」より分かり、現在の美祢市域は美祢郡の西部に位置している。美祢郡には、美祢・すずろ 湊・いさ 位佐・かま 賀萬・あづ 阿津・あきふ 意福(於福)・くけ 久喜の7郷があったと考えられている。このうちの美祢・位佐・阿津・意福の4郷に稲妻郷¹³⁾に属していた豊田前町を加えた地域が現在の美祢市域に一致している。「延喜式」の諸国駅伝馬の項により、山陽道と山陰道を結ぶ陰陽連絡小路沿いに、美祢市域には阿津・鹿野(大嶺に所在か)・意福の駅屋が設けられたとみられる。美祢郡の郡家(郡衙)は現在の美祢市大嶺町内にあったと思われる、その場所は明確でないが、郡の長官である郡司には「大領」・「少領」・「主政」・「主帳」と呼ぶ4部官があったことから、この中の「大領」・「少領」の名により、大嶺町東分の上領・下領の付近が想定されている。また、大嶺の地名は大領のいたことからついたとも考えられている。美祢市域には各地に「坪」の地名が残っており、伊佐町伊佐の野崎や大嶺町の曾根から吉則にかけては美祢条里の痕跡がみられるが、開発時期は不明である。

平安時代末から中世にかけて、大嶺・伊佐・於福の荘園は京都石清水八幡宮領で、厚保の一部が厚狭郡正法寺領であった。「正慶乱離志」によると、元弘3年(1333年)に石見の高津道性葉が10万国3千の大軍を率いて長門探題北条時直軍と大嶺で戦ったとされている。当時、大嶺の地頭は由利・河越両氏であった。南北朝時代も終わりに近づくと、長門守護大内弘世の勢力が荘園に及び、さらに文明年間(1469年～1487年)頃には大内の家臣である杉美作守重道が大嶺を支配する。この頃、連歌師宗祇が杉の館を訪ねていることが「筑紫道記」に書かれている。

江戸時代には美祿市域にあたる先美祿(厚狭川流域)は、毛利氏の萩藩(長州藩)領で、厚狭郡吉田に勘場を置く吉田宰判の支配下に属した。近世から明治にかけて先美祿の政治・経済の中心地として最も栄えたのは伊佐市で、その南に隣接する伊佐の徳定は家庭常備業の売業で広く知られた。近世の主要街道の一つだった赤間関街道(中道筋)は萩から先美祿を通り、赤間関(現下関市)に至り、河原宿と四郎ヶ原宿の2宿が設けられた。この街道は、馬関戦争に伴う諸隊や物資の移動に利用され、また、藩政府のいわゆる俗論派と戦うために奇兵隊が諸隊が北上したことで知られている。

明治12年(1879年)前美祿(厚東川流域)と先美祿は合して、美祿郡役所の統一行政管内となった。明治37年(1904年)に海軍省が無煙炭採掘を始め、国鉄美祿線が敷設され、大嶺炭田は活況を呈した。昭和29年(1954年)大嶺町・伊佐町・東厚保村・西厚保村・豊田前町・於福村の近隣6町村が合併して市制を施行した。その後、昭和33年(1958年)に厚狭郡楠町奥万倉の一部を、昭和62年(1987年)には豊浦郡豊田町殿敷の一部を編入し今日に至る。

以上、上領遺跡周辺の歴史を概観したが、東分上領から吉則にかけての大嶺地区は弥生時代以来、人々が定住し現代に至るまで、美祿の歴史の中で常に重要な位置を占めたことは確かかなようである。

註

- (1) 小野忠照「考古学上より観た秋吉台一台面の予察調査報告―」『秋吉台学術調査報告書』山口県教育委員会 1957年。(2) 註(1)に同じ。(3) 阿藤五郎「山口県秋吉台『コジキ穴』洞窟調査概報』『十周年記念研究集録』山口県立大嶺高等学校 1961年。阿藤五郎「秋吉台『コジキ穴』洞窟調査報告』『秋吉台科学博物館報告』第2号 秋吉台科学博物館 1963年。(4) これまで紀元前5～4世紀とされてきた弥生時代の開始期に関しては、国立歴史民俗博物館により炭素年代にもとづく新たな実年代が提起され、大きな議論を呼んでいる。(5) 河本芳久「原始時代』『美祿市史』美祿市 1982年。(6) 美祿市教育委員会編「中村遺跡緊急発掘調査報告書』1967年。(7) 美祿市教育委員会編「美祿市首根遺跡調査概報』産炭地域振興事業団 1972年。(8) 橋崎悦夫・渡辺一雄編「砂地岡遺跡』『山口県埋蔵文化財調査報告』第160集 財団法人山口県教育財団 山口県教育委員会 1993年。(9) 谷口哲一編「上ノ山遺跡』『山口県埋蔵文化財調査報告』第168集 財団法人山口県教育財団 山口県教育委員会 1994年。(10) 山口県教育委員会文化課編「内川古墳・乗ノ尾遺跡』『山口県埋蔵文化財調査報告』第24集 山口県教育委員会 1974年。(11) 河本芳久編「横道古墳』『美祿市文化財資料』第2集 美祿市教育委員会 1974年。(12) 河本芳久氏の教示による。(13) 時期は不明であるが、稲妻郷は大津郡から豊浦郡に転置した。

引用・参考文献

- 美祿市史編集委員会編『美祿市史』美祿市 1982年。
美祿市郷土文化研究会編『美祿市の文化財』美祿市教育委員会 2001年。
小野忠照『山口県の考古学』吉川弘文館 1985年。
河本芳久・藤田忠夫・池田善文編『南原寺遺跡第1次発掘調査概報』美祿市教育委員会 1983年。
河本芳久編『東分中村経塚』美祿市教育委員会 2000年。
奈良本辰也・三坂圭治監修『山口県の地名』『日本歴史地名大系』第36巻 平凡社 1980年。
臼杵華臣・小川國治・三浦肇監修『山口県風土記』旺文社 1990年。

調査の経緯と概要

一般県道湯ノ口美祿線道路改良（宅地関連）工事に先立ち、山口県教育委員会は、平成14年度に埋蔵文化財の有無について、事前の試掘調査を行った。その結果、遺跡の埋存が確認されたため、関係機関と協議を行い、現状保存が困難な美祿市大嶺町大字東分字上領地内の3,200㎡の地域について発掘調査を行うことになった。調査は、山口県の委託により財団法人山口県教育財団が実施することになった。

平成15年4月上旬に、発掘調査を始めるにあたって、山口県美祿土木事務所等、関係機関と綿密な打ち合わせを行うとともに、近隣の小中学校・警察署・消防署等に安全確保のための理解と協力を要請した。また、調査区の確認や事務所用地・排土場の確保、業者との打ち合わせ等諸準備をすませ、発掘調査の日程的な計画を立てた。

調査区は、細長く連続したものであったが、南西側の標高の低い地区を1地区（1A、1B、1C、1D）、農業用水路で隔てられた東側の地区を2地区（2A、2B）、北東側の山の斜面にかかっている地区を3地区（3A、3B）とした。

5月上旬に各地区にトレンチを設定し、逐次遺構面を確認した。同時に農業用水路の迂回に伴って消失する場所の調査を先行して行った。なお、最も山側の3B地区では、遺構面までの深さと安全面を考慮して、トレンチ調査のみとし、重機による表土除去を3A地区から開始した。そして、表土除去が終了した地区から遺構検出作業を行った。その結果、1地区には、1A地区と1B地区西側、ならびに1D地区に遺物包含層が広がること、2地区は、南西から南東側にかけて遺物包含層が広がることがわかった。また、2B地区を除くすべての地区から多くの遺構を確認した。一方、遺構検出作業と並行して、転落事故防止のために、道路と調査区の間には杭を打ちロープを張ったりする防災作業も行った。



重機による表土除去作業

6月中旬に国土座標を設置し、その後平板測量を行った。遺構の掘り込み作業は、遺物包含層上面に検出された遺構から着手した。その結果、1地区は主に中世の遺構が分布しており、2地区には主に古代の遺構が分布していることがわかった。

ここまで順調に作業は進んでいたが、6月中旬からの梅雨と台風の影響で雨天の日が増えたことからその後の作業を悩ますこととなった。地形的に低く、水の排出口がない1A地区と1B地区西側、1C地区は完全に冠水することもあったので、ポンプで水を汲み上げ排水溝に流していた。しかし、近年まれにみる集中豪雨により、隣家の畑や溝に水が流れ込む危険性が出てきたので、調査区



遺構掘り込み作業

の周囲に土嚢を積み上げたり、排水経路を変更したりすることで対応していった。

7月上旬、地元の重安小学校の発掘体験学習の予定であったが、前日までの雨のため掘り込みを中止し、学校で「遺跡とむかしの暮らし」についての出前授業を行った。子供たちは提示された土器や石器に興味関心をもった様子であったが、発掘体験ができないのを残念がっていた。



空中写真撮影

7月下旬からの猛暑では、作業員の方々の健康面への影響が心配されたので、適切な労務管理に配慮しながら、慎重に休憩の回数を増やして作業を進めた。

8月上旬には一部を除いて、地山面の遺構の掘り込みもほぼ終了した。その結果、調査区全体にわたって中世の集落跡、重複して1B、1D、2A地区には古代の集落も存在したことがわかった。

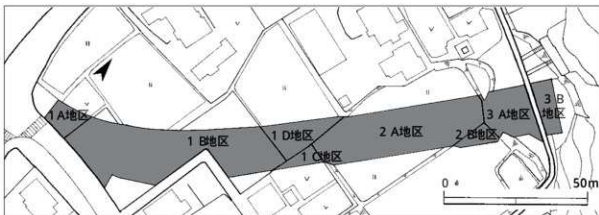
そして、8月下旬には、現地説明会を実施した。地元の人を中心に100人を越える参加者があった。熱心に説明に耳を傾け、遺物や遺構を見る姿から、遺跡に対する関心の高さがうかがえた。

9月上旬には、雨天のため延期になっていた空中写真撮影も無事終了した。その後、完掘状況のグリッド実測と平行して、遺物包含層の広がる1A、1B地区西側、並びに1D地区についてはトレンチで地山面を確認し、包含層の除去作業を進めていった。思った以上に包含層は厚く、多くの労力を要した。しかし、包含層の土色にまぎれていた遺構を多く発見するとともに、1B地区南西部の地山面より弥生時代の遺構が確認できた。9月中旬には、すべての掘り込みを終了。9月下旬に現地確認の上、図面整理等も済ませ、すべての現地調査を完了した。

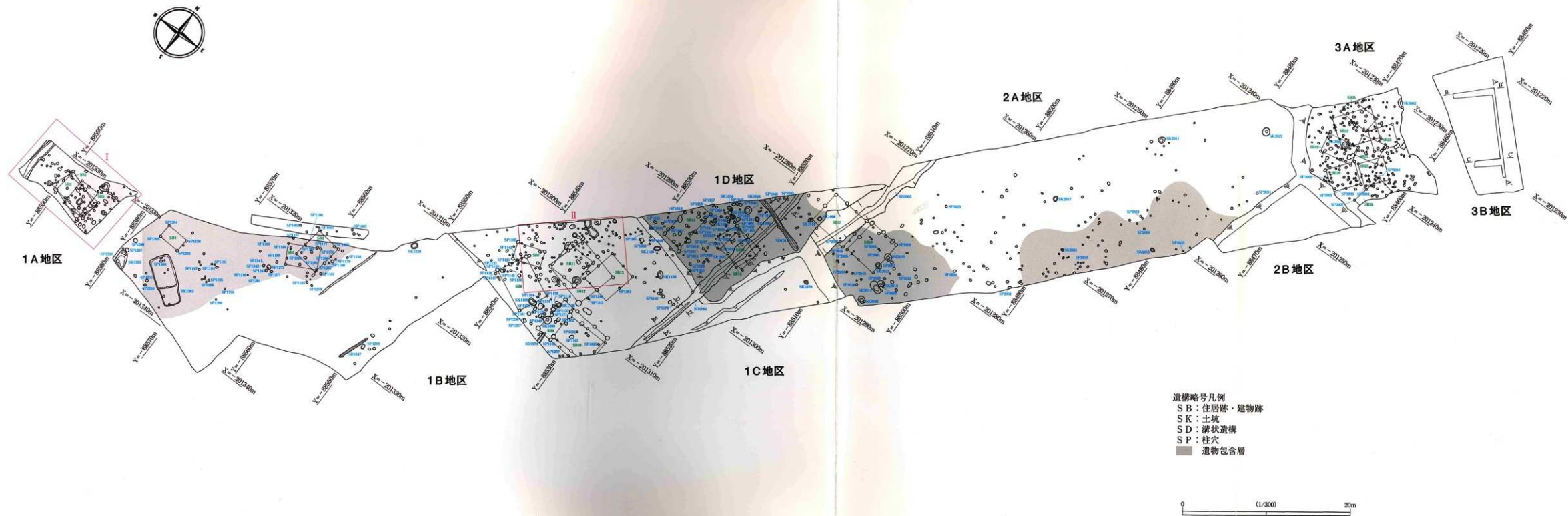


現地説明会

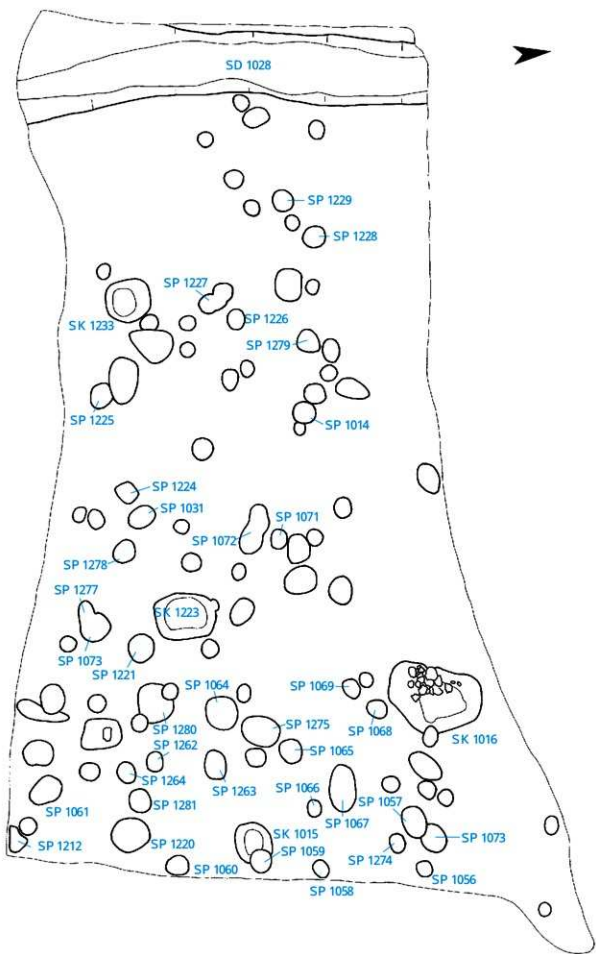
その後、山口県埋蔵文化財センターにおいて、出土遺物の洗浄・復元と実測、遺物の写真撮影を行い、資料を整理し、この報告書を刊行した。



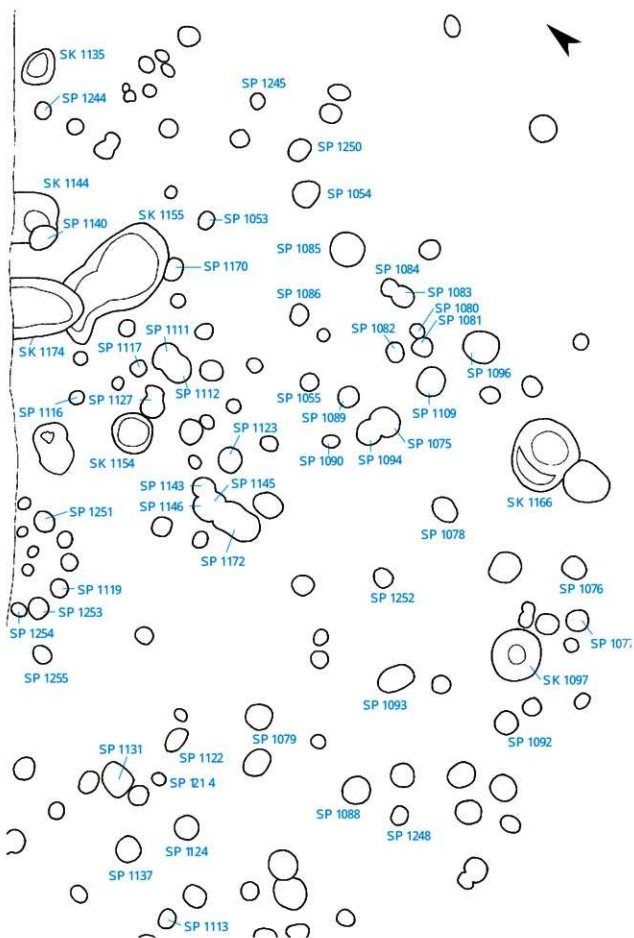
第2図 調査区設定図



第3図 遺構配置図



第3圖 -



第 3 圖 -

遺 構

今回の発掘調査で検出された主な遺構は、掘立柱建物跡26棟、土坑38基、溝状遺構6条、柱穴約1,100個である。これらは、出土遺物などからみて弥生時代及び古代から中世にかけての遺構である。南西側の標高の低い1A地区と1B地区南西側に遺物包含層が広がる。この包含層上面から1B地区北東側にかけては、主に中世の遺構が分布している。また、この包含層下には弥生時代前期後半の遺構が分布している。一段高くなっている1D地区、2A地区南西側、及び2A地区南東側にも遺物包含層が広がっている。包含層上に古代から中世にかけての遺構が分布している。後世の削平を受けたと考えられる2B地区からは、遺構は確認できなかった。北東側の山裾に位置する3A地区は、中世の遺構が分布している。3B地区は、トレンチ調査の結果、遺構は確認できなかった。

1 掘立柱建物跡(第4図～9図、図版3)

今回の調査で1,000を超える柱穴が検出され、その配列関係から26棟の掘立柱建物が復元できた(第1表)。建物は1A、1B、1D、2A、3A地区で確認された。その中でも後世の削平が少ないと考えられる1B地区東側と3A地区に集中した。建物は1間1間が6棟、2間1間が12棟、2間2間が6棟、3間2間が2棟で比較的小規模なものが大半を占める。建物は全て身舎のみのもので、庇が付属したものはない。掘立柱建物を構成する柱穴から出土した遺物より時代を確定できたものは15棟であった。古代のものが3棟、中世のものが12棟である。中世の建物には棟方向に規則性を看取できない。また、相対的に古代の建物の方が中世の建物より面積が広い傾向にある。以下、詳細を述べる。

S B 1(第4図) 1A地区に位置する2間1間の建物である。S B 2、S B 3と重なり合う。規模は桁行長5.00m、梁行長2.90mで、平面形は長方形である。面積は14.5㎡。棟方向はN69°W。柱穴の大きさは長径26～62cm、深さは16～22cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。

S B 2(第4図) 1A地区に位置する2間1間の建物である。S B 1、S B 3と重なり合う。規模は桁行長4.70m、梁行長2.40mで、平面形は長方形である。面積は11.3㎡。棟方向はN81°W。柱穴の大きさは長径33～64cm、深さは8～42cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。

S B 3(第4図) 1A地区に位置する2間1間の建物である。S B 1、S B 2と重なり合う。規模は桁行長3.54m、梁行長2.52mで、平面形は長方形である。建物の西面中央の柱穴は確認できなかった。面積は8.9㎡。棟方向はN3°W。柱穴の大きさは長径22～29cm、深さは8～23cmである。柱穴からは陶器が出土しているが、時代は不明である。

S B 4(第4図) 1B地区南西側に位置する1間1間の建物である。規模は桁行長2.74m、梁行長1.74mで、平面形は長方形である。面積は4.8㎡。棟方向はN86°W。柱穴の大きさは長径32～38cm、深さは28～38cmである。柱穴からは弥生土器、土師器、須恵器(坏蓋)、瓦質土器(足筒)、鉄製品(鉄釘27)が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 5(第4図) 1B地区南西側に位置する2間1間の建物である。S B 6と重なり合う。規模は桁行長3.96m、梁行長2.60mで、平面形は長方形である。建物の東面中央の柱穴は確認できなかった。面積は10.3㎡。棟方向はN62°E。柱穴の大きさは長径20～30cm、深さは10～20cmである。柱穴

からは土師器（坏3）が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 6（第4図） 1 B地区南西側に位置する2間 1間の建物である。S B 5と重なり合う。規模は桁行長3.92m、梁行長3.18mで、平面形は長方形である。面積は12.5㎡。棟方向はN7 E。柱穴の大きさは長径23～42cm、深さは10～46cmである。柱穴からは弥生土器、土師器、須恵器（坏蓋）、瓦質土器（焙烙76）青磁が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 7（第5図） 1 B地区北東側に位置する1間 1間の建物である。S B 8と重なり合う。規模は桁行長3.48m、梁行長2.10mで、平面形は長方形である。面積は7.3㎡。棟方向はN73 E。柱穴の大きさは長径34～52cm、深さは18～53cmである。柱穴からは土師器、青磁（碗4）が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 8（第5図） 1 B地区北東側に位置する2間 2間の建物である。S B 7と重なり合う。規模は桁行長5.44m、梁行長3.80mで、平面形は長方形である。建物の西面中央の柱穴は攪乱坑と、南面中央の柱穴はS K 1169と重複し確認できなかった。面積は20.7㎡。棟方向はN63 W。柱穴の大きさは長径27～42cm、深さは10～64cmである。柱穴からは土師器、須恵器が出土しているが、時代は不明である。

S B 9（第5図） 1 B地区北東側に位置する。S B 10と重なり合う。3間 2間の建物としているが、調査区境に位置しているので確実ではない。規模は桁行長6.76m、梁行長4.76mで、平面形は長方形である。面積は32.2㎡で、今回の調査では最大である。棟方向はN83 W。柱穴の大きさは長径32～60cm、深さは23～38cmである。柱穴から土師器、須恵器が出土している。この建物は古代に比定される。

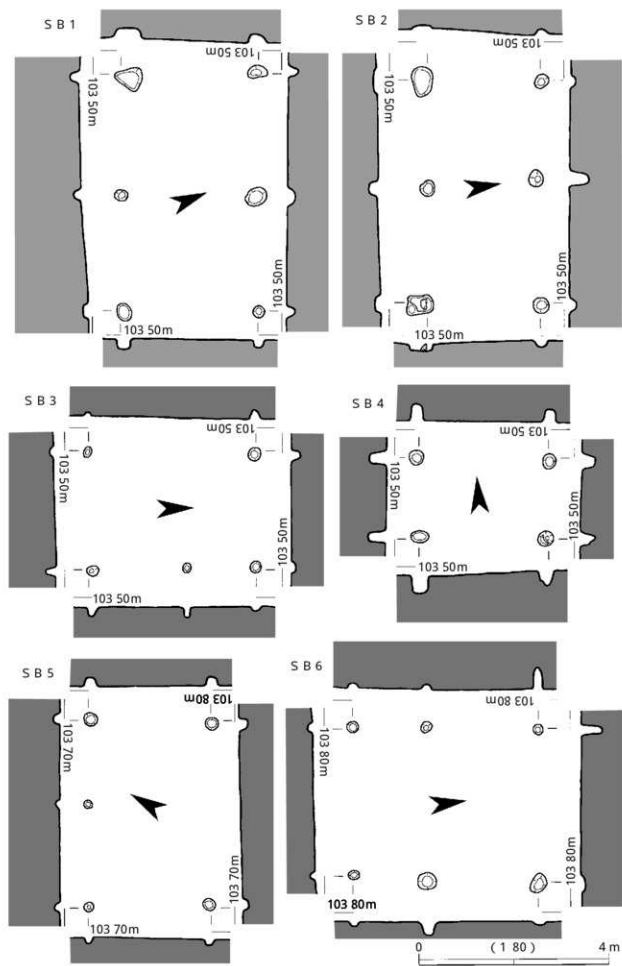
S B 10（第5図） 1 B地区北東側に位置する。S B 9と重なり合う。2間 1間の建物としているが、調査区境に位置しているので確実ではない。規模は桁行長5.28m、梁行長3.34mで、平面形は長方形である。面積は17.6㎡。棟方向はN88 W。柱穴の大きさは長径26～68cm、深さは10～38cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。

S B 11（第6図） 1 B地区北東側に位置する2間 2間の建物である。S B 12と重なり合う。規模は桁行長3.70m、梁行長3.62mで、平面形は正方形に近い。面積は13.4㎡。棟方向はN88 W。柱穴の大きさは長径26～68cm、深さは7～50cmである。柱穴からは土師器、須恵器が出土している。この建物は中世に比定される。

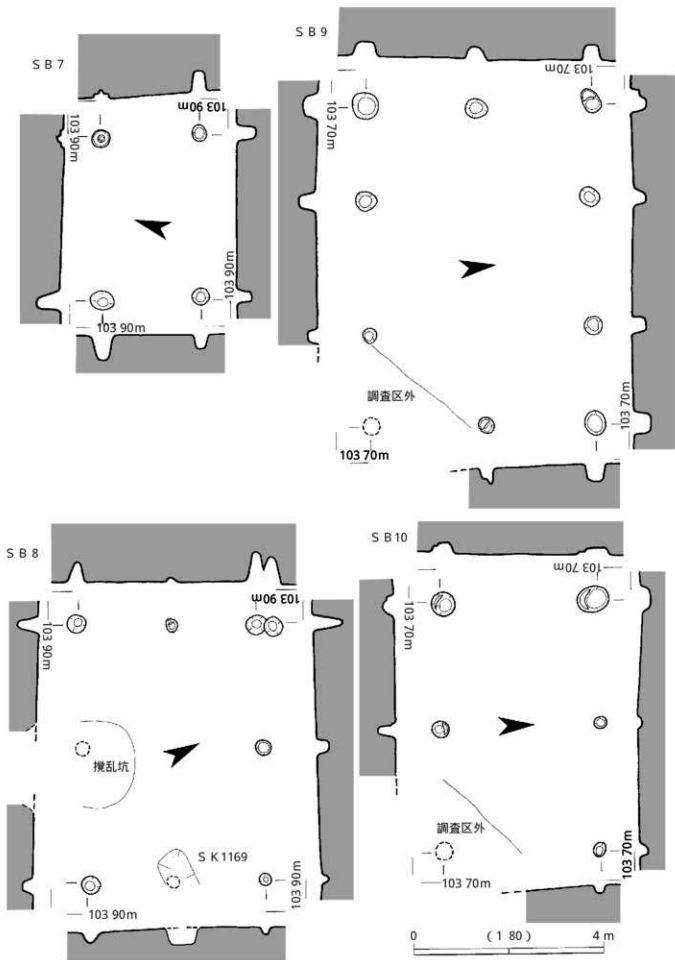
S B 12（第6図） 1 B地区北東側に位置する2間 2間の建物である。S B 11、S B 13と重なり合う。規模は桁行長5.80m、梁行長5.14mで、平面形は長方形である。面積は29.8㎡。棟方向はN74 W。柱穴の大きさは長径30～74cm、深さは16～66cmである。柱穴からは土師器（皿6）、須恵器（甕）、瓦質土器、鉄製品（鉄釘228）が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 13（第6図） 1 B地区北東側に位置する2間 2間の建物である。S B 12と重なり合う。規模は桁行長4.54m、梁行長3.68mで、平面形は長方形である。建物の南東端の柱穴は攪乱坑と重複し確認できなかった。面積は16.7㎡。棟方向はN13 E。柱穴の大きさは長径16～42cm、深さは12～94cmである。この建物を構成するS P 1261には柱根12が残存していた。柱穴からは鉄製品（鉄釘10、11）が出土しているが、時代は不明である。

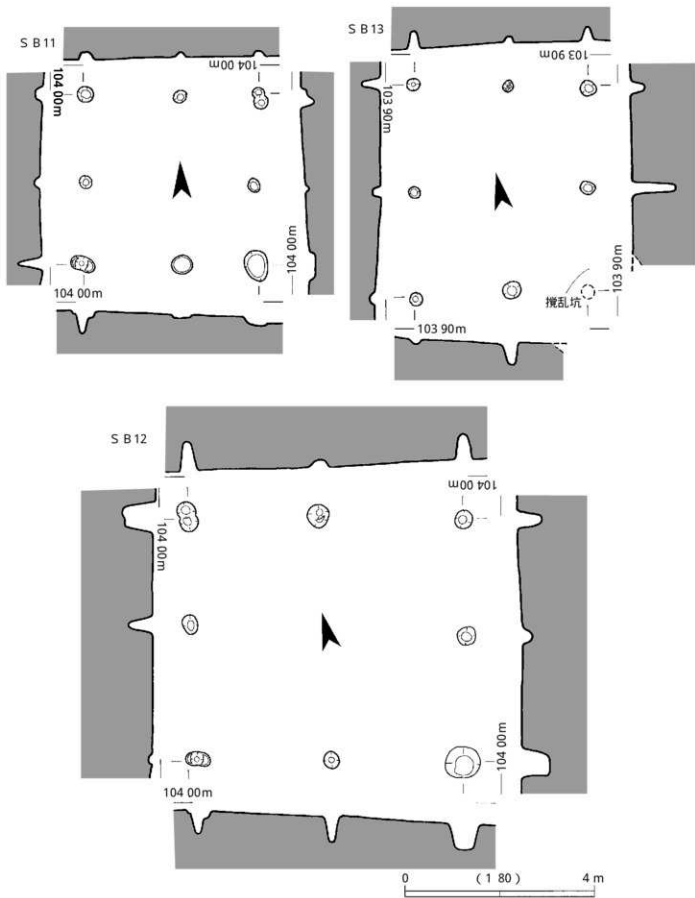
S B 14（第7図、図版3） 1 D地区南西側に位置する。2間 1間の建物としているが、調査区境



第4図 掘立柱建物跡実測図



第5図 掘立柱建物跡実測図



第6図 掘立柱建物跡実測図

に位置しているので確実ではない。規模は桁行長5.54m、梁行長2.60mで、平面形は長方形である。面積は14.4㎡。棟方向はN5 E。柱穴の大きさは長径28～86cm、深さは23～32cmである。柱穴からは土師器、須恵器が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 15（第7図、図版3） 1 D地区東側に位置する2間 1間の建物である。S B 16と重なり合う。規模は桁行長4.38m、梁行長2.72mで、平面形は長方形である。建物の東面中央の柱穴は確認できなかった。面積は11.9㎡。棟方向はN66 W。柱穴の大きさは長径22～48cm、深さは7～28cmである。柱穴からは土師器（坏7、皿8）須恵器が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 16（第7図、図版3） 1 D地区東側に位置する1間 1間の建物である。S B 15と重なり合う。規模は桁行長3.58m、梁行長3.38mで、平面形は正方形に近い。面積は12.1㎡。棟方向はN82 W。柱穴の大きさは長径26～42cm、深さは14～45cmである。柱穴からは土師器が出土している。この建物は中世に比定される。

S B 19（第7図） 3 A地区南西側に位置する2間 1間の建物である。S B 20、S B 22、S B 24と重なり合う。規模は桁行長3.86m、梁行長2.36mで、平面形は長方形である。面積は9.1㎡。棟方向はN78 E。柱穴の大きさは長径21～32cm、深さは15～24cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。

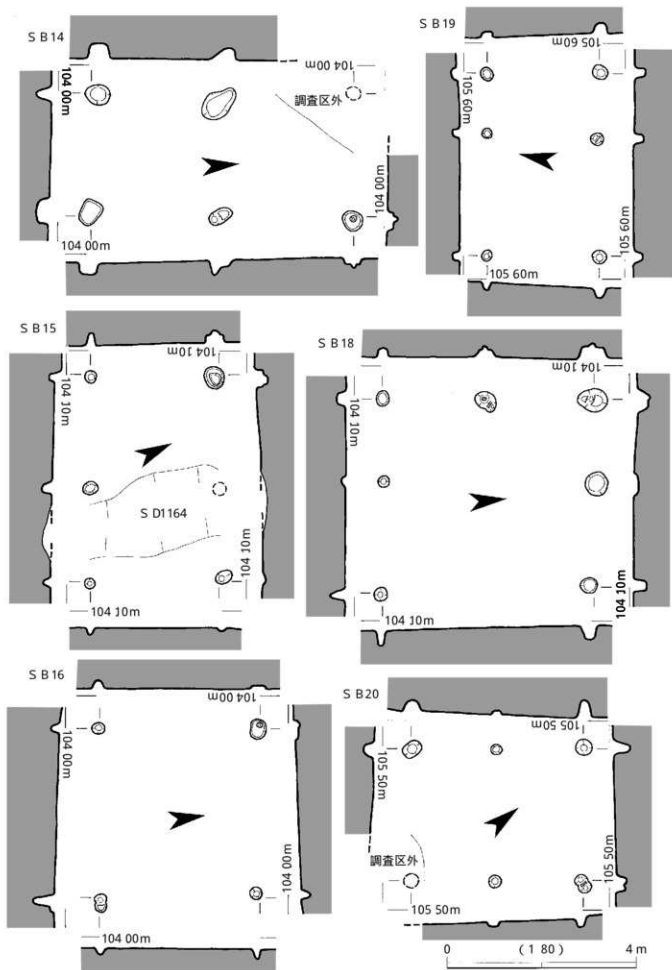
S B 18（第7図、図版3） 2 A地区南西側、S B 17の東に位置する2間 2間の建物である。規模は桁行長4.46m、梁行長3.06mで、平面形は長方形である。建物の東面中央の柱穴は確認できなかった。面積は13.6㎡。棟方向はN6 E。柱穴の大きさは長径26～52cm、深さは10～34cmである。柱穴からは土師器、須恵器（坏蓋9）が出土している。この建物は古代に比定される。

S B 20（第7図） 3 A地区南側に位置する。S B 19と重なり合う。2間 1間の建物としているが、調査区境に位置しているので確実ではない。規模は桁行長3.64m、梁行長2.78mで、平面形は長方形である。面積は10.1㎡。棟方向はN38 E。柱穴の大きさは長径22～44cm、深さは9～38cmである。柱穴からは土師器が出土している。この建物は中世に比定される。

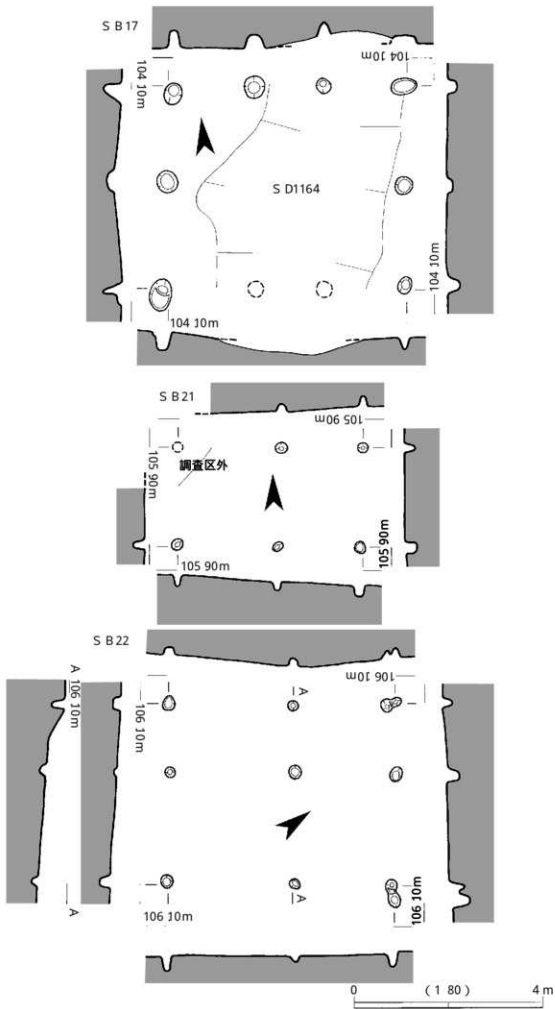
S B 17（第8図、図版3） 1 D・2 A地区、S B 18の西に位置する3間 2間の建物である。規模は桁行長5.02m、梁行長4.30mで、平面形は長方形である。建物の西面の2柱穴は確認できなかった。面積は21.6㎡。棟方向はN84 W。柱穴の大きさは長径32～55cm、深さは12～44cmである。柱穴からは土師器、須恵器が出土している。この建物は古代に比定される。同時代の建物と考えられるS B 9とは棟方向がほぼ等しい。また、隣接するS B 18とは棟方向が直行し、同時期に並存していた可能性がある。

S B 21（第8図） 3 A地区北西側に位置する。S B 22と重なり合う。2間 1間の建物としているが、調査区境に位置しているので確実ではない。規模は桁行長3.90m、梁行長2.10mで、平面形は長方形である。面積は8.2㎡。棟方向はN88 E。柱穴の大きさは長径22～26cm、深さは17～26cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。

S B 22（第8図） 3 A地区北西側に位置する2間 2間の総柱建物である。S B 19、S B 21、S B 23、S B 24と重なり合う。規模は桁行長4.78m、梁行長3.84mで、平面形は長方形である。面積は18.4㎡で、3 A地区では最も大きい。棟方向はN36 E。柱穴の大きさは長径22～34cm、深さは8～34cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。



第7図 掘立柱建物跡実測図



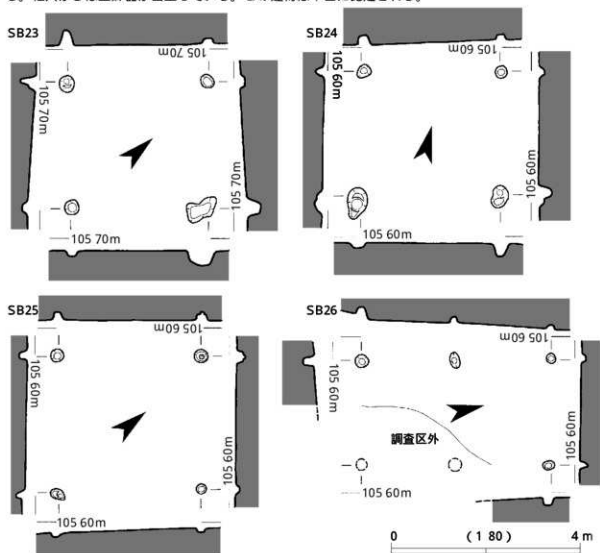
第 8 図 掘立柱建物跡実測図

SB23（第9図） 3A地区北側に位置する1間 1間の建物である。SB22、SB24と重なり合う。規模は桁行長2.96m、梁行長2.68mで、平面形は正方形に近い。面積は7.9㎡。棟方向はN41°E。柱穴の大きさは長径30～32cm、深さは10～32cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。

SB24（第9図） 3A地区中央に位置する1間 1間の建物である。SB19、SB22、SB23、SB25と重なり合う。規模は桁行長2.94m、梁行長2.62mで、平面形は正方形に近い。面積は7.7㎡。棟方向はN75°E。柱穴の大きさは長径25～44cm、深さは12～28cmである。柱穴から出土した遺物はなく、時代は不明である。

SB25（第9図） 3A地区南東側に位置する1間 1間の建物である。SB24、SB26と重なり合う。規模は桁行長3.00m、梁行長2.86mで、平面形は正方形に近い。面積は8.6㎡。棟方向はN39°E。柱穴の大きさは長径21～32cm、深さは10～20cmである。柱穴からは土師器が出土している。この建物は中世に比定される。

SB26（第9図） 3A地区南東側に位置する。SB25と重なり合う。2間 1間の建物としているが、調査区境に位置しているので確実ではない。規模は桁行長4.00m、梁行長2.22mで、平面形は長方形である。面積は8.9㎡。棟方向はN12°E。柱穴の大きさは長径20～34cm、深さは11～30cmである。柱穴からは土師器が出土している。この建物は中世に比定される。



第9図 掘立柱建物跡実測図

第1表 掘立柱建物跡一覧表

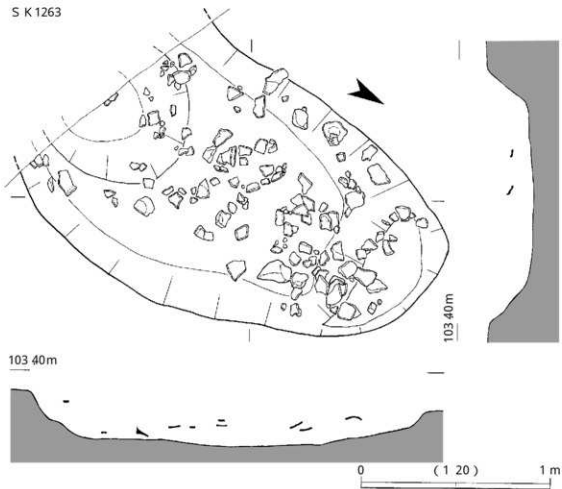
地区	遺構 番号	規模 (間)	棟方向	柱 間		出土遺構	時代	備 考		
				桁 行	梁 行					
				建物の南西隅から (m)	建物の南西隅から (m)					
1	1A	SB1	2	1	N69 W	5.00 (2.40・2.60)	2.90			
2	1A	SB2	2	1	N81 W	4.70 (2.50・2.20)	2.40			
3	1A	SB3	2	1	N3 W	3.54 (1.46・2.08)	2.52	陶器		北東隅から
4	1B	SB4	1	1	N86 W	2.74	1.74	弥生土器、土師器 須惠器 (环蓋) 瓦質土器 (足鍋) 鉄製品 (鉄釘227)	中世	
5	1B	SB5	2	1	N62 E	3.96 (2.20・1.76)	2.60	土師器 (环3)	中世	
6	1B	SB6	2	1	N7 E	3.92 (1.56・2.36)	3.18	弥生土器、土師器 須惠器 (环蓋) 瓦質土器 (焙烙76) 青磁	中世	
7	1B	SB7	1	1	N73 E	3.48	2.10	土師器、青磁 (碗4)	中世	
8	1B	SB8	2	2	N63 W	5.44 (2.64・2.80)	3.80 (1.94・1.86)	土師器、須惠器		北東隅から
9	1B	SB9	3	2	N83 W	6.76 (2.00・2.76・2.00)	4.76 (2.38・2.38)	土師器、須惠器	古代	北東隅から
10	1B	SB10	2	1	N88 W	5.28 (2.64・2.64)	3.34			北東隅から
11	1B	SB11	2	2	N88 W	3.70 (1.62・2.08)	3.62 (1.70・1.92)	土師器、須惠器	中世	
12	1B	SB12	2	2	N74 W	5.80 (2.86・2.94)	5.14 (2.76・2.38)	土師器 (皿6)、須惠 器 (俵)、瓦質土器 鉄製品 (鉄釘228)	中世	
13	1B	SB13	2	2	N13 E	4.54 (2.24・2.30)	3.68 (2.04・1.64)	鉄製品 (鉄釘10、11) 木製品 (柱根12)		北西隅から
14	1D	SB14	2	1	N5 E	5.54 (2.60・2.94)	2.60	土師器、須惠器	中世	南東隅から
15	1D	SB15	2	1	N66 W	4.38 (1.98・2.40)	2.72	土師器 (环7、皿8) 須惠器	中世	
16	1D	SB16	1	1	N82 W	3.58	3.38	土師器	中世	
17	1D ・ 2A	SB17	3	2	N84 W	5.02 (1.86・1.42・1.74)	4.30 (2.06・2.24)	土師器、須惠器	古代	北東隅から
18	2A	SB18	2	2	N6 E	4.46 (2.14・2.32)	3.06 (1.76・2.30)	土師器 須惠器 (环蓋9)	古代	
19	3A	SB19	2	1	N78 E	3.86 (2.54・1.32)	2.36			
20	3A	SB20	2	1	N38 E	3.64 (1.84・1.80)	2.78	土師器	中世	北西隅から
21	3A	SB21	2	1	N88 E	3.90 (1.76・2.14)	2.10			
22	3A	SB22	2	2	N36 E	4.78 (2.64・2.14)	3.84 (1.46・2.38)			
23	3A	SB23	1	1	N41 E	2.96	2.68			
24	3A	SB24	1	1	N75 E	2.94	2.62			
25	3A	SB25	1	1	N39 E	3.00	2.86	土師器	中世	
26	3A	SB26	2	1	N12 E	4.00 (2.04・1.96)	2.22	土師器	中世	北西隅から

2 土坑（第10～15図、図版5～8）

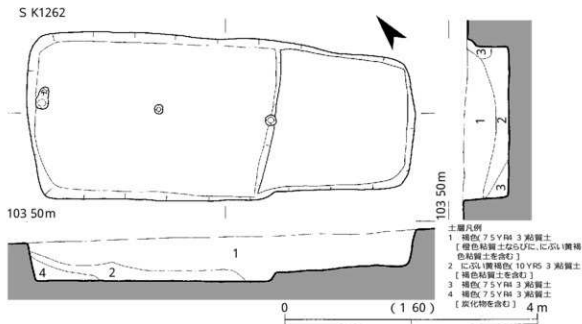
今回の調査で、38基の土坑が確認された。内訳は1地区26基、2地区10基、3地区2基。平面形は、楕円形21基、円形5基、隅丸長方形3基、隅丸方形2基、不整形7基であった。出土物から、遺構の時期は、弥生時代が4基、古代が6基、中世が8基、時期不明が20基である。1A地区、1B地区南西側遺物包含層上には中世の土坑が分布し、その下には弥生時代の土坑が分布している。また、1D地区遺物包含層上、2A地区南西側から南東側にかけての遺物包含層上には、古代～中世にかけての土坑が分布している。以下代表的なものを取り上げる。

S K 1263（第10図、図版5） 1B地区南西側の遺物包含層下に位置する。調査区外へ広がるが平面形は楕円形と推定される。規模は、長軸が残存長で193cm、短軸が138cm、深さは43cm。床面は、ほぼフラットであるが、南側に落ち込みがある。埋土は、黒褐色粘質土の単層だが、赤褐色粘質土のブロックや炭化物も見られた。弥生土器の壺（22～25）、甕（26～34）、黒曜石などが多量に出土しており、弥生時代前期後半の土坑ではないかと考えられる。

S K 1262（第11図、図版6） 1B地区南西側の遺物包含層下に位置する。平面形は隅丸長方形。規模は、長軸608cm、短軸258cm、深さ82cm。床面はフラットで、壁は垂直に落ちている。東側が段状に一段高く、西側中央に一列に並んだ柱穴が見られ屋根付きの施設の可能性がある。弥生土器の壺（13～17）、甕（18～21）が出土しており、弥生時代前期後半の貯蔵穴ではないかと考えられる。



第10図 S K 1263実測図

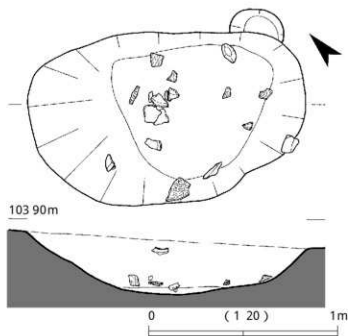


第11図 S K1262実測図

S K2014 (第12図、図版7) 2 A地区南西側の遺物包含層上に位置する。平面形は楕円形。規模は、長軸146cm、短軸90cm、深さ33cm。須恵器の坏蓋(41、42)、短頸壺(43)の他、タキ目や当て具の痕が見られる須恵器片や、土師器の甕(44)流れ込んだと考えられる弥生土器が出土した。規模や土器の出土状態から、平安時代の土坑ではないかと考えられる。

S K2001 (第13図、図版7) 2 A地区中央部南東側の遺物包含層上に位置する。平面形は、楕円形。規模は、長軸37cm、短軸32cm、深さ10cmと小規模である。環状つまみの須恵器の坏蓋(45)が出土した。時期は、奈良時代後半～平安時代前半にかけてと比定できる。

S K2012 (第13図、図版7) 2 A地区南西部の遺物包含層上に位置する。平面形は、不整形。規模は、長軸70cm、短軸63cm、深さは13cm。埋土は、黒褐色粘質土の単層。ヘラ書きで「大」の字を刻むSK2014



第12図 S K2014実測図

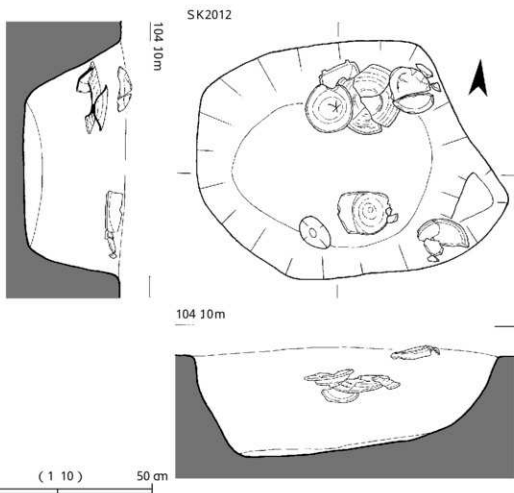
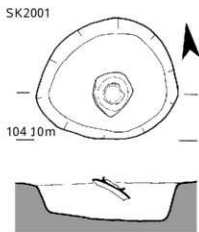
須恵器の坏蓋(35)を始め、坏蓋(36、37)、坏身(38、39)、皿(40)などの須恵器が、上層より重なり合うようにして出土した。時期は、奈良時代後半～平安時代前半にかけての土坑ではないかと考えられる。

S K1016 (第14図、図版8) 1 A地区北東側、遺物包含層上に位置する。平面形は不整形。規模は、長軸130cm、短軸94cm、深さ16cm。西側部分に集石が見られ、その周辺から、瓦質土器の足鏝の脚部(49)や溜鉢、鉄製品(226)の他に、弥生土器、須恵器、土師器などが出土した。時期は、室町時代と比

定できる。

S K 1012 (第14図) 1 D地区北東側、遺物包含層上に位置する。北東側部分を柱穴に切られるが、平面形は楕円形と推定される。規模は、長軸68cm、短軸50cm、深さ46cm。土師質土器の鍋(48)の口縁部が出土した。時期は、鎌倉～室町時代にかけてと比定できる。

S K 1015 (第14図、図版8) 1 A地区東側、



第13図 S K 2001、2012実測図

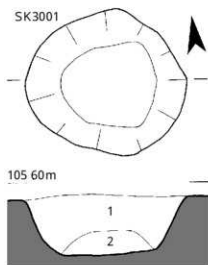
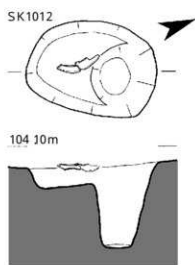
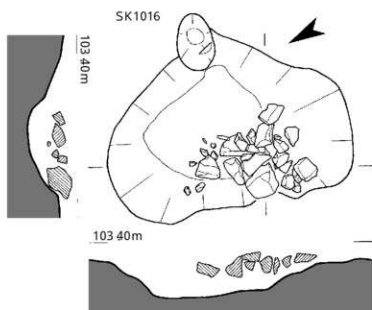
遺物包含層上に位置する。東側部分をS P 1059に切られるが、平面形は楕円形と推定される。土師質土器の鍋(47) 砥石(224) 土師器などが出土した。時期は鎌倉～室町時代にかけてと比定できる。

S K 3001 (第14図、図版8) 3 A地区の中央部に位置する。平面形は楕円形。規模は、長軸85cm、短軸78cm、深さ32cm。床面や側面が赤褐色に変色し、火を受けた痕跡が確認された。出土遺物はないが、下層の褐色粘質土中に炭化物が多く見られた。これらのことから火を使用した施設ではないかと考えられる。時期は不明である。

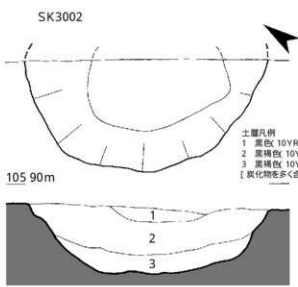
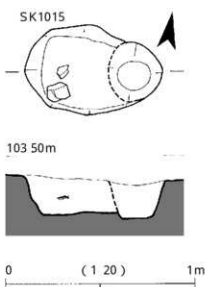
S K 3002 (第14図、図版8) 3 A地区北東部に位置する。北東半は、調査区外へ広がるが、平面形

は円形と考えられる。出土遺物は少ないが、上層と最下層の黒褐色粘質土中に炭化物が多く見られた。時期は不明である。

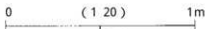
S K 1155 (第15図、図版8) 1 B地区北東側に位置する。北西側をS K 1174に切られているが、平面形は瓢箪のような不整形である。規模は、長軸は、残存長で182cm、短軸92cm、深さ22cm。埋土は、大部分が赤褐色粘質土で、床面が火を受け焼け締まっている。これらのことから、火を使用した施設ではないかと考



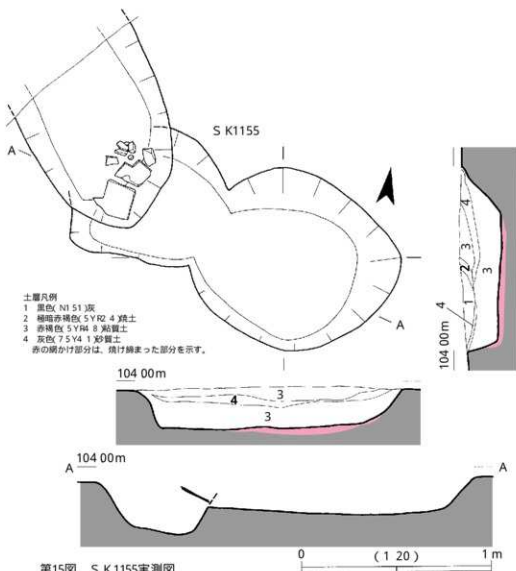
土層凡例
1 褐色(5YR4 3)粘質土
2 褐色(7.5YR4 3)粘質土
[炭化物を多く含む]



土層凡例
1 黒色(10YR1-7 1)炭化物
2 黒褐色(10YR3 2)粘質土
3 黒褐色(10YR3 2)粘質土
[炭化物を多く含む]



第14図 S K 1016、1012、1015、3001、3002実測図

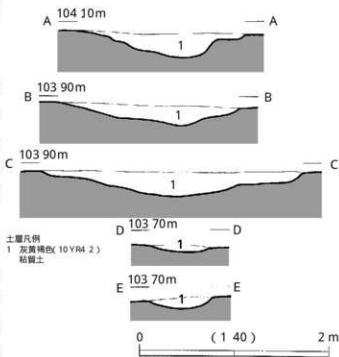


第15図 S K1155実測図

えられる。出土物がないので時期は不明である。

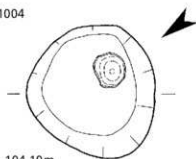
3 溝状遺構 (第16図、図版8)

1地区と2地区において6条の溝が確認された。いずれも浅く、水の流れた痕跡も見られない。S D1047以外は、調査区外へ延びるため、全容は明らかでない。5条は、北から南へ延び、1条は西から東へ延びる。以下、代表的なものを取り上げる。S D1164 (第16図、図版8) 1 D地区から1 B地区にかけて南北に走る、ほぼ直線の溝である。検出部分の長さは、1 D地区約18m、1 B地区約10mである。1 D地区でS D1017に切られる。1 B、1 D地区共

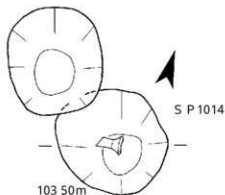


第16図 S D1164土層断面図

S P 1004

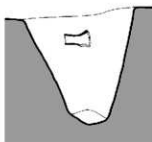


104 10m



S P 1014

103 50m



0 (1 10) 50cm

第17図 S P 1004、1014実測図

に後世の削平を受けていると考えられ、1 D地区の深さは10～26cm、1 B地区の深さは6～10cmと浅い。埋土は、灰黄褐色粘質土の単層。須恵器、白磁、青磁、土師器、打製石鏃(210)、鉄製品などが出土している。時期は中世と比定できる。

4 柱穴(第17～19図、図版8～10)

今回の調査では、掘立柱建物を構成するものを含む約1,100個の柱穴が検出された。内訳は、1地区約600個、2地区約200個、3地区約300個である。出土遺物が確認されたのは241個である。時期は、弥生時代から中世までであるが、ほとんどが中世であった。後世の削平の影響からか2 B地区では、確認できなかった。また、1 C地区、1 B地区中央部では、確認された柱穴が少なかった。S P 1004(第17図、図版8) 1 D地区中央部、遺物包含層上に位置する。平面形は円形。規模は、直径35cm、深さ19cm。須恵器の坏身(50)が出土した。時期は、奈良時代と比定できる。

S P 1014(第17図、図版9) 1 A地区中央部、遺物包含層上に位置する。北西側部分を柱穴に切られるが、平面形は楕円形と推測される。規模は、長軸は残存長で30cm、短軸は27cm、深さ29cm。陶器の瓶(72)、弥生土器、須恵器、土師器などが出土した。時期は、室町時代末と比定できる。

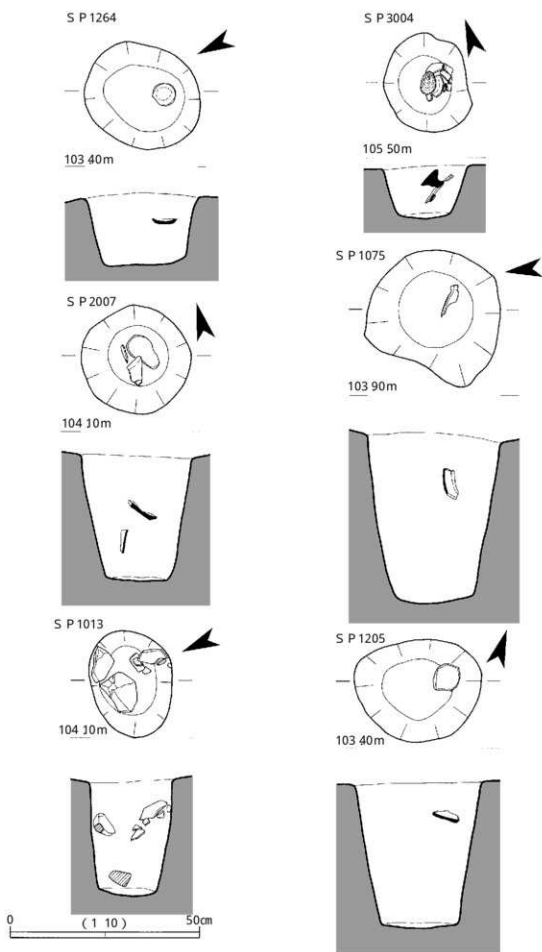
S P 1264(第18図、図版9) 1 A地区南東側、遺物包含層上に位置する。平面形は、楕円形。規模は長軸31cm、短軸27cm、深さ19cm。土師器の皿(67)や弥生土器が出土した。時期は、室町時代と比定できる。

S P 2007(第18図、図版9) 2 A地区南西側、遺物包含層上に位置する。平面形は、直径29cm、深さ33cm。土師器の坏(56、57)や須恵器が出土した。時期は室町時代と比定できる。

S P 1013(第18図、図版9) 1 D地区中央部、遺物包含層上、S B 15を構成する。平面形は楕円形。規模は、長軸27cm、短軸21cm、深さ31cm。土師器の坏(7)、皿(8)が出土した。石も混入していた。時期は、中世と比定できる。

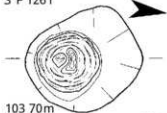
S P 3004(第18図、図版8) 3 A地区南東部に位置する。平面形は楕円形。規模は、長軸26cm、短軸22cm、深さ14cm。土師器の台付皿(55)が出土した。時期は12～13世紀のものとして比定できる。

S P 1075(第18図、図版9) 1 B地区北東側に位置する。平面形は不整形。規模は、長軸37cm、短

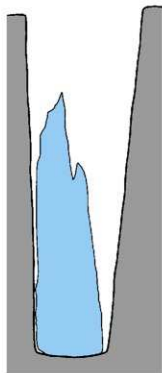


第18图 S P 1264、2007、1013、3004、1075、1205实测图

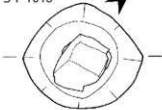
S P 1261



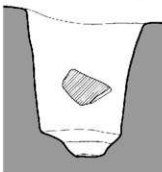
103.70m



S P 1018



104.10m



軸35cm、深さ45cm。瓦質土器の鍋(75)、土師器などが出土した。時期は、室町時代と比定できる。

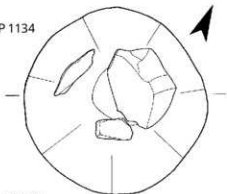
S P 1205 (第18図、図版9) 1B地区南西側、遺物包含層上、S B 4を構成する。平面形は、楕円形。規模は、長軸33cm、短軸27cm、深さ39cm。土師器の坏(1)や瓦質土器の足鍋(2)が出土した。時期は、室町時代と比定できる。

S P 1261 (第19図、図版10) 1B地区北東側、S B 13を構成する。平面形は楕円形。規模は、長軸31cm、短軸25cm、深さ92cm。柱根(12)が出土した。時期は不明である。

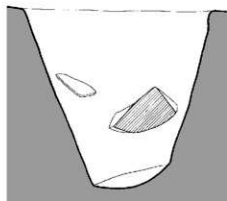
S P 1018 (第19図、図版9) 1D地区の南西側、遺物包含層上に位置する。平面形は円形。規模は、直径31cm、深さ39cm。土師質土器の鍋(70)が出土した。また、石が混入していた。時期は、平安時代と比定できる。

S P 1134 (第19図、図版9) 1B地区北東側に位置する。平面形は円形。規模は、直径48cm、深さ48cm。土師器が出土し、石が混入していた。時期は中世である。

S P 1134

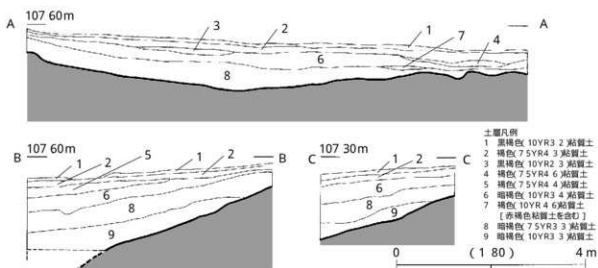


103.70m



0 (110) 50cm

第19図 S P 1261、1018、1134実測図



第20図 3B地区トレンチ土層断面図

5 3B地区トレンチ(第3図、第20図、図版10)

調査区北東側の3B地区に南東から北西方向(山の斜面に垂直方向)に約10.5mの長さのトレンチを1本、南西から北東方向(山の斜面の方向)に約5mと3mの長さのトレンチを2本設定した。

埋土は9層あり、地形に沿う形で堆積している。褐色粘質土の地山面までの深さは、南東側で約50cm、南西側では、150cm以上あった。地山面は、南西の方向に向かって低くなっており、高度が低くなるほど厚く堆積していた。出土遺物は、中世の土師器片が数点確認できた。地山面からは、遺構と考えられるものは検出されなかった。

6 遺物包含層(第3図、図版10)

調査区が舌状の低丘陵の付け根に位置しているため、地形的に低くなっている1A地区、1B地区南西側、及び、1D地区、2A地区南西側から南東側にかけて遺物包含層が広がる。1A、1B地区南西側の遺物包含層は、弥生時代の遺構を覆うもので、この遺物包含層を掘り込んだ中世の遺構がある。大きく2層に分かれ、出土遺物に時期差が見られる。上層からは、須恵器の坏蓋(108、109)、坏身(110~116)、長頸壺(117)、甕(118)、皿又は高坏(119)、壺(120)、瓦質土器の足鍋(121、122)、播鉢(123)、土師質土器の鍋(124)、土師器の坏(125、126)、皿(127)、白磁の碗(128、129)、石鉢(205)など、古代から中世にかけてのものと考えられる遺物が出土した。下層からは、弥生土器の壺(77~89)、甕(90~107)、打製石鏃(207、209、213)、石砲丁(223)などが出土した。1D地区、2A地区南西側から南東側にかけての遺物包含層は、包含層上に古代から中世にかけての遺構が見られるが、包含層の下からは遺構が検出されなかった。出土遺物は、ヘラ書きで文字を刻まれた須恵器の坏身(161)や円面硯(173)などがあり、郡家の関連施設等が近隣に存在していた可能性を示す。その他に、須恵器の坏蓋(130~150)、坏身(151~169)、高坏(170)、皿(171)、壺(172)、弥生土器の甕(174)、土師器の甕(175)、皿(176~180)、白磁の皿(181)、碗(182)、青磁の碗(183)、打製石鏃(206、208)、砥石(225)など幅広い時期のものが出土した。これらのことから、上領遺跡の遺物包含層は、弥生時代~中世にかけて長い年月をかけて堆積していったものと考えられる。

第2表 遺構一覧表

	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
1	1 B	S P 1001	円形	20	20	13	土師器	中世	S B 6を構成する。
2	1 B	S P 1002	楕円形	30	25	19	土師器、土師質土器(鍋)	中世	
3	1 B	S P 1003	円形	30	30	14	土師器	中世	
4	1 D	S P 1004	円形	35	35	19	須恵器(坏身50)	古代	
5	1 D	S P 1005	楕円形	30	24	31	土師器(皿62、坏? 63)、青磁(碗)	中世	
6	1 D	S P 1006	楕円形	38	34	43	須恵器(坏身52、坏蓋) 土師器	古代	
7	1 D	S P 1007	楕円形	34	30	21	須恵器、土師器、土師質土器	中世	
8	1 D	S P 1008	楕円形	32	27	13	土師器(碗66)	中世	
9	1 D	S K 1009	楕円形	61	54	10	弥生土器(高坏) 須恵器(坏蓋) 青磁、土師器	中世	
10	1 D	S P 1010	円形	28	28	23	土師器	中世	
11	1 D	S P 1011	円形	26	26	18	土師器	中世	
12	1 D	S K 1012	楕円形	68	50	46	土師質土器(鍋48)	中世	柱穴に切られる。
13	1 D	S P 1013	楕円形	27	21	31	土師器(坏7、皿8)	中世	S B 15を構成する。石混入。
14	1 A	S P 1014	楕円形	(30)	27	29	陶器(瓶72) 弥生土器、須恵器、土師器	中世	柱穴に切られる。
15	1 A	S K 1015	楕円形	(54)	47	20	土師質土器(鍋47)、土師器、石製品(磁石224)	中世	S P 1059に切られる。
16	1 A	S K 1016	不整形	130	94	16	瓦質土器(足鍋49、甗鉢)、弥生土器、須恵器、土師器、鉄製品(226)	中世	集石。
17	1 D	S D 1017					須恵器(坏身) 青磁、土師器		S D 1164を切る。
18	1 D	S P 1018	円形	31	31	39	土師質土器(鍋70)	古代	石混入。
19	1 D	S P 1019	楕円形	27	24	23	土師器	中世	
20	1 D	S P 1020	楕円形	28	24	8	土師器	中世	
21	1 D	S P 1021	楕円形	44	30	12	土師器	中世	S B 16を構成する。
22	1 D	S P 1022	楕円形	27	23	22	土師器	中世	
23	1 D	S P 1023	円形	27	27	13	土師器	中世	S B 16を構成する。
24	1 D	S P 1024	円形	28	28	15	土師器、須恵器	古代	
25	1 D	S P 1025	円形	24	24	9	土師器	中世	S B 4を構成する。
26	1 D	S P 1026	楕円形	35	27	14	土師器	中世	
27	1 D	S P 1027	楕円形	35	25	25	須恵器(坏身51)	古代	
28	1 A	S D 1028					土師器	中世	
29	1 D	S P 1029	楕円形	(32)	18	25	土師器	中世	柱穴に切られる。
30	1 D	S P 1030	楕円形	21	18	8	土師器	中世	
31	1 D	S P 1031	円形	45	45	4	土師器	中世	柱穴に切られる。
32	1 D	S P 1032	楕円形	30	26	18	土師器	中世	
33	1 D	S P 1033	円形	30	30	16	土師器、瓦質土器	中世	
34	1 D	S P 1034	楕円形	52	30	31	土師器	中世	S B 14を構成する。
35	1 D	S P 1035	円形	30	30	20	土師器(付台皿)	中世	
36	1 D	S P 1036	円形	24	24	14	土師器	中世	
37	1 D	S P 1037	楕円形	47	40	27	須恵器、土師器	中世	S B 15を構成する。
38	1 D	S K 1038	楕円形	65	55	26	土師器		
39	1 D	S K 1039	楕円形	75	45	41	土師器	中世	

	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
40	1 D	S P 1040	(楕円形)	75	(38)	23	土師器	中世	調査区外へ広がる。
41	1 D	S P 1041	楕円形	30	24	29	須恵器	古代	
42	1 D	S P 1042	楕円形	39	35	15	土師器	中世	
43	1 D	S P 1043	円形	40	40	8	土師器(皿5) 弥生土器	中世	
44	1 D	S P 1044	楕円形	52	40	31	須恵器、土師器	中世	S B 14を構成する。
45	1 D	S P 1045	円形	24	24	32	土師器	中世	
46	1 D	S P 1046	楕円形	56	39	15	土師器	中世	
47	1 B	S D 1047							
48	1 D	S K 1048	楕円形	93	90	9	土師器	中世	
49	1 B	S P 1049	円形	25	25	17	木片		柱根あり。
50	1 B	S P 1050	楕円形	23	20	18	木片		柱根あり。
51	1 B	S P 1051	円形	20	20	16	木片		柱根あり。
52	1 B	S P 1052	楕円形	26	22	18	鉄製品(鉄釘10、11)		S B 13を構成する。
53	1 B	S P 1053	円形	24	24	11	土師器	中世	
54	1 B	S P 1054	楕円形	38	34	27	土師器	中世	
55	1 B	S P 1055	円形	26	26	9	土師器	中世	S B 11を構成する。
56	1 A	S P 1056	円形	23	23	8	弥生土器	弥生	
57	1 A	S P 1057	楕円形	44	30	28	須恵器、土師器、瓦質土器	中世	S P 1273を切る。
58	1 A	S P 1058	隅丸方形	24	21	12	弥生土器	弥生	
59	1 A	S P 1059	楕円形	31	26	19	陶器	近世?	S K 1015を切る。
60	1 A	S P 1060	楕円形	31	26	18	弥生土器、土師器	中世	
61	1 A	S P 1061	楕円形	49	32	15	弥生土器、土師器、瓦質土器	中世	
62	1 A	S P 1062	円形	25	25	22	弥生土器、土師器		
63	1 A	S P 1063	楕円形	39	30	18	須恵器、土師器、瓦質土器	中世	
64	1 A	S P 1064	楕円形	47	45	44	土師器	中世	
65	1 A	S P 1065	円形	34	34	15	須恵器		
66	1 A	S P 1066	円形	20	20	16	土師器、瓦質土器	中世	
67	1 A	S P 1067	楕円形	63	34	13	弥生土器、須恵器、土師器、瓦質土器(足縁)	中世	
68	1 A	S P 1068	楕円形	29	24	19	弥生土器	弥生	
69	1 A	S P 1069	円形	24	24	10	陶器	近世?	S B 3を構成する。
70	1 C	S K 1070	楕円形	64	50	17			
71	1 A	S P 1071	楕円形	25	20	14	白磁(硝74) 弥生土器、須恵器、瓦質土器	中世	
72	1 A	S P 1072	(楕円形)	24	(16)	13	土師器(皿64) 須恵器(甕)	中世	柱穴を切る。
73	1 A	S P 1073	円形	35	35	25	弥生土器(甕) 土師器、瓦質土器	中世	S P 1277に切られる。
74	1 B	S D 1074							
75	1 B	S P 1075	楕円形	37	35	45	瓦質土器(鍋75) 土師器	中世	S P 1094を切る。
76	1 B	S P 1076	楕円形	36	31	55	土師器、鉄製品(鉄釘228)	中世	S B 12を構成する。
77	1 B	S P 1077	円形	30	30	62	土師器	中世	
78	1 B	S P 1078	楕円形	35	28	20	土師器	中世	
79	1 B	S P 1079	円形	38	38	15	土師器	中世	S B 7を構成する。
80	1 B	S P 1080	円形	21	21	20	土師器	中世	S P 1081と切り合い。
81	1 B	S P 1081	円形	30	30	30	土師器	中世	S P 1080と切り合い。

	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
82	1 B	S P 1082	円形	27	27	21	土師器	中世	
83	1 B	S P 1083	円形	28	28	29	土師器	中世	S P 1084を切る。
84	1 B	S P 1084	円形	25	25	12	土師器、須恵器	中世	S P 1083に切られる。S B 12を構成する。
85	1 B	S P 1085	楕円形	48	45	51	土師器	中世	S B 12を構成する。
86	1 B	S P 1086	円形	27	27	18	弥生土器、土師器	中世	
87	1 B	S P 1087	円形	21	21	34	土師器	中世	
88	1 B	S P 1088	円形	30	30	49	土師器	中世	埋土に炭化物を含む。
89	1 B	S P 1089	円形	30	30	16	土師器	中世	
90	1 B	S P 1090	楕円形	25	21	17	土師器	中世	
91	1 B	S P 1092	円形	36	36	26	土師器	中世	
92	1 B	S P 1093	楕円形	52	29	50	土師器	中世	S B 11を構成する。柱穴を切る。
93	1 B	S P 1094 (円形)	円形	30	(20)	13	土師器	中世	S P 1075に切られる。
94	1 B	S P 1095	円形	35	35	14	土師器	中世	
95	1 B	S P 1096	楕円形	52	42	63	須恵器(横)、土師器	中世	石混入。
96	1 B	S K 1097	円形	70	70	31			埋土の抜き穴か。
97	1 D	S K 1098	楕円形	56	48	15			
98	1 B	S K 1099	円形	90	90	65			
99	1 B	S P 1101	円形	20	20	17	土師器	中世	
100	1 B	S P 1102	楕円形	55	35	17	土師器	中世	
101	1 B	S P 1104	楕円形	28	25	16	土師器	中世	
102	1 B	S P 1105	楕円形	50	41	51	青磁(碗4)、土師器	中世	S B 7を構成する。
103	1 B	S P 1107 (楕円形)	楕円形	44	(30)	22	土師器	中世	柱穴を切る。
104	1 B	S P 1109	楕円形	40	35	21	土師器	中世	
105	1 B	S P 1110	楕円形	42	32	52	土師器、瓦質土器	中世	S B 12を構成する。
106	1 B	S P 1111 (円形)	円形	40	(32)	70	須恵器(横)、土師器、瓦質土器	中世	S P 1112を切る。S B 12を構成する。
107	1 B	S P 1112 (円形)	円形	38	(30)	62	土師質土器(鍋71)、土師器(皿)	中世	S P 1111に切られる。
108	1 B	S P 1113	楕円形	25	19	14	土師器		
109	1 B	S P 1116	円形	20	20	14	土師器		
110	1 B	S P 1117	円形	24	24	13	弥生土器	弥生?	
111	1 B	S P 1118	円形	40	40	33	土師器	中世	
112	1 B	S P 1119	楕円形	28	25	30	土師器	中世	
113	1 B	S P 1121	楕円形	45	36	36	土師器	中世	埋土に炭化物を含む。
114	1 B	S P 1122	楕円形	30	26	35	土師器	中世	
115	1 B	S P 1123	円形	32	32	45	土師器(坏60)、瓦質土器	中世	
116	1 B	S P 1124	楕円形	35	25	62	土師器、磁器	近世?	
117	1 B	S P 1125	楕円形	25	23	16	須恵器、土師器、瓦質土器	中世	
118	1 B	S K 1126	不整形	82	53	35	土師器、須恵器(横)	古代	
119	1 B	S P 1127 (円形)	円形	27	(22)	21	土師器	中世	柱穴を切る。
120	1 B	S P 1130	円形	30	30	25	土師器		
121	1 B	S P 1131	不整形	52	40	28	須恵器、土師器	中世	
122	1 B	S P 1133	隅丸方形	34	24	8	土師器	中世	
123	1 B	S P 1134	円形	48	48	48	土師器	中世	柱穴を切る。石混入。
124	1 B	S K 1135	隅丸方形	46	42	13	土師器		

	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
125	1 B	S P 1137	円形	35	35	33	土師器		
126	1 B	S P 1139	円形	40	40	44	土師器、須恵器		S B 8を構成する。
127	1 B	S P 1140	楕円形	28	23	27	土師器		S K 1144を切る。
128	1 B	S P 1141	楕円形	56	45	18	土師器	中世	
129	1 B	S P 1142	楕丸三角形	40	32	7	土師器	中世	
130	1 B	S P 1143	(円形)	34	(34)	18	土師器	中世	S P 1146に切られる。S P 1145と切り合い。S B 11を構成する。
131	1 B	S K 1144	楕円形	69	(50)	14	土師器		S P 1140に切られる。調査区外へ広がる。
132	1 B	S P 1145	(円形)	30	(15)	18	土師器	中世	S P 1146に切られる。S P 1143、1172と切り合い。
133	1 B	S P 1146	(楕円形)	42	(36)	61	青磁、土師器、土師質土器	中世	S P 1143、1145、1172を切る。
134	1 B	S P 1147	円形	30	30	23	土師器	中世	
135	1 B	S P 1148	(楕円形)	45	(35)	34	白磁(磁73)、土師器、鉄製品(232)	中世	S P 1149を切る。柱穴に切られる。
136	1 B	S P 1149	(楕円形)	(40)	38	9	土師器		S P 1148に切られる。柱穴と切り合い。
137	1 B	S K 1150	楕円形	73	44	15			
138	1 B	S K 1154	楕円形	60	56	10	土師器	中世	
139	1 B	S K 1155	不整形	(182)	92	22			S K 1174に切られる。底部が焼成を受けて焼け跡まっている。埋土に炭化物を含む。
140	1 B	S K 1156	不整形	95	66	21			
141	1 B	S P 1157	円形	24	24	10	土師器	中世	
142	1 B	S P 1158	楕円形	60	45	37	土師器	中世	
143	1 B	S P 1159	楕丸方形	50	37	17	白磁、土師器	中世	
144	1 B	S P 1160	楕円形	31	25	11	土師器、須恵器	中世	S B 11を構成する。
145	1 B	S P 1161	楕円形	50	45	58	土師器	中世	
146	1 D	S D 1164					須恵器(坏身、坏蓋、甕)、白磁、青磁、土師器、石器(打製石鏃210)、鉄製品(鉄釘229)	中世	S D 1017に切られる。
147	1 B	S P 1165	楕円形	45	42	35	土師器		S B 9を構成する。
148	1 B	S K 1166	円形	77	(77)	25			柱穴に切られる。
149	1 B	S K 1169	楕丸方形	95	63	38			
150	1 B	S P 1170	(円形)	(28)	(28)	14	土師器	中世	
151	1 B	S P 1171	楕円形	48	42	29	土師器、須恵器	古代	S B 9を構成する。
152	1 B	S P 1172	(楕円形)	(40)	44	37	土師器(皿68)、須恵器、土師質土器	中世	S P 1146に切られる。S P 1145と切り合い。
153	1 B	S P 1173	円形	39	39	53	土師器(皿6)、須恵器	中世	S B 12を構成する。
154	1 B	S K 1174	(楕円形)	(88)	76	26	瓦		S K 1155を切る。調査区外へ広がる。
155	1 B	S P 1176	楕円形	55	43	14	土師器	中世	
156	1 B	S P 1177	円形	29	29	16	土師器(坏3)	中世	S B 5を構成する。
157	1 B	S P 1178	円形	22	22	17	須恵器(坏蓋)、土師器	中世	
158	1 B	S P 1179	円形	21	21	20	土師器	中世	
159	1 B	S P 1180	円形	20	20	25	土師器	中世	
160	1 B	S P 1181	楕円形	30	26	15	土師器	中世	

	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
161	1 B	S P 1182	円形	26	26	19	土師器	中世	S B 5 を構成する。
162	1 B	S P 1185	不整形	37	28	34	土師器	中世	
163	1 B	S P 1186	(楕円形)	30	(17)	21	土師器、磁器	近世?	調査区外へ広がる。
164	1 B	S P 1187	楕丸方形	28	25	29	土師器、白磁		
165	1 B	S P 1188	楕円形	25	20	22	弥生土器、土師器		
166	1 B	S P 1189	楕円形	31	27	13	土師器	中世	
167	1 B	S P 1190	円形	20	20	22	土師器	中世	
168	1 B	S P 1191	楕円形	22	20	8	弥生土器、土師器、須恵器		
169	1 B	S P 1194	円形	24	24	7	弥生土器、土師器		
170	1 B	S P 1195	楕丸方形	27	22	11	弥生土器	弥生	
171	1 B	S P 1196	楕円形	25	20	9	弥生土器、土師器	中世	
172	1 B	S P 1197	円形	31	31	10	弥生土器	弥生	
173	1 B	S P 1198	楕円形	30	28	28	弥生土器、土師器	中世	S B 4 を構成する。
174	1 B	S P 1199	楕円形	23	21	13	土師器	中世	
175	1 B	S P 1200	円形	19	19	10	土師器	中世	
176	1 B	S P 1201	円形	23	23	10	弥生土器、土師器	中世	
177	1 B	S P 1203	円形	31	30	21	土師器、須恵器 (坏蓋)	中世	S B 4 を構成する。
178	1 B	S P 1204	円形	30	30	36	土師器、瓦質土器 (足跡) 鉄製品 (鉄釘 27)	中世	S B 4 を構成する。
179	1 B	S P 1205	楕円形	33	27	39	土師器 (坏 1) 瓦質土器 (足跡 2)	中世	S B 4 を構成する。
180	1 B	S P 1206	円形	55	55	22	弥生土器、土師器	中世	
181	1 B	S P 1207	円形	46	46	22	土師器 (坏 61) 弥生土器、青磁	中世	
182	1 B	S P 1208	楕円形	42	39	27	弥生土器、土師器	中世	S K 1263 を切る。
183	1 B	S P 1209	(円形)	38	(38)	11	土師器	中世	柱穴と切り合い。
184	1 B	S P 1210	楕円形	35	24	21	弥生土器	弥生	
185	1 B	S P 1211	楕円形	40	36	14	弥生土器	弥生	
186	1 A	S P 1212	不整形	38	25	9	土師器、土師質土器	中世	
187	1 B	S P 1214	円形	20	20	39	土師器、須恵器	古代	
188	1 D	S P 1215	楕円形	52	40	62	土師器	中世	
189	1 B	S P 1216	円形	15	15	6	弥生土器	弥生	
190	1 D	S P 1217	円形	25	25	13	土師器	中世	
191	1 D	S P 1218	楕円形	20	(15)	16	土師器 (皿 58、59)	中世	
192	1 B	S P 1219	楕円形	24	21	17	土師器	中世	
193	1 A	S P 1220	楕円形	54	50	34	土師器、須恵器	中世	
194	1 A	S P 1221	円形	35	35	33	土師器	中世	
195	1 A	S P 1222	円形	25	25	30	弥生土器、土師器		
196	1 A	S K 1223	楕丸長方形	79	64	15			柱穴と切り合い。
197	1 A	S P 1224	楕丸方形	34	32	23	土師器		
198	1 A	S P 1225	楕円形	34	29	12	弥生土器、土師器		
199	1 A	S P 1226	円形	25	25	5	弥生土器、土師器		
200	1 A	S P 1227	不整形	54	25	5	弥生土器	弥生	
201	1 A	S P 1228	楕円形	30	25	11	弥生土器	弥生	
202	1 A	S P 1229	円形	28	28	15	弥生土器、土師器		
203	1 A	S P 1231	楕円形	35	24	23	土師器、鉄製品 (小札 233)	中世	

	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
204	1 A	S K 1233	楕円形	60	55	35	弥生土器	弥生	
205	1 B	S K 1239	楕丸長方形	75	60	21	弥生土器	弥生	
206	1 B	S P 1241	(円形)	15	(15)	14	須恵器、土師器	中世	S P 1242と切り合い。
207	1 B	S P 1242	(円形)	29	(29)	14	土師器	中世	S P 1241と切り合い。
208	1 B	S P 1243	円形	33	33	25	弥生土器、土師器		
209	1 B	S P 1244	円形	20	20	18	土師器	中世	
210	1 B	S P 1245	円形	19	19	37	須恵器、土師器	古代	
211	1 B	S P 1246	円形	14	14	71	土師器	中世	
212	1 B	S P 1247	楕円形	24	21	10	土師器		
213	1 B	S P 1248	円形	23	23	14	土師器	中世	
214	1 B	S P 1249	(楕円形)	(26)	25	34	土師器	中世	柱穴と切り合い。
215	1 B	S P 1250	(円形)	28	28	8	土師器	中世	柱穴と切り合い。
216	1 B	S P 1251	円形	30	30	15	土師器	中世	
217	1 B	S P 1252	円形	24	24	28	土師器	中世	
218	1 B	S P 1253	楕円形	31	25	32	土師器	中世	
219	1 B	S P 1254	円形	18	18	12	土師器、須恵器	古代	
220	1 B	S P 1255	楕円形	25	21	31	土師器	中世	
221	1 B	S P 1256	円形	25	25	42	土師器	中世	S P 1257を切る。
222	1 B	S P 1257	(楕円形)	(30)	30	11	土師器	中世	S P 1256に切られる。
223	1 B	S P 1258	円形	24	24	6	土師器	中世	
224	1 B	S P 1259	楕円形	26	20	30	須恵器(坏身53)	古代	
225	1 B	S P 1260	楕円形	38	25	20	弥生土器	弥生	S K 1262に所在。
226	1 B	S P 1261	楕円形	31	25	92	柱根(12)		S B 13を構成する。
227	1 B	S K 1262	楕丸長方形	608	254	82	弥生土器(壘13-17、甕18-21)	弥生	埋土に炭化物を含む。
228	1 B	S K 1263	(楕円形)	(193)	138	43	弥生土器(壘22-25、甕26-34)黒曜石	弥生	S P 1268に切られる。調査区外へ広がる。
229	1 A	S P 1264	楕円形	31	27	19	土師器(皿67) 弥生土器	中世	
230	1 B	S P 1265	楕丸三角形	35	33	9	土師器	中世	
231	1 B	S P 1266	円形	35	35	22	弥生土器、土師器	中世	
232	1 B	S P 1267	楕円形	39	35	28	弥生土器、須恵器(坏蓋) 土師器	中世	S B 6を構成する。
233	1 B	S P 1268	楕円形	25	22	9	土師器(坏65)	中世	
234	1 B	S P 1269	円形	25	25	11	瓦質土器(焙烙76) 弥生土器、青磁、土師器	中世	S B 6を構成する。
235	1 B	S P 1270	円形	26	26	12	土師器	中世	S B 5を構成する。
236	1 B	S P 1271	楕円形	35	20	6	弥生土器、土師器		
237	1 B	S P 1272	(楕円形)	39	(28)	24	弥生土器、土師器	中世	
238	1 A	S P 1273	(円形)	35	(35)	25	土師器(皿69) 弥生土器	中世	S P 1057に切られる。
239	1 A	S P 1274	円形	22	22	27	弥生土器、土師器		
240	1 A	S P 1275	楕円形	52	38	36	弥生土器	弥生	
241	1 A	S P 1277	(楕円形)	(30)	21	23	弥生土器		S P 1073を切る。
242	1 A	S P 1278	楕円形	34	31	17	土師器	中世	
243	1 A	S P 1279	楕丸三角形	37	28	42	土師器	中世	
244	1 A	S P 1280	楕丸長方形	54	43	19	弥生土器	弥生	
245	1 A	S P 1281	円形	30	30	41	土師器	中世	

	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
246	2 A	S K 2001	楕円形	37	32	10	須恵器 (坏蓋45)	古代	
247	2 A	S D 2002							
248	2 A	S P 2003	楕円形	25	22	13	土師器	中世	S P 2004と切り合い。
249	2 A	S P 2004	円形	14	14	15	土師器	中世	S P 2003と切り合い。
250	2 A	S P 2005	円形	23	43	13	土師器	中世	
251	2 A	S P 2006	楕円形	47	30	26	土師器、須恵器	古代	S B 17を構成する。柱穴を切る。
252	2 A	S P 2007	円形	29	29	33	土師器 (坏56、57)、須恵器 (坏身)	中世	S K 2025を切る。
253	2 A	S P 2008	円形	22	22	21	土師器	中世	
254	2 A	S P 2009	楕円形	32	24	21	土師器	中世	
255	2 A	S P 2010	楕円形	28	24	45	土師器	古代	
256	2 A	S K 2011	楕円形	88	72	21			
257	2 A	S K 2012	不整形	70	64	13	須恵器 (坏蓋35—37、坏身38、39、 皿40)	古代	
258	2 A	S K 2013	楕円形	56	48	22			
259	2 A	S K 2014	楕円形	146	90	33	須恵器 (坏蓋41、42、短頸壺43)、 土師器 (甕44)、弥生土器	古代	柱穴を切る。
260	2 A	S K 2015	楕円形	95	68	30	須恵器、土師器	古代	
261	2 A	S P 2016	楕円形	26	22	29	土師器	中世	
262	2 A	S K 2017	不整形	74	61	14	土師器	中世	
263	2 A	S P 2018	楕円形 (25)	25	36		須恵器、土師器	中世	柱穴を切る。
264	2 A	S P 2019	楕円形	35	32	29	須恵器 (坏蓋9)	古代	S B 18を構成する。
265	2 A	S P 2020	円形	25	25	8	土師器	中世	
266	2 A	S P 2022	円形	31	31	30	土師器	中世	
267	2 A	S P 2023	楕円形	17	15	16	土師器	中世	S D 2002に所在。S B 16を構成する。
268	2 A	S K 2025	楕円形	93	86	31	須恵器 (坏身46)、土師器		S P 2007に切られる。
269	2 A	S K 2026	楕円形	95	72	19	須恵器 (坏蓋)	古代	柱穴に切られる。
270	2 A	S K 2027	円形	94	94	30			風倒木痕か。
271	2 A	S P 2028	円形	35	35	20	土師器	中世	
272	2 A	S P 2029	楕円形	24	21	20	土師器、須恵器 (坏蓋)	古代	
273	2 A	S P 2030	楕円形	40	29	18	須恵器 (坏蓋)	古代	
274	2 A	S P 2031	楕円形	50	33	45	土師器	中世	
275	2 A	S P 2032	円形	29	29	40	須恵器	古代	
276	2 A	S P 2034	円形	30	30	14	土師器 (台付皿54)	中世	
277	2 A	S P 2035	楕円形	25	20	16	土師器	中世	
278	3 A	S K 3001	楕円形	85	78	32			埋土に炭化物を含む。
279	3 A	S K 3002 (円形)		128 (64)	38				調査区外へ広がる。埋土に炭化物を含む。
280	3 A	S P 3003	楕円形	34	20	20	土師器	中世	S B 25を構成する。
281	3 A	S P 3004	楕円形	26	22	14	土師器 (台付皿55)	中世	
282	3 A	S P 3005	円形	26	26	12	土師器	中世	S B 20を構成する。
283	3 A	S P 3006	楕円形	42	27	9	土師器	中世	
284	3 A	S P 3007	楕円形	28	25	29	土師器		S B 26を構成する。
285	3 A	S P 3009	円形	20	20	15	スラグ		

遺物

調査の結果、縄文時代、弥生時代、古代（奈良、平安時代）、中世（鎌倉、室町、安土・桃山時代）、近世の各時期の遺物が出土している。主な遺物の種類としては、弥生土器、須恵器、土師器、瓦質土器、輸入磁器、陶器、石器・石製品、金属製品などがある。遺構とのかかわりでは、遺構に伴う出土遺物総数は、比較的少ないが、遺物包含層からの出土遺物（特に弥生土器並びに須恵器）が多い。地区別での特徴は、弥生土器は、1 B地区の南西側の遺構と1 A並びに1 B地区南西側の遺物包含層からの出土がほとんどで、須恵器は、1 D、2 A地区の遺構並びに1 D、2 A地区の遺物包含層からの出土が多い。また、土師器は、地区を問わず広い範囲から出土しているが、ただし、台付皿だけは、2 A地区北東端と3 A地区からしか出土していない。

1 掘立柱建物跡出土遺物（第21図、図版12、13）

1、2は、S B 4出土の遺物。1は、土師器環で平らな底部より外反気味に立ち上がる。中世の遺物。2は、瓦質土器足鍋の脚部、指頭圧痕をナデによって調整している。15～16世紀の遺物。

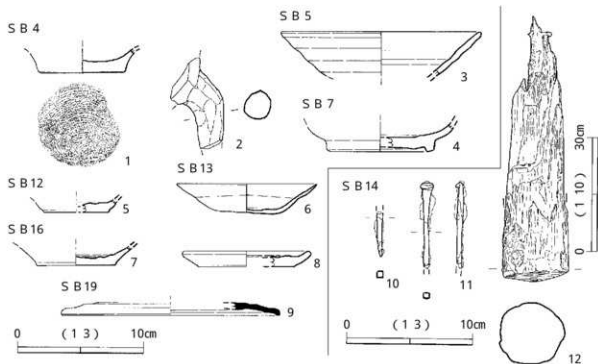
3は、S B 5出土遺物で土師器環、体部が直線的に開き、口縁端部は丸く終わる。形態から、15世紀の遺物と比定できる。

4は、S B 7より出土。青磁の碗、明オリープ灰色の釉を施す。見込みは、釉はぎ、高台内部露胎。13世紀のものか。

5は、S B 12出土遺物。土師器皿で中世の遺物。

6は、S B 13出土の遺物。土師器皿。やや丸みをもつ底部より上方外に直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に終わる。15世紀の遺物。

7、8は、S B 16より出土。7は、土師器環か。平らな底部より、上方外に直線的に立ち上がる。



第21図 掘立柱建物跡出土遺物実測図

8は、土師器皿。平らな底部より、内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。いずれも、中世の遺物と考えられる。

9は、S B 19出土遺物。須恵器の坏蓋。扁平なつくりで口縁端部は丸い。8世紀のものとは比定できる。

10～12は、S B 14出土遺物。10、11は、鉄釘。10は、頸部欠損。11は、折り釘で下部欠損。12は、柱根。樹種は不明。柱の下端部は残存しているが、削り痕は、確認できなかった。

2 土坑出土遺物(第22図～24図、図版11、12)

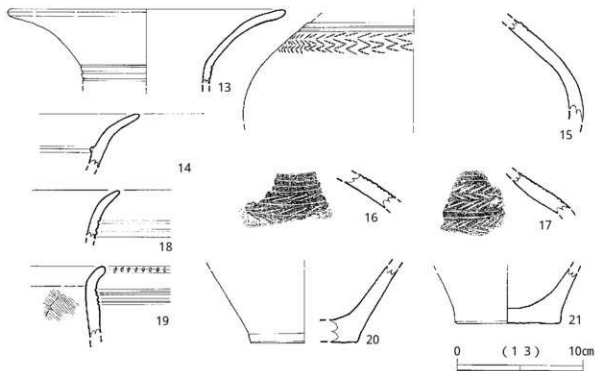
S K 1262出土遺物(第22図、図版11)

13～21は、S K 1262より出土。13～17は、弥生土器壺。13は、口頸部片。頸部に沈線を有し、口縁部は大きく外反する。沈線は3条確認できる。14は、口縁部のみ残存し、緩やかに外反する。内面に貼付突帯あり。15は、大きく張る胴部片。肩の部分に段あり。また、ヘラ状工具による2条の沈線と羽状紋を有する。16は、肩部分の紋様帯片。3条の沈線と二枚貝による有軸羽状紋を有する。内面は、ハケ目調整、外面には、ヘラミガキ調整を施す。17も、肩部分の紋様帯片。二枚貝による羽状紋を有する。内外面、ヘラミガキ調整痕有り。

18～21は、弥生土器甕。18、19は、口縁部のみ残存。18は、緩やかに外反し、頸部に3条の沈線あり。19は、「く」の字形に外反する。口縁端部に刻み目、頸部に4条の沈線を有する。内面にハケ目調整痕有り。20、21は、底部のみ残存。20は、底部より上外方に直線的に立ち上がる。21は、ややすぼまったのちに、上外方に直線的に立ち上がる。13～21は、その形態や紋様などから弥生時代前期後半の遺物と比定できる。

S K 1263出土遺物(第23図、図版11)

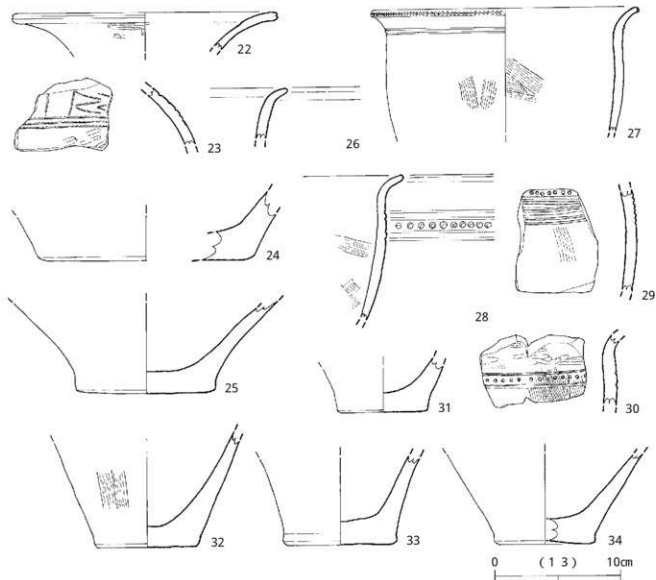
22～34は、S K 1263より出土。22～25は、弥生土器壺。22は、口縁部のみ残存。大きく外反し、先端に肥厚帯を持ち、口縁端部に1条の沈線が巡る。外面ヘラミガキ調整か。23は、肩部の紋様帯片。



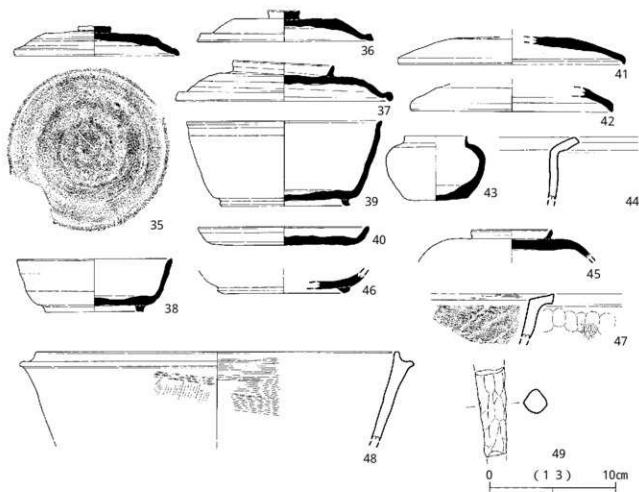
第22図 土坑出土遺物実測図

二枚貝による沈線と羽状紋を有する。羽状紋は、縦方向の二枚貝による沈線で区画される。外面の一部にヘラミガキ調整が見られる。黒斑有り。24、25は、底部のみ残存。24は、上外方に直線的に、25は、上外方に外反気味に立ち上がる。

26-34は、弥生土器甕。26は、口縁部のみ。「く」の字形に外反する。27、28は、胴部-口縁部が残存。27は、口縁部が、緩やかに外反し、胴部はやや張る。ヘラ状工具により、口縁下端部に刻み目、頸部に2条の沈線を施す。内外面ハケ目調整、口縁部はヨコナデ調整。28は、口縁部が「く」の字型に外反し、胴部の張りは少ない。口縁部下に、2条沈線、刺突紋、2条沈線の順に巡る。口縁下端部に刻み目か。内面胴部にハケ目調整が見られる。29は、胴部のみ残存。口縁部下に竹管紋、その下に6条沈線が巡る。外面にハケ目調整痕有り。30は、口縁部欠損。口縁部下に2条の沈線。その間に刺突紋が巡る。内面ヘラミガキ調整、外面ハケ目調整、口縁部は、内外面ともヘラミガキ調整のちヨコナデ調整。31-34は、底部のみ残存。31、32は、ともに上外方へ直線的に立ち上がる。32は、外面ハケ目調整、外面底部に指押さえ調整痕有り。33は、外反気味に立ち上がる。34は、やや上げ底の底部から上外方へ直線的に立ち上がる。22-34は、弥生時代前期後半の遺物と比定できる。



第23図 土坑出土遺物実測図



第24図 土坑出土遺物実測図

その他の土坑出土遺物（第24図、図版12）

35～40は、S K 2012より出土。35～37は、須恵器坏蓋。35は、口縁部は外傾し、端部は丸い。天井部は平らに近く、外面中央部に上面が平らなボタン状のつまみを付す。ロク口回転右方向。外面の一部に自然釉（暗青灰色）をかぶる。天井部内面中央部にヘラ書きで「大」の字を刻む。36は、口縁部がくびれ、鳥嘴状の口唇をもつ。天井部は平らで、外面中央部に上面が平らなボタン状のつまみを付す。ロク口回転右方向。37は、口縁部が垂直に下り、端部は丸い。天井部は平らに近く、外面の中央部に環状のつまみを付す。やや歪み有り。ロク口回転右方向。焼成やや不良。38、39は、須恵器坏身。38は、体部、口縁部が上外方にのび、端部は丸い。底部は平らで、やや内側に高台を付し高台端部は凹面を成す。ロク口回転は、右方向である。39は、体部が上外方にのび口縁部で外反し、端部は丸い。底部は平らで、やや内側に外反する高台を付し、高台端部は凸面を成す。ロク口回転は、右方向。焼成不良。40は、須恵器皿。底部外縁がまるくカーブし、口縁部が斜め直線的に立ち上がり、端部は丸い。ロク口回転右方向。35と38、37と39は、それぞれセット関係になると考えられる。35～40は、須恵器の形態から、長登編年に従えば、8世紀後半～9世紀初頭の遺物と比定できる。

41～44は、S K 2014より出土。41、42は、須恵器坏蓋。41は、天井部は平らに近く、口縁が斜め直線的に下り、口唇は鳥嘴状に下垂する。42は、口縁部片。肩部から口縁にかけて、わずかにくびれ、口唇は、丸く下垂する。41、42は、8世紀の遺物と考えられる。43は、須恵器短頸壺。口縁部は基部

より直立し、端部は丸い。肩部は下外方に張り出し下内方に下る。胴部最大径は上位に位置する。底部は平らに近い。ロク口回転は右方向。44は、土師器甕の口縁部一胴部片。口縁部が、「く」の字型に外反し胴部は張らない。11～12世紀の遺物と比定できる。

45は、S K 2001より出土。須恵器坏蓋。天井部は平らで、外面中央部に環状のつまみを付す。形態から8世紀～9世紀のものである。

46は、S K 2025より出土。須恵器坏身の底部片。底部端に外反する高台を付す。高台端部は、内側の角のみ接地する。8世紀前半の遺物と比定できる。

47は、S K 1015より出土。土師質土器鍋の口縁部片。口縁部が、「く」の字に外反する。外面にスス付着。13～14世紀の遺物と比定できる。

48は、S K 1012より出土。土師質土器鍋の口縁部一底部片。体部から外反して口縁部へとのび、口唇は平坦な面をつくる。口縁下位にやや上向きの受部がつく。外面にスス付着。形態から、14～15世紀のものとして比定できる。

49は、S K 1016より出土。瓦質土器足鍋の脚部。15～16世紀の遺物と比定できる。

3 柱穴出土遺物（第25図、図版13）

50は、S P 1004から出土。須恵器坏身の体部一底部片。底部やや内側に外反する高台を付す。高台端部は凹面をなし、内側の角のみ接地する。8世紀前半の遺物である。

51は、S P 1027から出土。須恵器坏身の底部片。底部の厚さが、中央に向かって薄くなる。高台はつかない。平らな底部からやや開き気味に、上外方に立ち上がる。焼成やや不良。8世紀後半のものと考えられる。

52は、S P 1006から出土。須恵器坏身の体部一底部片。底部の厚さが、中央に向かって薄くなる。高台はつかない。平らな底部からやや開き気味に、上外方に立ち上がる。51より傾斜角がやや大きい。8世紀後半のものと考えられる。

53は、S P 1259から出土。須恵器坏身。底部中央部の器肉がやや薄い。高台はつかない。平らな底部からやや開き気味に、上外方に立ち上がる。52と傾斜角はほぼ同じである。ロク口回転右方向。8～9世紀の遺物と考えられる。

54は、S P 2034から出土。土師器台付皿の皿部。内湾気味に上外方に開き、口縁端部は丸く終わる。13世紀の遺物と考えられる。

55は、S P 3004から出土。土師器台付皿。台部が接地面から内傾して立ち上がる。また、台部の端が一段高くなる。皿部は内湾気味に上外方に開き、口縁端部は丸く終わる。形態から、12～13世紀の遺物と比定できる。

56、57は、S P 2007から出土。ともに土師器坏。56は、ほぼ平らな底部より上外方に内湾気味に立ち上がる。57は、底部より上外方に内湾気味に立ち上がる。口縁端部は尖り気味に終わる。2点とも14～15世紀のものと考えられる。

58、59は、S P 1218から出土。ともに土師器皿。58は、平らな底部より上外方に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。59も、形態は似ているが、傾斜角が58と比較して急で、底部の径が大きい。ともに、13～14世紀のものと考えられる。

60は、S P 1123から出土。土師器坏。器壁が薄く、平らな底部より上外方に直線的に立ち上がる。
15世紀～16世紀のものとは比定できる。

61は、S P 1207から出土。土師器坏。器壁が厚く、平らな底部より上外方に立ち上がる。傾斜角は、比較的急である。

62、63は、S P 1005から出土。62は、土師器皿。63は、土師器坏か。いずれも、器壁の厚い平らな底部より、上外方に緩やかに立ち上がる。62より63の方が、傾斜角は急である。

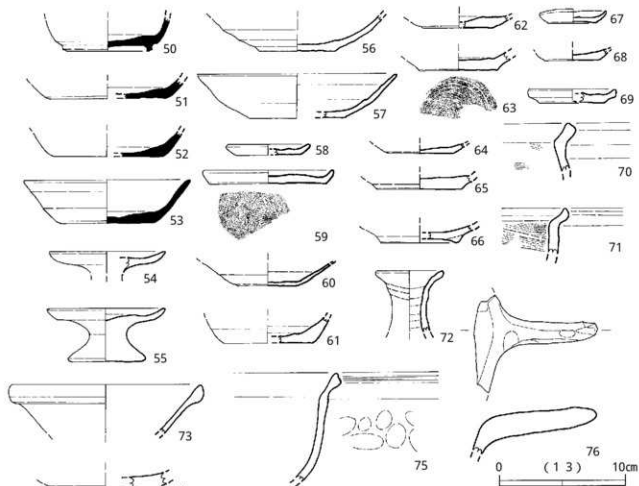
64は、S P 1072から出土。土師器皿。底部中央部の器壁が薄くなっている。平らな底部より上外方に緩やかに立ち上がる。

65は、S P 1268から出土。土師器坏か。底部は器壁が厚く平らである。

66は、S P 1008から出土。土師器坏。底部に断面三角形の低い貼付高台を付し、上外方に立ち上がる。13世紀頃のものか。

67は、S P 1264から出土。土師器皿。底部より内湾気味に立ち上がる。口縁端部は尖り気味に終わる。16世紀後半の遺物とは比定できる。

68は、S P 1172から出土。土師器皿。平らな底部より上外方に立ち上がる。形態から、13～14世紀の遺物と考えられる。



第25図 柱穴出土遺物実測図

69は、S P 1273から出土。土師器皿。ほぼ平らな底部より上外方に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。器壁が厚い。

70は、S P 1018から出土。土師質土器鍋の口縁部。口縁部は、「く」の字型に外反し、体部はやや張る。外面にスス附着。10世紀の遺物と考えられる。

71は、S P 1112から出土。土師質土器鍋の口縁部。口縁部が、「く」の字型に外反する。15世紀の遺物と比定できる。

72は、S P 1014から出土。陶器瓶の口頸部。内外面に鉄釉がかかり、オリーブ黒色を呈する。唐津焼か。15～16世紀の遺物。

73は、S P 1148から出土。白磁碗の体部→口縁部片。玉縁口縁。内外面施釉、明オリーブ灰色を呈する。体部下半は露胎。12～13世紀の遺物。

74は、S P 1071から出土。白磁碗の底部片。削り出し高台。底部外面及び高台部は露胎。

75は、S P 1075から出土。瓦質土器鍋。口縁部が「く」の字形に外反する。外面にスス附着。足鍋の可能性もある。14～15世紀のものと考えられる。

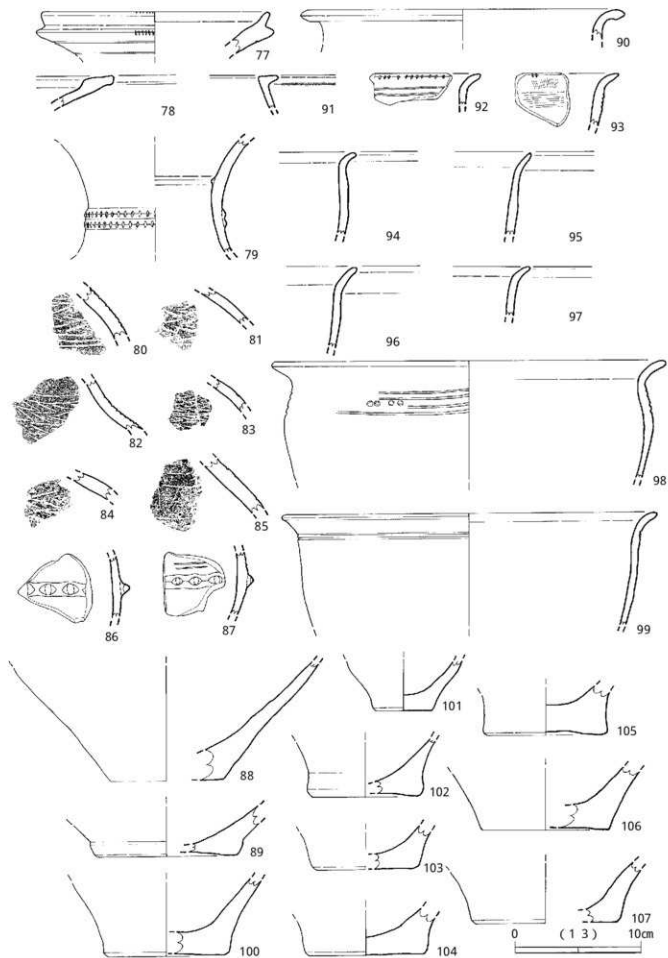
76は、S P 1269から出土。瓦質土器焙烙の把手部。残存長9.8cm。16世紀のものと同定できる。

4 遺物包含層出土遺物（第26図～第29図、図版14～17）

1 A・1 B 地区遺物包含層出土遺物（第26、27図、図版14、15）

77～129は、1 A・1 B 地区遺物包含層より出土。77～89は、弥生土器壺。77、78は、口縁部のみ残存。77は、口縁部、やや内側に粘土帯を貼り付けているとも考えられ、いわゆる湯免式壺の形状を意識しつつ内折口縁の手法を用いている可能性がある。複合口縁状に制作しており、口縁端部と段部に刻み目を施す。外面の一部にヘラミガキ調整痕あり。比較的粒の大きいクサリ礫を多く含む。弥生時代前期後半～中期初頭の遺物と同定できる。78は、口縁部が大きく水平に近く開く。端部上面に粘土を貼り付け肥厚させる。79は、頸部のみ。内面に1条の貼付突帯、外面に2条の刻み目突帯を有す。80～85は、肩部の紋様帯片。80は、二枚貝による2条沈線と羽状紋、その下に3条沈線。81は、二枚貝による羽状紋。82は、二枚貝による2条沈線と羽状紋。83は、二枚貝による羽状紋、その間に2条沈線。84は、二枚貝による羽状紋。85は、二枚貝による2条沈線と鋸齒紋をそれぞれ有す。86、87は、胴部片。86は、1条の刻み目突帯を有し、87は、2条沈線(?)と1条の刻み目突帯を有す。88、89は、底部片。88は、底部より上外方に直線的に立ち上がり、89は、やや上げ底の底部から直線的に立ち上がる。

90～107は、弥生土器甕。90～93は、口頸部片。90は、口縁部が、「く」の字形に外反。91は、断面逆L字形の口縁部をもつ。頸部外面にハケ目調整を施す。92、93は、口縁部が、「く」の字形に外反。口唇部下端に、刻み目を有す。92は、頸部に2条の沈線が巡る。93は、頸部に4条のヘラ状工具による沈線が巡る。外面ハケ目調整、口縁部ハケ目調整のちヨコナデ調整。94～99は、胴部→口縁部が残存。94は、口縁部が、「く」の字形に外反。胴部はあまり張らない。95は、口縁部が緩やかに外反する。胴部はあまり張らない。96も、同じ形態だが、95よりはやや口縁部の傾斜角が大きい。97は、口縁部が、「く」の字形に外反するが、94より頸部のくびれが明確でない。98は、口縁部が、「く」の字形に外反し、胴部はやや張る。頸部に4条の沈線が巡る。また、その沈線間に不規則な刺突紋を有



第26图 1A·1B地区遗物包含层出土遗物实测图

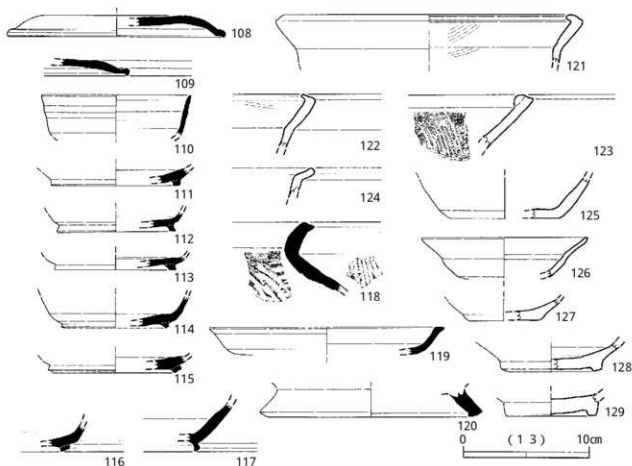
す。99も、同じ形態だが、頸部に2条の沈線が巡る。100～107は、底部片。100、106は、やや上げ底の底部より上外方に直線的に立ち上がる。106は、外面に八ケ目調整が見られる。101は、平らな底部より上外方に内湾気味に立ち上がる。102、105は、やや上げ底の底部より上外方に立ち上がる。103、104は、平らな底部より上外方に立ち上がる。107は、底部より上外方に外反気味に立ち上がる。以上、78～107は、弥生時代前期後半の遺物である。

108、109は、須恵器坏蓋。108、109は、肩部～口縁部にかけて大きく屈曲し、段を有す。108は、口唇が丸く下垂する。109は、口唇が鳥嘴状に下垂し断面三角を呈し、器高は低く扁平である。いずれも、8世紀～9世紀前半の遺物と考えられる。

110～116は、須恵器坏身。110は、坏身の体部～口縁部。体部は上外方にのみ、端部はやや開く。111～116は、坏身の底部。111は、付高台がほぼ垂直に接合され、断面は四角形を呈す。112、113は、高台が体部寄りに外反気味に接合され、断面は変形四角形を呈す。112は、体部の腰張りが小さい。114は、底部の中心寄りに外反する高台を付す。高台端部は、内側の角のみ接地し、断面は変形四角形を呈す。115は、底部端に、116は、それより少し内側に幅広で外反する短い高台を付す。どちらも、高台端部は、内側の角のみ接地する。以上、8世紀～9世紀初頭の遺物と比定できる。

117は、須恵器長頸壺の底部か。底部端に、外反する細身の長い高台を付す。高台端部は、内側の角のみ接地し、断面は変形四角形を呈す。8世紀前半の遺物と比定できる。

118は、須恵器甕の口縁部。口縁が大きく外反し、口縁端部は四角でやや外反する。体部内面に当て具痕、外面に平行タキ目痕が見られる。



第27図 1A・1B地区遺物包含層出土遺物実測図

119は、須恵器皿又は高坏の体部一口縁部。体部は上外方にのび、口縁端部は鋭く大きく外反する。

120は、須恵器壺の高台部。外方に張り出した高台で、接地面は内側のみと考えられる。8世紀前半のものとは比定できる。

121～122は、瓦質土器足鍋の口縁部。ともに口縁端部を強く折り返した状態である。内面の口縁部と体部の境に蓋受け状の段が見られる。

123は、瓦質土器播鉢の口縁部。口縁部内面に三角形の粘土帯を貼り付ける。内面に8条単位のオロシ目が見られる。以上、121～123は、16世紀後半の遺物と比定できる。

124は、土師質土器鍋の口縁部。口縁部が、「く」の字形に外反する。

125、126は、土師器杯。125は、平らな底部より上外方に内湾気味に立ち上がる。126は、体部内湾気味に上外方に立ち上がり、体部の途中から口縁部に向けて外反する。

127は、土師器皿。平らな底部より上外方に立ち上がる。

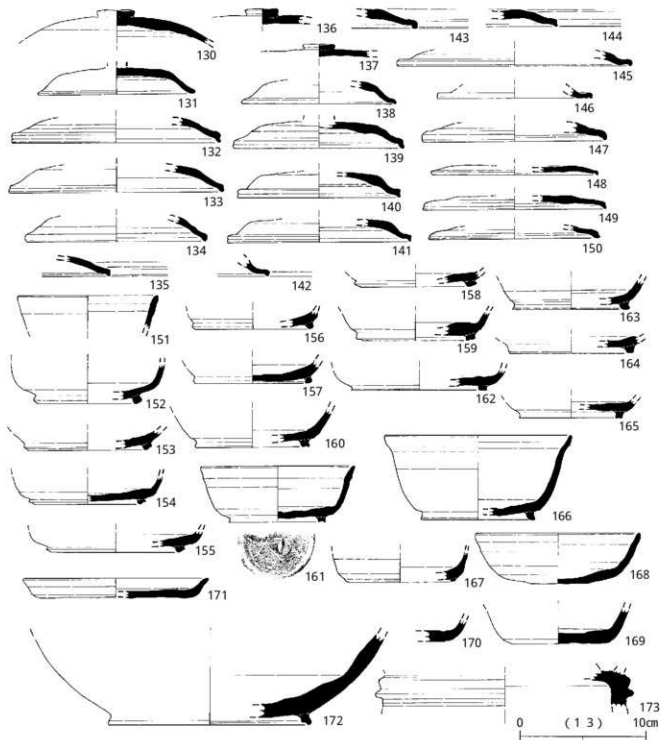
128、129は、白磁碗の底部。128は、高台端部が、内側で接地する。底部から緩やかに立ち上がる。内面に透明釉を施す。口縁部が残存していないため、断定はできないが、12世紀後半～13世紀初頭のものとは比定できる。129は、高台端部が、垂直に接地する。内面熔融不良。

1 D・2 A地区遺物包含層出土遺物(第28、29図、図版16、17)

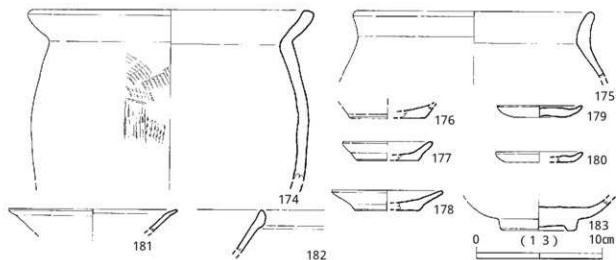
130～183は、1 D・2 A地区遺物包含層より出土。130～150は、須恵器杯蓋。130、131は、天井部が丸みをもつ。130は、外面中央に扁平な擬宝珠様つまみを付す。131は、外面中央部のつまみは欠損している。肩部に稜をもち、口唇部はやや外反し、丸く終わる。132～135は、肩部一口縁部のみ残存。132、133は、口縁が斜め直線的に下る。口唇が鳥嘴状に下垂する。134、135は、肩から口縁部にかけて僅かなくびれが内面に顕著である。口唇は、134は丸く下垂し、135は鳥嘴状に下垂する。136、137は、天井部のみ。天井部が平坦で、ボタン状のつまみが付く。138～141は、天井部一口縁部の部分片。天井部は、138はドーム状を呈し、139～141はやや平坦である。いずれも、口縁部がくびれ、鳥嘴状の口唇を持つ。142は、口縁部のみ残存。口唇が、断面三角形に下垂する。143、144は天井部一口縁部の部分片。口唇が、143は断面四角形状、144は鳥嘴状に下垂する。145～147は、口縁部片。145、146は、口縁部がくびれ、147は、口縁が斜め直線的に下る。口唇が、145、147は、丸く下垂し、146は、鳥嘴状に下垂する。148、149は、天井部一口縁部の部分片。いずれも器高が低く鳥嘴状の口唇を持つ。天井部は、148はややくぼみ149は平坦である。150は、肩部一口縁部片。肩から口縁部にかけて僅かなくびれが内面に顕著である。鳥嘴状の口唇を持つ。これらは、小片が多く時期比定の困難なものもあるが、概ね8世紀後半のものが大半を占め、一部8世紀前半代のものや9世紀初頭のものも含まれる。

151～169は、須恵器杯身。151は、体部一口縁部片。体部は上外方にのび、端部はやや開く。152～160、162～165、167、169は、底部又は底部一体部のみ残存。152～159は、外反する高台がつけられ、接地面は内側の角のみである。153～155、158、159は、高台が幅広で短い。また、154、155は、高台の内側端部がつまみ伸ばされ、断面は鋭い変形四角形となる。152、154、155は、付高台が底部の中心寄りに付けられるので、底部と体部の境の腰張りが明瞭である。153、156～159は、高台が底部の端に付けられる。160、163は、外反する高台が体部寄りに接合され、端部全体が接地する。断面は変

形四角形となる。162、165は、付高台が底部の中心寄りにほぼ垂直に接合され、断面は四角形を呈す。164は、付高台が体部寄りにほぼ垂直に接合される。167は、外反する小さな高台が体部寄りに接合され、体部の立ち上がりは急である。169は、高台の付かないタイプで、ヘラ切りの底部から体部がほぼ垂直気味に立ち上がる。161、166、168は、底部一口縁部まで残存。161は、外反する高台が底部の中心寄りに接合され、断面は変形四角形となる。体部の立ち上がりは、ほぼ直線的で約65°、口縁部が外反している。底部外面中央部にヘラで刻まれた文字あり。底部の半分が欠損しているため、確実ではないが「大」の字の可能性が高い。166も、外反する高台が底部の中心寄りに接合され、断



第28図 1D・2A地区遺物包含層出土遺物実測図



第29図 1D・2A地区遺物包含層出土遺物実測図

面は変形四角形となる。161より高台が高い。胴部から口縁部に向かって外反し、口縁端部は、やや内湾気味に終わる。168は、高台の付かないタイプで、底部はやや丸みをもち、体部の立ち上がりは緩やかである。以上、151～169は、8世紀～9世紀初頭の遺物と比定できる。

170は、須恵器高杯の坏部片。平らな底部より上外方に体部がのびる。

171は、須恵器皿。底部外縁がまろくカーブし、口縁部が斜め直線的に立ち上がり口唇は外反する。8世紀後半の遺物と考えられる。

172は、須恵器壺の底部一体部片。外反する高台が体部寄りに接合される。接地面は外側の角のみ。体部の立ち上がりは緩やかである。外面に自然釉（暗青灰色）をかぶる。また、火ぶくれが見られる。

173は、須恵器円面硯の硯面部。1条の突帯が見られる。

174は、弥生土器甕。口縁部は強く「く」の字形に外反し胴部はやや張る。体部外面ハケ目調整を施す。弥生時代中期のものか。

175は、土師器甕。口縁部は「く」の字形に外反し、口縁端部は、丸く終わる。

176～180は、土師器皿。176は、平らな底部より上外方に立ち上がる。177は、平らな底部より上外方にやや外反気味に立ち上がる、口縁端部は丸く終わる。178は、平らな底部より上外方にやや外反気味に緩やかに立ち上がる。179は、やや湾曲した底部より内湾気味に立ち上がる。180は、平らな底部より内湾気味に立ち上がる。以上、176～180は、中世のものとして比定できる。

181は、白磁皿。口縁部はやや外反する。内外面に透明釉を施す。

182は、白磁碗。玉縁口縁。内外面に透明釉を施す。12世紀後半～13世紀初頭の遺物である。

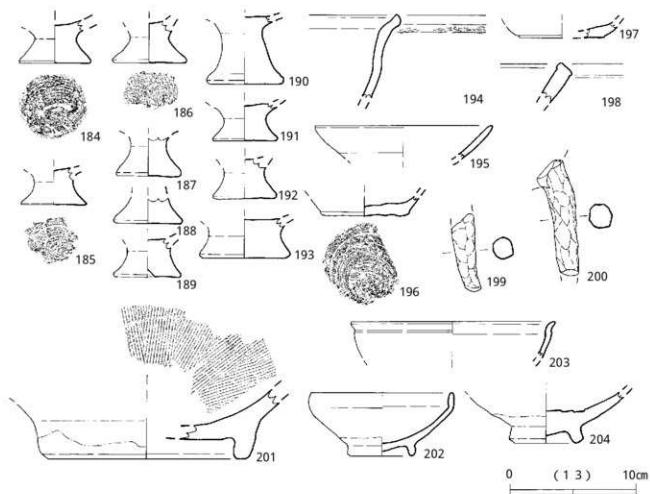
183は、青磁碗。底部から緩やかに立ち上がる。内外面にオリブ灰色の釉を施す。

5 表面採集遺物（第30図、図版18）

184～204は、表面採集遺物。184～193は、土師器台付皿の台部。すべて、台部が接地面から内傾して立ち上がる。185以外は、台部の端部が一段高くなる。189は、底部中央部が切れ上がる。190は、器高が高く、193は、他より一回り大きく器高が低い。以上、12～13世紀の遺物として比定できる。

194は、土師質土器鍋の体部一口縁部片。口縁部が、「く」の字形に外反する。

195～197は、土師器坏。195は、土師器坏の体部一口縁部片。体部が内湾気味に開く。口縁端部は



第30図 表面採集遺物実測図

丸い。14～15世紀の遺物である。196、197は、土師器坏の底部片。196は、上外方に直線的に立ち上がる。197は、平らな底部より上外方に立ち上がる。

198は、瓦質土器播鉢又は捏ね鉢の口縁部。口縁端部が内側に折れ曲がる。

199、200は、瓦質土器足鍋の脚部。

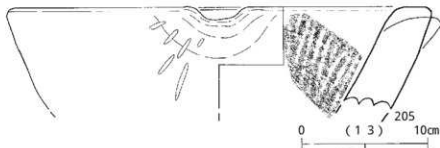
201は、陶器播鉢の底部一部份。オロシ目13条単位。削り出し高台。灰褐色の釉を施す。

202は、萩焼の陶器碗。底部から上外方に直線的に立ち上がる。口縁部は、ほぼ直立し端部は丸く終わる。削り出し高台。内外面に灰白色の釉を施す。体部下半は露胎。内面に胎土目痕あり。18世紀の遺物と比定できる。

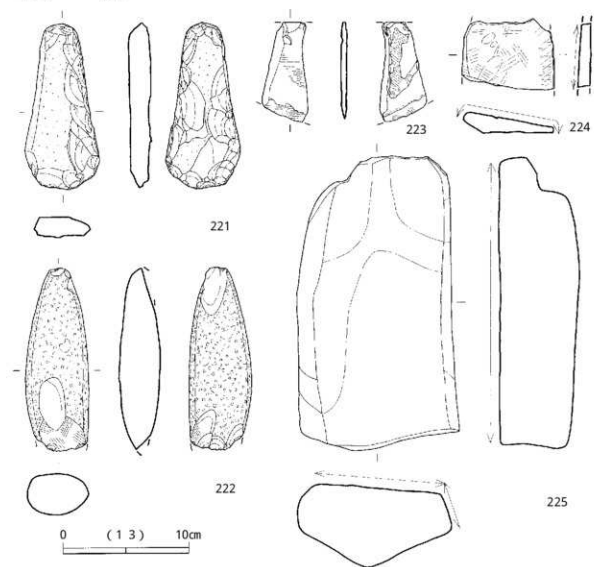
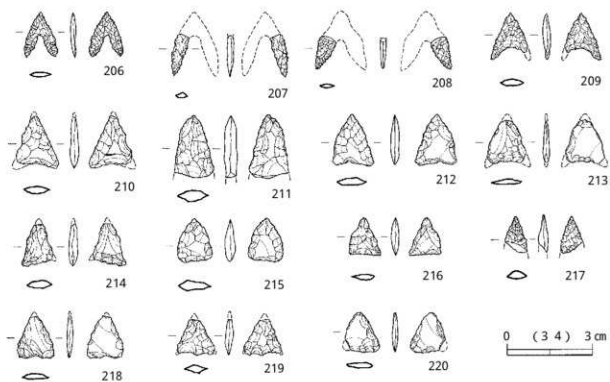
203は、白磁碗の口縁部。口縁端部が外反する。内外面に、灰白色の釉を施す。

204は、青磁碗の底部

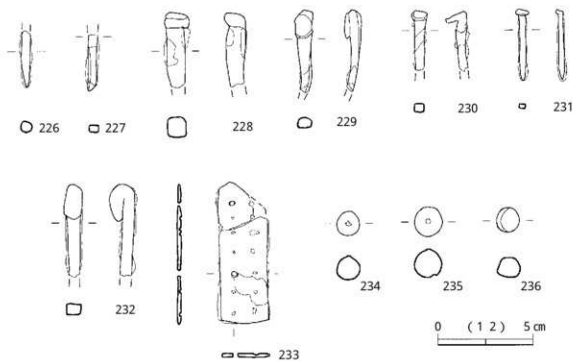
片。内外面に、オリーブ色の釉を施す。体部下半露胎。削り出し高台。内面に沈圈線あり。



第31図 石器・石製品実測図



第32图 石器・石製品実測図



第33図 金属製品実測図

6 石器・石製品 (第31図～第32図、図版19)

205は、砂岩製の播鉢。1 A地区遺物包含層から出土。器壁の内外面には、鋭利な施工具による縦方向の線状の刻みがある。器壁が厚く、口縁の一部に注口が取り付け。底部欠損。206～220は、打製石鏃。207、208は、腸線（逆刺）のみ残存。211、217は、基部が欠損している。いずれも無茎式で、基部の形態から平基式（214～216、218～220）と凹基式（206～210、212、213）に分けられる。平面の形態からは、正三角形に近いもの（215、216、218～220）、二等辺三角形に近いもの（206～214、217）とに分けられる。石材は、安山岩製が多いが、姫島産黒曜石製、黒色黒曜石製のものもある。210は、S D 1164から出土。それ以外は、遺物包含層からの出土又は表面採集遺物である。221は、玄武岩製の扁平打製石斧。222は、花崗岩製の乳棒状石斧。全体に敲打による成形がみられ、刃部のみ研ぎ出されている。223は、両刃の大型石砲丁片。泥岩で1 A地区遺物包含層から出土。224、225は、砂岩製の砥石。224は、正面とその周縁面に、225は、正面と右側面に使用痕あり。

7 金属製品 (第33図、図版20)

226は、鉄鏃茎部又は鉄釘。S K 1016から出土。断面は長円形。227は、鉄釘。S P 1204から出土。断面は長方形。228は、鉄釘（折釘）か。S P 1076から出土。断面は方形。229～231は鉄釘。229は、S D 1164から出土。230、231は、表面採集遺物。いずれも折釘で断面は長方形。232は、不明鉄製品。頭部を180°折り曲げる。断面は長方形。233は、小札。二行十三孔の平札と考えられる。上部の一部が欠損しており、二行十四孔の伊予札の可能性もある。234～236は、火銃銃の円弾。いずれも白色錆が付着し、鉛弾と考えられる。234、235は、器面の1箇所に小突起部がある。236は、歪んでいる。

第3表 遺物観察一覧表

土器観察表

番号	出土 地区	出土 遺物	種 別	器 種	容量 (cm)			手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調		
					口径	胴径	底径				内 面	外 面	
1	1B	S P 1205	土師器	坏			6.7	内外面回転ナズ調整、 底部回転糸切り。	灰。細粒を 多く含む。	やや軟質	褐色	褐色	
2	1B	S P 1205	瓦質土器	足輪餅				指押さ入後ナズ調整。	灰。細粒を 多く含む。	やや軟質	褐色	褐色	
3	1B	S P 1177	土師器	坏	15 A			器内面磨減のため調整不明。 外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色	
4	1B	S P 1105	青磁	碗			7.7	内外面磨減。見込み部略削ぎ。 削り出し高台。	灰。	硬質	釉薬：明オリブ灰色 胎土：灰白色		
5	1D	S P 1043	土師器	皿			5.0	器内外面磨減のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い褐色	鈍い黄褐色	
6	1B	S P 1173	土師器	皿	11 D		4.8	2.7	内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
7	1D	S P 1013	土師器	坏か			6.0	内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い褐色	鈍い褐色	
8	1D	S P 1013	土師器	皿	6.9		7.6	1.25	内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
9	2A	S P 2019	須恵器	坏蓋	17 D			内外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	黄灰色	黄灰色	
13	1B	S K 1262	弥生土器	壺	21 6			器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	
14	1B	S K 1262	弥生土器	壺				器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	
15	1B	S K 1262	弥生土器	壺		26 3		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	褐色	褐色	
16	1B	S K 1262	弥生土器	壺				内面ハケ目調整。 外面へらミガキ調整。	粗。砂粒を 少量含む。	やや軟質	灰黄褐色	鈍い黄褐色	
17	1B	S K 1262	弥生土器	壺				内外面へらミガキ調整。	粗。砂粒を 少量含む。	軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	
18	1B	S K 1262	弥生土器	横				器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	鈍い黄褐色	
19	1B	S K 1262	弥生土器	横				内面ハケ目調整。 器外面磨減のため調整不明。	粗。細粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色	
20	1B	S K 1262	弥生土器	横			8.2	器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	灰黄褐色	褐色	
21	1B	S K 1262	弥生土器	横			8.0	器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	淡赤褐色	
22	1B	S K 1263	弥生土器	壺	20 A			器内面磨減のため調整不明。 外面へらミガキ調整か。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	灰白色	オリブ褐色	
23	1B	S K 1263	弥生土器	壺				器内面磨減のため調整不明。 外面の一部にへらミガキ調整がみられる。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色	
24	1B	S K 1263	弥生土器	壺			17.0	器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	
25	1B	S K 1263	弥生土器	壺			11.0	器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	褐色	鈍い褐色	
26	1B	S K 1263	弥生土器	横				器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色	
27	1B	S K 1263	弥生土器	横	20 6	18 3		内面ハケ目調整。 口縁部ヨコナズ調整。	粗。砂粒を 少量含む。	軟質	褐色	褐色	
28	1B	S K 1263	弥生土器	横				内面胴部にハケ目調整がみられる。 器外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	
29	1B	S K 1263	弥生土器	横				器内面磨減のため調整不明。 外面胴部にハケ目調整がみられる。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	鈍い黄褐色	
30	1B	S K 1263	弥生土器	横				内面へらミガキ調整。口縁部へらミガキ調整。 ちぢヨコナズ調整。外面ハケ目調整。口 縁部へらミガキ調整のちぢヨコナズ調整。	粗。砂粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色	
31	1B	S K 1263	弥生土器	横			7.0	器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	褐色	灰白色	
32	1B	S K 1263	弥生土器	横			7.6	内面磨減のため調整不明。外面ハケ目 調整。外面底部は指押さ入調整か。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	褐色	
33	1B	S K 1263	弥生土器	横			8.5	器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	淡黄褐色	

番号	出土 地区	出土 遺構	種 別	器 種	流量 (cm)				手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調		
					口径	胴径	底径	器高				内 面	外 面	
34	1 B	S K 1263	炊生土器	甕			7.2		器内外面磨滅のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	褐色	
35	2 A	S K 2012	須恵器	坏蓋	12.9			2.3	天井部外面回転へう切り後回転ナゲ調整。口縁部内外面回転ナゲ調整。天井部内面中央部不整方向ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	硬質	灰色	灰色	
36	2 A	S K 2012	須恵器	坏蓋	13.8			2.4	天井部外面回転へう切り後回転ナゲ調整。口縁部内外面回転ナゲ調整。天井部内面回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	硬質	灰色	灰色	
37	2 A	S K 2012	須恵器	坏蓋	13.9			3.3	天井部内面中央部回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	やや軟質	灰白色	灰白色	
38	2 A	S K 2012	須恵器	坏身	12.0		7.8	4.2	底部外面回転へう切り後回転ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	硬質	灰色	灰色	
39	2 A	S K 2012	須恵器	坏身	15.4			9.8	6.7	底部外面回転へう切り後回転ナゲ調整。底部内面回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	軟質	灰白色	灰白色
40	2 A	S K 2012	須恵器	皿	13.3			11.2	1.5	底部外面回転へう切り後回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。底部内面回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	硬質	灰色	灰色
41	2 A	S K 2014	須恵器	坏蓋	17.6				天井部外面回転へう切り後回転ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	硬質	黄褐色	灰色	
42	2 A	S K 2014	須恵器	坏蓋	15.8				口縁部内外面回転ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	硬質	灰色	灰白色	
43	2 A	S K 2014	須恵器	短頸甕	4.8	7.8	4.9	5.3	底部外面回転へう切り後不整方向ナゲ調整。胴部外面下部回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	硬質	暗青色	暗青色	
44	2 A	S K 2014	土師器	甕					器内外面磨滅のため調整不明。	粗。砂粒を少量含む。	軟質	灰褐色	褐色	
45	2 A	S K 2001	須恵器	坏蓋					天井部の現状つまみ内不整方向ナゲ調整。天井部内面中央部不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	硬質	灰色	灰色	
46	2 A	S K 2025	須恵器	坏身				9.4	器内外面磨滅のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	灰白色	灰白色	
47	1 A	S K 1015	土師製土器	鍋					内面八ヶ目調整。外面口縁部ヨコナゲ調整。外面体部八ヶ目調整後指押さえ調整。	粗。砂粒を多く含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	
48	1 D	S K 1012	土師製土器	鍋	28.2				内面八ヶ目調整。口縁部ヨコナゲ調整。外面体部八ヶ目調整後ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	
49	1 A	S K 1016	瓦質土器	足縁鉢					指押さえ後ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	硬質		灰色	
50	1 D	S P 1004	須恵器	坏身				6.2	底部外面回転へう切り後不整方向ナゲ調整。底部内面回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	硬質	灰色	灰色	
51	1 D	S P 1027	須恵器	坏身				9.0	底部外面回転へう切り後不整方向ナゲ調整。底部内面回転ナゲ調整後不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	やや軟質	灰白色	灰白色	
52	1 D	S P 1006	須恵器	坏身				8.6	底部外面回転へう切り後不整方向ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	硬質	暗青色	暗青色	
53	1 B	S P 1259	須恵器	坏身	13.2			7.2	3.4	底部外面回転へう切り後回転ナゲ調整。他は回転ナゲ調整。	粗。砂粒を多く含む。	やや軟質	灰白色	灰白色
54	2 A	S P 2034	土師器	台付皿	9.0				内外面回転ナゲ調整。	粗。砂粒を少量含む。	やや軟質	褐色	褐色	
55	3 A	S P 3004	土師器	台付皿	9.0			5.5	4.2	内外面回転ナゲ調整。底部回転糸切り。	粗。砂粒を少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
56	2 A	S P 2007	土師器	坏				6.0	内面磨滅のため調整不明。外面回転ナゲ調整。底部回転糸切り。	粗。砂粒を多く含む。	やや軟質	黄褐色	黄褐色	
57	2 A	S P 2007	土師器	坏	15.8			7.6	3.5	底部内面磨滅のため調整不明。他は回転ナゲ調整。底部切り磨し磨不明。	粗。砂粒を多く含む。	やや軟質	褐色	褐色
58	1 D	S P 1218	土師器	皿	6.4			5.0	0.25	内面回転ナゲ調整。外面回転ナゲ調整か。底部回転糸切り。	粗。砂粒を少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
59	1 D	S P 1218	土師器	皿	10.0			9.2	1.1	内外面回転ナゲ調整。底部回転糸切り。	粗。砂粒を少量含む。	やや軟質	鈍い褐色	暗灰色
60	1 B	S P 1123	土師器	坏				4.4	器内外面磨滅のため調整不明。底部回転糸切りか。	粗。砂粒を少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色	

番号	出土 地区	出土 遺物	種 別	器 種	流量 (cm)				手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	
					口径	胴径	底径	器高				内 面	外 面
61	1 B	S P 1207	土師器	坏			7.0		内外面回転ナズ調整。 底部切り直し痕不明。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
62	1 D	S P 1005	土師器	皿			5.2		内外面回転ナズ調整か、 底部回転糸切り。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い褐色	鈍い褐色
63	1 D	S P 1005	土師器	坏か			6.2		内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色
64	1 A	S P 1072	土師器	皿			5.0		器内面磨減のため調整不明。 外面回転ナズ調整。底部回転糸切り。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色
65	1 B	S P 1268	土師器	坏か			6.8		器内面磨減のため調整不明。 外面回転ナズ調整か、底部回転糸切り。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
66	1 D	S P 1008	土師器	瓶			6.2		内外面回転ナズ調整か、 底部切り直し痕不明。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
67	1 A	S P 1264	土師器	皿	5.2		3.9	1.3	内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
68	1 B	S P 1172	土師器	皿			4.4		器内外面磨減のため調整不明。 底部回転糸切り。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
69	1 A	S P 1273	土師器	皿	6.8		5.0	1.3	内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	底、細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
70	1 D	S P 1018	土師製土器	鉢					内面ハケ目調整。 口縁部ヨコナズ調整。	底、砂粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
71	1 B	S P 1112	土師製土器	鉢					内面ハケ目調整。 口縁部ヨコナズ調整。	底、砂粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	灰黄褐色
72	1 A	S P 1014	陶器	瓶	5.1				内外面磨減。	底、	硬質	釉薬：オリブ灰色 胎土：灰色	
73	1 B	S P 1148	白磁	碗	15.0				外面回転ヘラケズリ。 内外面磨減。底部下半磨減。	底、	硬質	釉薬：明オリブ灰色 胎土：灰白色	
74	1 A	S P 1071	白磁	碗			8.2		ケズリ出し磨台。 底部外周や磨台部は磨減。	底、	硬質	釉薬：明オリブ灰色 胎土：灰白色	
75	1 B	S P 1075	瓦製土器	鉢					内面ヨコナズ調整。 外面磨減すえ後ナズ調整。	底、砂粒を 多く含む。	やや軟質	暗灰色	暗灰色
76	1 B	S P 1269	瓦製土器	焙烙 把字部					磨りさえ後ナズ調整。	底、砂粒を 少量含む。	硬質	暗灰色	暗灰色
77	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕	17.2				器内面磨減のため調整不明。 外面の一部にヘラミナリ調整がみられる。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い褐色
78	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	褐色	褐色
79	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	黄褐色	黄褐色
80	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い褐色	鈍い褐色
81	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色
82	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	やや軟質	黄褐色	褐色
83	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	黄褐色	黄褐色
84	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	鈍い褐色
85	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色
86	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	黄褐色	黄褐色
87	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
88	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕			9.0		器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	黄褐色	黄褐色
89	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			10.8		器内外面磨減のため調整不明。	底、砂粒を 多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い褐色

番号	出土地区	出土遺物	種別	器種	流量 (cm)				手法の特徴	胎土	焼成	色調	
					口径	胴径	底径	器高				内面	外面
90	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕	34.2				器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	灰白色	黄灰色
91	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内面磨減のため調整不明。 胴部外面にハケ目調整がみられる。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	浅黄褐色	浅黄褐色
92	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い赤褐色
93	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内面磨減のため調整不明。外面ハケ目調整。 口縁部ハケ目調整のちヨコナデ調整。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	灰褐色
94	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い褐色	鈍い褐色
95	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	浅黄褐色	褐色
96	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い褐色	浅黄褐色
97	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕					器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い褐色	鈍い赤褐色
98	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕	30.6				器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	明黄褐色	明黄褐色
99	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕	29.0				器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色
100	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			9.0		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	褐色
101	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			4.4		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	明黄褐色	明黄褐色
102	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			8.2		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	赤褐色	赤褐色
103	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			7.6		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	褐色
104	1 A	遺物 包含層	弥生土器	甕			9.2		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	黄褐色	黄褐色
105	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			9.0		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	鈍い黄褐色	褐色
106	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			10.0		器内面磨減のため調整不明。 外面にハケ目調整がみられる。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	黄褐色	灰黄褐色
107	1 B	遺物 包含層	弥生土器	甕			11.2		器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を多く含む。	軟質	浅黄褐色	浅黄褐色
108	1 B	遺物 包含層	須恵器	坏蓋	17.0				天井部外面回転へう切り後回転ナデ調整。 口縁部内外面回転ナデ調整。天井部内部中央部不整方向ナデ調整。	粗。細粒を多く含む。	硬質	灰色	灰白色
109	1 A	遺物 包含層	須恵器	坏蓋					天井部内部中央部不整方向ナデ調整。 他は回転ナデ調整。	粗。細粒を多く含む。	硬質	暗青灰色	暗青灰色
110	1 B	遺物 包含層	須恵器	坏身	11.7				内外面回転ナデ調整。	粗。砂粒を少量含む。	やや軟質	灰黄色	灰黄色
111	1 B	遺物 包含層	須恵器	坏身			10.0		底部内面中央部不整方向ナデ調整。 他は回転ナデ調整。	粗。細粒を少量含む。	硬質	灰色	灰色
112	1 B	遺物 包含層	須恵器	坏身			9.2		内外面回転ナデ調整。	粗。細粒を少量含む。	硬質	灰色	灰色
113	1 B	遺物 包含層	須恵器	坏身			9.6		内外面回転ナデ調整。	粗。細粒を少量含む。	硬質	灰色	灰色
114	1 B	遺物 包含層	須恵器	坏身			8.0		底部外面回転へう切り後回転ナデ調整。 他は回転ナデ調整。	粗。細粒を多く含む。	硬質	灰色	灰色
115	1 A	遺物 包含層	須恵器	坏身			9.5		内外面回転ナデ調整。	粗。砂粒を多く含む。	硬質	灰色	灰色
116	1 B	遺物 包含層	須恵器	坏身					内外面回転ナデ調整。	粗。砂粒を少量含む。	硬質	灰白色	灰白色
117	1 B	遺物 包含層	須恵器	長頸甕か					内外面回転ナデ調整。	粗。砂粒を少量含む。	硬質	灰色	灰白色
118	1 A	遺物 包含層	須恵器	甕					胴部内面に当て貫通。外面に平行クワタ目調整がみられる。口縁部内外面回転ナデ調整。	粗。細粒を多く含む。	硬質	灰色	灰色

番号	出土 地区	出土 遺物	種 別	器 種	流量 (cm)				手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	
					口径	胴径	底径	器高				内 面	外 面
119	1 B	遺物 粘土類	須恵器	皿 または 高杯	18 A				内外面回転ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	硬質	青灰色	青灰色
120	1 A	遺物 粘土類	須恵器	壺			15.4		内外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
121	1 B	遺物 粘土類	瓦質土器	足綱	22.2				内面ハケ目調整後ヨコナズ調整。 外面ヨコナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	やや軟質	暗灰色	灰色
122	1 A	遺物 粘土類	瓦質土器	足綱					内面ハケ目調整後ヨコナズ調整。 外面ヨコナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
123	1 A	遺物 粘土類	瓦質土器	碟鉢					内外面ヨコナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	やや軟質	灰白色	灰色
124	1 A	遺物 粘土類	土師器土器	鍋					器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
125	1 A	遺物 粘土類	土師器	杯			8.6		内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切りか。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
126	1 A	遺物 粘土類	土師器	杯	13 D				器内外面磨減のため調整不明。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
127	1 B	遺物 粘土類	土師器	皿			5.6		器内外面磨減のため調整不明。 底部回転ナズ調整。底部切り筋し痕不明。	粗。細粒を 多く含む。	軟質	黄褐色	黄褐色
128	1 B	遺物 粘土類	白磁	碗			6.8		内面焼結。外面焼結所不明。 削り出し系台。	灰。	硬質	釉薬：灰白色 胎土：灰白色	
129	1 B	遺物 粘土類	白磁	碗			7.0		内外面釉薬溶融不良。高台内磨削。 削り出し系台。	灰。	硬質	釉薬：溶融不良 胎土：鈍い黄褐色	
130	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋					内面回転ナズ調整後不整方向ナズ調整。 外面回転ナズ調整か。	灰。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
131	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	12 D				天井部外面回転へう切り後回転ナズ調整。 口縁部内外面回転ナズ調整。天井部内面 回転ナズ調整後不整方向ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	軟質	灰白色	灰白色
132	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	16.2				内外面回転ナズ調整。	灰。砂粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
133	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	16.8				内面回転ナズ調整。 器内外面磨減のため調整不明。	灰。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
134	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	14 D				内外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	軟質	灰白色	灰白色
135	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋					内外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
136	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋					天井部内面中央部不整方向ナズ調整。 天井部外面回転ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
137	1 D	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋					天井部内面中央部不整方向ナズ調整。 天井部外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
138	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	12.1				器内外面磨減のため調整不明。 外面回転ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	軟質	灰白色	灰白色
139	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	13 A				天井部外面回転へう切り後回転ナズ調整後 不整方向ナズ調整。口縁部内外面回転ナズ 調整。天井部内面中央部回転ナズ調整後不 整方向ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	青灰色	青灰色
140	1 D	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	12.7				天井部外面回転へう切り後回転ナズ調整。 口縁部内外面回転ナズ調整。内面回転ナズ 調整。	灰。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
141	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	14 A				内外面回転ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
142	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏身					内外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
143	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋					内外面回転ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	硬質	青灰色	青灰色
144	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋					天井部外面回転へう切り後回転ナズ調整後 不整方向ナズ調整。口縁部内外面回転ナズ 調整。内面回転ナズ調整後不整方向ナズ調 整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
145	2 A	遺物 粘土類	須恵器	坏蓋	18.2				内外面回転ナズ調整。	灰。砂粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色

番号	出土 地区	出土 遺物	種 別	器 種	流量 (cm)				手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	
					口径	胴径	底径	器高				内 面	外 面
146	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏蓋	12.2				内外面回転ナズ調整。	泥。細粒を 少量含む。	硬質	灰白色	灰色
147	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏蓋	14.4				内外面回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
148	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏蓋	13.0				天井部外面回転へう切り後回転ナズ調整。 口縁部回転ナズ調整。内面回転ナズ調整後 不整方向ナズ調整。	泥。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
149	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏蓋	14.4				天井部外面回転へう切り後回転ナズ調整。 口縁部回転ナズ調整。内面回転ナズ調整後 不整方向ナズ調整。	泥。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
150	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏蓋	13.0				内外面回転ナズ調整。	泥。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
151	1 D	遺物 付金釧	須臾器	坏身	11.0				内外面回転ナズ調整。	泥。砂粒を 少量含む。	やや軟質	灰黄色	灰黄色
152	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		7.6			器内外面磨滅のため調整不明。	泥。砂粒を 多く含む。	軟質	灰白色	灰白色
153	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		9.0			内外面回転ナズ調整。	泥。砂粒を 多く含む。	硬質	黄灰色	黄灰色
154	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		8.2			底部外面回転へう切り後回転ナズ調整後不 整方向ナズ調整。底部内面回転ナズ調整後 不整方向ナズ調整。他は回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
155	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		9.9			外面回転ナズ調整。底部内面回転ナズ調整 後不整方向ナズ調整。	泥。砂粒を 少量含む。	硬質	褐色	褐色
156	1 D	遺物 付金釧	須臾器	坏身		9.0			内外面回転ナズ調整。	泥。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
157	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		9.0			底部外面回転ナズ調整後不整方向ナズ調 整。底部内面回転ナズ調整後不整方向ナズ 調整。他は回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
158	1 D	遺物 付金釧	須臾器	坏身		8.6			底部内面回転ナズ調整後不整方向ナズ調 整。他は回転ナズ調整。	泥。砂粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
159	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		8.2			底部外面回転ナズ調整後不整方向ナズ調 整。底部内面回転ナズ調整後不整方向ナズ 調整。他は回転ナズ調整。	泥。砂粒を 多く含む。	硬質	暗青灰色	暗青灰色
160	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		9.0			底部外面回転へう切り後回転ナズ調整。 他は回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
161	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身	12.0	7.6	4.4		底部外面回転へう切り後回転ナズ調整後 不整方向ナズ調整。他は回転ナズ調整。	泥。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
162	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		10.6			底部部外面磨滅のため調整不明。 他は回転ナズ調整。	泥。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
163	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		9.0			内外面回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
164	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		9.8			内外面回転ナズ調整。	泥。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
165	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		8.1			底部外面回転へう切り後回転ナズ調整。底 部内面回転ナズ調整後不整方向ナズ調整。 他は回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
166	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身	14.6		6.6		底部外面回転へう切り後回転ナズ調整。 他は回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	暗青灰色	暗青灰色
167	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		8.0			底部外面回転へう切り後回転ナズ調整。 他は回転ナズ調整。	泥。砂粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
168	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身	12.8	9.4	4.0		底部外面回転へう切り後回転ナズ調整後 不整方向ナズ調整。他は回転ナズ調整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰白色	灰白色
169	2 A	遺物 付金釧	須臾器	坏身		8.0			底部外面停止へう切り。底部内面回転ナズ 調整後不整方向ナズ調整。他は回転ナズ調 整。	泥。細粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
170	2 A	遺物 付金釧	須臾器	高坏					底部内面回転ナズ調整後不整方向ナズ調 整。他は回転ナズ調整。	泥。砂粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
171	2 A	遺物 付金釧	須臾器	皿	14.4	12.4	1.6		底部内外面回転ナズ調整後不整方向ナズ調 整。他は回転ナズ調整。	泥。砂粒を 多く含む。	硬質	灰色	灰色
172	2 A	遺物 付金釧	須臾器	壺		15.6			内面ヨコナズ調整。 外面回転ナズ調整。	泥。砂粒を 少量含む。	硬質	灰白色	灰色
173	1 D	遺物 付金釧	須臾器	円蓋					内外面回転ナズ調整。	泥。細粒を 少量含む。	硬質	黄灰色	暗紫灰色
174	2 A	遺物 付金釧	弥生土器	甕	21.8	21.8			器内面磨滅のため調整不明。 底部外面ハケ目調整。	粗。砂粒を 多く含む。	軟質	灰黄褐色	褐色

番号	出土 地区	出土 遺物	種 別	器 種	流量 (cm)				手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	
					口径	頸径	底径	器高				内 面	外 面
175	2 A	遺物 付金釧	土師器	横	18.2				口縁部外面ヨコナゾ調整。 他は露部磨滅のため調整不明。	灰。砂粒を 少量含む。	軟質	淡黄褐色	鈍い褐色
176	1 D	遺物 付金釧	土師器	皿			5.8		器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。砂粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
177	1 D	遺物 付金釧	土師器	皿	7.0		5.0	1.5	器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
178	2 A	遺物 付金釧	土師器	皿	8.8		5.0	1.6	器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 多く含む。	やや軟質	褐色	褐色
179	1 D	遺物 付金釧	土師器	皿	6.8		3.8	0.9	器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
180	1 D	遺物 付金釧	土師器	皿	7.8		5.2	0.9	器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色
181	1 D	遺物 付金釧	白磁	皿	13.2				内外面磨滅。	灰。	硬質	釉薬：灰白色 胎土：灰白色	
182	1 D	遺物 付金釧	白磁	碗					内外面磨滅。	灰。	硬質	釉薬：灰白色 胎土：灰白色	
183	1 D	遺物 付金釧	青磁	碗			5.8		内外面磨滅。裏付・裏台内磨滅。 附り出し高台。	灰。	硬質	釉薬：オリーブ灰色 胎土：灰白色	
184	3 A	表面採集	土師器	台付皿			5.3		器内面磨滅のため調整不明。 外面回転ナズ調整。底部回転糸切り。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
185	3 A	表面採集	土師器	台付皿			4.8		内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
186	3 A	表面採集	土師器	台付皿			5.6		内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
187	3 A	表面採集	土師器	台付皿			4.8		器外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
188	3 A	表面採集	土師器	台付皿			5.0		器外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
189	3 A	表面採集	土師器	台付皿			3.0		器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
190	3 A	表面採集	土師器	台付皿			5.8		器内面磨滅のため調整不明。 外面回転ナズ調整。底部回転糸切り。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
191	3 A	表面採集	土師器	台付皿			4.8		器内面磨滅のため調整不明。 外面回転ナズ調整。底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
192	3 A	表面採集	土師器	台付皿			4.6		器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
193	3 A	表面採集	土師器	台付皿			6.4		器内外面磨滅のため調整不明。 底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	淡黄褐色
194	1 B	表面採集	土師器土器	鍋					器内面磨滅のため調整不明。 外面ハケ目調整後ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	やや軟質	淡黄褐色	鈍い黄褐色
195	1 A	表面採集	土師器	坏	13.8				内外面回転ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	褐色
196	1 A	表面採集	土師器	坏			6.8		内外面回転ナズ調整。 底部回転糸切り。	灰。砂粒を 少量含む。	やや軟質	褐色	鈍い黄褐色
197	1 B	表面採集	土師器	坏			6.6		器内面磨滅のため調整不明。外面回転ナズ 調整か。底部切り磨し痕不明。	灰。細粒を 少量含む。	やや軟質	鈍い褐色	褐色
198	1 B	表面採集	瓦質土器	磁鉢または 控む鉢					内面ナズ調整か。 器外面磨滅のため調整不明。	灰。砂粒を 少量含む。	やや軟質	灰白色	灰色
199	1 B	表面採集	瓦質土器	足縁部					指押さえ後ナズ調整。	灰。砂粒を 少量含む。	やや軟質	灰白色	灰白色
200		表面採集	瓦質土器	足縁部					指押さえ後ナズ調整。	灰。細粒を 少量含む。	硬質	灰色	灰色
201	1 B	表面採集	陶器	磁鉢			15.6		内面オロシ目。外面回転ヘラクスリ後回転 ナズ調整。附り出し高台。	灰。	硬質	釉薬：灰褐色 胎土：淡黄褐色	
202		表面採集	陶器	碗	10.8		4.6	4.9	内外面磨滅。底部下半磨滅。 附り出し高台。	灰。	硬質	釉薬：灰白色 胎土：淡黄褐色	
203	1 B	表面採集	白磁	碗	16.0				内外面磨滅。	灰。	硬質	釉薬：灰オリーブ色 胎土：灰白色	
204	1 B	表面採集	青磁	碗			4.8		内外面磨滅。底部下半磨滅。 附り出し高台。	灰。	硬質	釉薬：灰オリーブ色 胎土：灰褐色	

石器・石製品観察表

番号	出土地区	出土遺構	種別	石材	法量 (cm)				手法の特徴	色調
					口径	胴径	底径	器高		
205	1 A	遺物包含層	石鉢	砂岩	24 D				内外面ノミケズリ後ミガキ調整。	灰黄色

番号	出土地区	出土遺構	種別	石材	法量 (cm)			重量 (g)	特徴	色調
					長さ	幅	厚さ			
206	2 A	遺物包含層	打製石鏃	塔角産 黒曜石	1.6	1.2	0.2	0.2	押圧剥離。成品。凹基無茎鏃。線形鏃。	灰色
207	1 B	遺物包含層	打製石鏃	安山岩	残1.5	残0.6	0.2	残0.1	押圧剥離。成品。欠損品。凹基無茎鏃。線形鏃の逆刺部か。	暗灰色
208	1 D	遺物包含層	打製石鏃	塔角産 黒曜石	残1.2	残0.8	0.2	残0.1	押圧剥離。成品。欠損品。凹基無茎鏃。線形鏃の逆刺部か。	灰色
209	1 A	遺物包含層	打製石鏃	塔角産 黒曜石	1.7	残1.3	0.3	残0.3	押圧剥離。成品。凹基無茎鏃。決り入り三角鏃。	灰色
210	1 D	S D1164	打製石鏃	安山岩	残1.9	残1.6	0.3	残0.8	押圧剥離。成品。凹基無茎鏃。	明青灰色
211	1 B	表面採集	打製石鏃	安山岩	残2.2	残1.4	0.5	残1.4	押圧剥離。成品。基部欠損。	暗青灰色
212		表面採集	打製石鏃	安山岩	1.8	1.5	0.3	0.5	押圧剥離。成品。凹基無茎鏃。	明青灰色
213	1 A	遺物包含層	打製石鏃	安山岩	残1.5	残1.4	0.25	残0.6	押圧剥離。成品。凹基無茎鏃。	明青灰色
214		表面採集	打製石鏃	安山岩	残1.5	残1.1	0.3	残0.4	押圧剥離。成品。平基無茎鏃。	暗青灰色
215		表面採集	打製石鏃	安山岩	1.6	1.2	0.4	0.7	押圧剥離。成品。平基無茎鏃。	暗青灰色
216		表面採集	打製石鏃	安山岩	1.4	1.1	0.25	0.3	押圧剥離。成品。平基無茎鏃。	暗青灰色
217		表面採集	打製石鏃	黒色 黒曜石	残1.3	残0.8	0.3	残0.2	押圧剥離。成品。基部欠損。	黒色
218		表面採集	打製石鏃	安山岩	残1.5	1.3	0.2	残0.4	押圧剥離。成品。平基無茎鏃。	暗青灰色
219		表面採集	打製石鏃	安山岩	残1.3	残1.3	0.3	残0.3	押圧剥離。成品。平基無茎鏃。	暗青灰色
220		表面採集	打製石鏃	安山岩	1.4	残1.2	0.2	残0.4	押圧剥離。成品。平基無茎鏃。	暗青灰色
221	1 D	表面採集	打製石片	玄武岩	13.2	5.9	1.8	183	整形剥離後、縁辺調整。成品。扁平打製石片。	暗青灰色
222		表面採集	局部磨製石片	花崗岩	残14.5	5.0	3.3	残330	整形剥離、敲打調整後、2面から刃部を研ぎだす。成品。刃部欠損。局部磨製石片。	明オリブ灰
223	1 A	遺物包含層	石彫丁	泥岩	残3.7	残7.9	0.5	20	両刃で刃部には精緻な研磨痕がみられる。成品。欠損品。外湾刃半月形石彫丁。	灰色
224	1 B	S K1015	砥石	砂岩	残5.7	7.3	1.7	69.1	研砥面は正面とその周縁面にのみとめられる。使用痕(擦過痕)あり。	鈍い橙色
225	1 D	遺物包含層	砥石	砂岩	23.2	12.8	6.6	2870	正面と右側面を研砥面として使用。研磨作業により若干窪んでいる箇所がある。	鈍い赤褐色

金属製品観察表

番号	出土地区	出土遺構	鉄・鉛製品	器種	法 量 (cm)		重量 (g)	特 徴
					長さ	断面幅		
10	1 B	S P1052	鉄製品	鉄釘	長さ: 残3.7	断面幅: 0.45 0.4	残1.8	頭部欠損。
11	1 B	S P1052	鉄製品	鉄釘	長さ: 残6.3	断面幅: 0.45 0.35	残5.2	折釘。下部欠損。
226	1 A	S K1016	鉄製品	不明	長さ: 残3.0	断面径: 0.55	残1.5	欠損品。鉄釘または鉄線の茎部か。
227	1 B	S P1204	鉄製品	鉄釘	長さ: 残3.0	断面幅: 1.0 1.0	残2.2	頭部欠損。
228	1 B	S P1076	鉄製品	鉄釘か	長さ: 残3.9	断面幅: 1.0 1.0	残8.6	折釘か。下部欠損。
229	1 B	S D1164	鉄製品	鉄釘	長さ: 残4.35	断面幅: 0.65 0.5	残4.6	折釘。下部欠損。
230	1 B	表面採集	鉄製品	鉄釘	長さ: 残3.15	断面幅: 0.5 0.45	残2.4	折釘。下部欠損。
231	1 B	表面採集	鉄製品	鉄釘	長さ: 3.75	断面幅: 0.35 0.2	1.2	折釘。
232	1 B	S P1148	鉄製品	不明	長さ: 残4.9	断面幅: 0.75 0.65	残9.5	下部欠損。
233	1 A	S P1231	鉄製品	小札	長さ: 7.4	幅: 2.5 長さ: 0.45	残11.9	一部欠損。
234	1 B	表面採集	鉛製品	円弾	長径: 1.3	短径1.2	11.0	端面に約3mmの小突起。 表面暗青灰色(白色錆付着)。
235	1 B	表面採集	鉛製品	円弾	長径: 1.55	短径1.5	18.7	端面に約3mmの小突起。 表面暗青灰色(白色錆付着)。
236	1 B	表面採集	鉛製品	円弾	長径: 1.3	短径1.05	9.2	歪みあり。 表面暗青灰色(白色錆付着)。

木製品観察表

番号	出土地区	出土遺構	種 類	法 量 (cm)		備 考
				直径	長さ	
12	1 B	S P1261	柱	17.4	残70.0	柱根下部のみ残存。

ま と め

美祿市大嶺周辺では、これまでも、弥生時代から中世にかけての多くの遺跡が確認・調査されてきた。今回調査した上領遺跡も、以前、道路の拡幅工事にともなって、一部で調査がなされている。しかし、今回のような本格的な発掘調査は、はじめてであり、調査前から、その成果が期待されていた。

発掘調査の結果、弥生時代から中世にわたる多くの遺構や遺物が発見され、この地に長い期間にわたって、人々が生活を営んでいたということが明らかになった。また、調査区内で、弥生・古代・中世の遺構の分布（第34図）を見ると、時代によって人々の生活の中心が移動していることがわかった。さらに、他の地域との交流を示す遺物も出土し、この地が、東西・南北とつながる交通の要衝であった可能性を示唆するものとして注目される。

以下、弥生時代から中世にかけての、上領遺跡の移り変わりを浮き彫りにし、また、他地域とのつながりも考察して、この報告書のまとめとしたい。

弥生時代前期後半の集落跡

遺物としては、縄文時代の石器も出土したが、遺構は確認できなかった。弥生時代の遺構も、当初は見つかっていなかったが、1A・1B地区遺物包含層を慎重に除去していった結果、弥生時代の遺構を確認できた。本格的にこの地に人々が住み始めたのは、弥生時代で、SK1262、1263の出土遺物から、弥生時代前期後半の集落が存在した可能性が高い。ただ、第34図を見るとわかるように、調査区西端に集中し、範囲は限定されていた。このことから、当時の集落の広がりを推定してみたい。西端にあたる1A地区北側と1B地区のSK1262北側には、厚く遺物包含層が堆積しており、北に向かって地山面が落ち込んでいる。よって、北に集落が広がるとは考えにくい。むしろ、SK1263の南西側が、調査区外へと広がることから1A・1B地区の南に弥生前期の集落の中心があると考えるのが妥当であろう。現に、南西方向約70mの場所から、以前、弥生土器が採集されている¹⁾。また、北東約150mの場所から、道路拡幅工事に伴う簡単な発掘調査で、弥生時代後期の弥生土器が出土している²⁾。

さて、今回の発掘調査で見つかった遺構の中で、特に注目されるのは、SK1262である。（第11図 図版6）SK1262は、長軸603cm、短軸258cm、深さ82cmの大型土坑で、床面を、東西方向に3本の柱穴が、ほぼ等間隔に走っている。埋土に弥生土器が含まれていたが、床面に置かれていたり、投棄されたと考えられる土器はなかった。このような土坑は、菊川町の上原遺跡に、形状の似た土坑が確認されており、貯蔵用土坑であった可能性が考えられる。ただ、土坑の東側の部分（約2m×2m）がベッド状に約10cm高くなっている。この構造は、上原遺跡の土坑にもなく、その性格については不明である。

遺物の中では、77（第26図 図版14）の弥生土器壺が注目される。これは、三隅町の湯免遺跡で出土した、湯免式壺にその形態が似ており、影響を受けた可能性がある³⁾。本遺跡と日本海沿岸地域との交流を示すものと言えよう。また、製作手法は、近隣の上原遺跡（菊川町）でも出土している内折口録壺と同様の手法を用いていると推定される。湯免式壺と内折口録壺の折衷型とも言うべきものであり、他に類例がない。今後の発掘調査で類例の増加を期待したい。

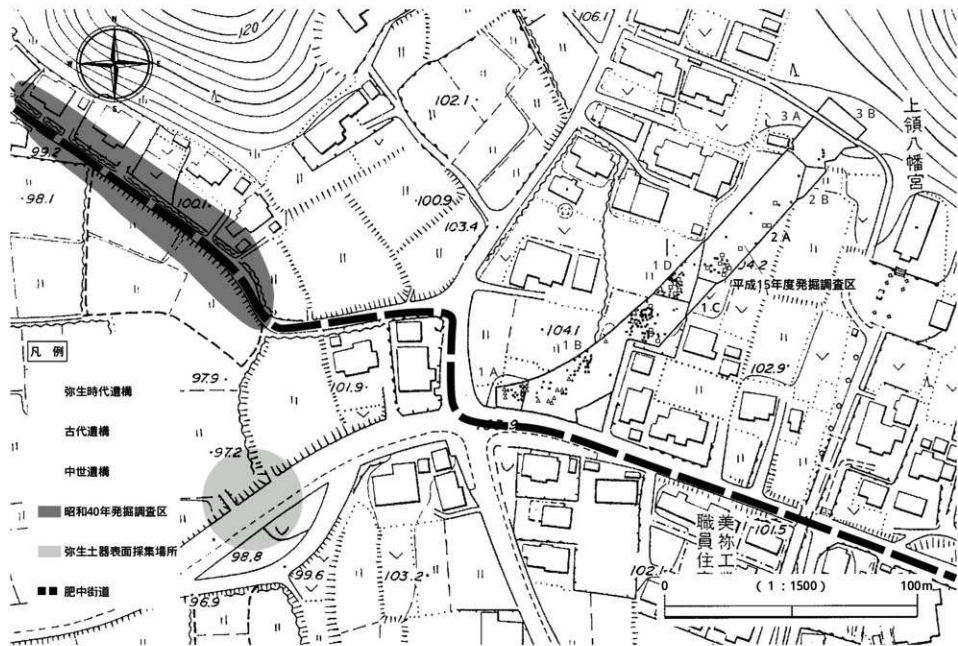
古代美祿郡の郡衙候補地

古代の上領遺跡についてみると、第34図から古代の遺構は、1B地区東側から2A地区にかけて分布しているのがわかる。出土した遺物から、奈良時代から平安時代初頭の遺構であろう。2A地区の北側には、遺構が極端に少ないが、これは、後世の耕地化にともなう削平で、遺構が消失したものと考えられる。また、1D地区から2A地区にかけて遺物包含層が広がり、多量の須恵器片が含まれている。これは、2A地区北の調査区外が、調査区より一段高くなっていることから、2A地区の北側並びに2A地区北の調査区外からの流れ込みと考えられる。以上のことから、古代の遺跡の中心は、1D・2A地区北の調査区外にあったと推定できる。また、昭和40年に発掘調査した地区⁴(第34図参照)からも、須恵器が出土しており、そこまで、遺跡が広がる可能性もある。

今回出土した須恵器の中で、ヘラ書きで「大」の字が刻まれたものが認められた。(第24図 35図版12)この「大」の字の意味するところについては、「大」を地名とした場合、「大嶺」の「大」が考えられる。しかし、「大峯(大嶺)」の地名が歴史書に登場するのは、平安時代末期以降であり、それより以前は「大嶺」は「鹿野」と呼ばれていた⁵⁾と推定されるので、あてはまらない。少なくとも地名を示すものではないと言えようが、その具体的な意味は不明である。

さて、古代における他地域とのつながりであるが、これについては、今回出土した須恵器の胎土分析から注目すべき結果が得られた。詳しい分析結果は、「付編 上領遺跡出土須恵器の蛍光X線分析」を参照してもらうとして、分析結果から周防国佐波郡(防府市)の末田窯のものが多く、大津郡の峠山窯で生産されたものも、少数ではあるが含まれていることがわかった。常識的に考えると、本遺跡で出土した須恵器は、同じ美祿郡内の末原窯で製作されたものと推定されたが⁶⁾、胎土分析の結果は、それを完全に否定するものであった。峠山窯の操業時期は、7世紀中頃～8世紀前半であり、本遺跡からも8世紀前半と推定される須恵器が出土していることから、峠山窯で製作された須恵器が古代美祿郡の当地に搬入された可能性はある。とすれば、少なくとも8世紀前半には、郡域を越えた物流があったことになる。末田窯については、操業時期が7世紀末～8世紀後半であり、本遺跡出土須恵器は、長登編年によれば、8世紀～9世紀初頭と考えられることから、時期的に重なる部分がある。須恵器が末田窯から運ばれてきたとすると、国を越境しての物資の流通も、さかんにあったことになる。しかし、それでも、より近い陶古窯群から搬入しなかったのはどうしてか、という疑問点が残る。また、最も近くに位置する末原窯から搬入されていない点は、大きな疑問として、今後検討すべき問題であろう。胎土分析で産地不明とされたものについては、未発見の須恵器窯が存在し、そこで製作された可能性も否定できない。

古代美祿郡の郡衙は、美祿郷に属する今の峠山町内にあったとされるが、その具体的な所在地については、未だ明確ではない⁷⁾。前述したヘラ書き土器並びに円面硯(第28図 173 図版17)の出土などを重視するとすれば、この上領遺跡を含めた周辺地域もその候補地の1つとは考えられないだろう。今後の調査機会に、さらなる成果を期待したい。



第34図 上領遺跡の時代別遺構分布図

肥中街道沿いの集落

中世には、遺構が調査区全体に広がり、遺構数も断然増加する(第34図)。遺物は、鎌倉時代～近世直前のもまで幅広く認められ、今回の調査区を含め、周辺地区全体へと集落が継続的に展開していったと推測できる。肥中街道が、遺跡のすぐそばを東西に横切っており⁸⁾、交通の要衝としての地の利を背景に、集落が発展していったものと推定される。

中世の遺物として、注目すべきものに土師器の台付皿がある。遺構からの出土が2点、遺構以外から10点余り出土している。いずれも、2A地区最東端と3A地区からの出土である。近隣では、砂地岡遺跡(美祿市於福町)から出土している。土師器台付皿は、日常の器というよりも、何らかの宗教又は儀礼のため、主または補助的に使用されたものとみられている⁹⁾。上領八幡宮所蔵の覚書に、「この神社の先祀は宇須能峰で、この地方を開拓したとき、鎮守神として天照大神と蛭子命を祭ったもの。その後・・・(中略)・・・その井手の少し川下の珍山(珍宝山)の峰に神霊を遷して宇須能峰の神と号した。」とある。珍山は、上領八幡宮のすぐ北にある山である。土師器台付皿が出土した場所は、その山の麓にあたることから、「宇須能峰の神」を祭る祭礼が行われ、それに関連して用いられたものとも考えられる。なお、近世以降の遺構であると断定できるものはなかった。おそらく、近世以降は、耕地化されたのであろう。

今回の発掘調査は、美祿市大嶺地区の歴史を解明する上で、多くの資料を提供してくれた。ただ、弥生時代の遺構であるSK1262の性格や上領地区に郡衙のあった可能性等々、疑問点は多く残った。今後、周辺地域での発掘調査が進み、そういった疑問点が解明されることを期待したい。

最後に、このまとめを書くにあたって、多くの示唆をいただいた美祿市文化財審議委員 河本芳久氏ならびに山口大学埋蔵文化財資料館助手 田畑直彦氏に謝意を表し、締めくくりとしたい。

註

(1) 2 4 8 河本芳久氏の教示による。(3) 田畑直彦氏の教示による。(5) 『日本歴史地名大系』第36巻「山口県の地名」美祿市(6) 本遺跡出土須恵器推定年代と未原窯操業時期は、一致する。(7) 『美祿市史』第4編 古代 2 美祿郡の諸郷と美祿郡衙(9) 『中世土器研究論集』「柱状高台考」4 使用方法

参考文献

- 美祿市教育委員会 『東分中村経塚』 2000
菊川町教育委員会 『上原遺跡』 1976
山口県教育委員会 『寺秋遺跡 湯免遺跡』 1979
田畑直彦 「湯免式壺について - 角島・沖田遺跡出土の新資料 - 」『山口考古』第21号 山口考古学会 2001
美東町教育委員会 『長登銅山跡』 1993
美祿市史編集委員会 『美祿市史』 1982
山口県教育委員会 『生産遺跡分布調査報告書 窯業』 1983
奈良本辰也・三坂圭治監修 『山口県の地名』『日本歴史地名大系』第36巻 平凡社 1980
財団法人山口県教育財団 山口県教育委員会 『砂地岡遺跡』 1993
八井 興 「柱状高台考」『中世土器研究論集』-中世土器研究会20周年記念論集- 中世土器研究会 2001

圖 版



調査区遠景（南西から）



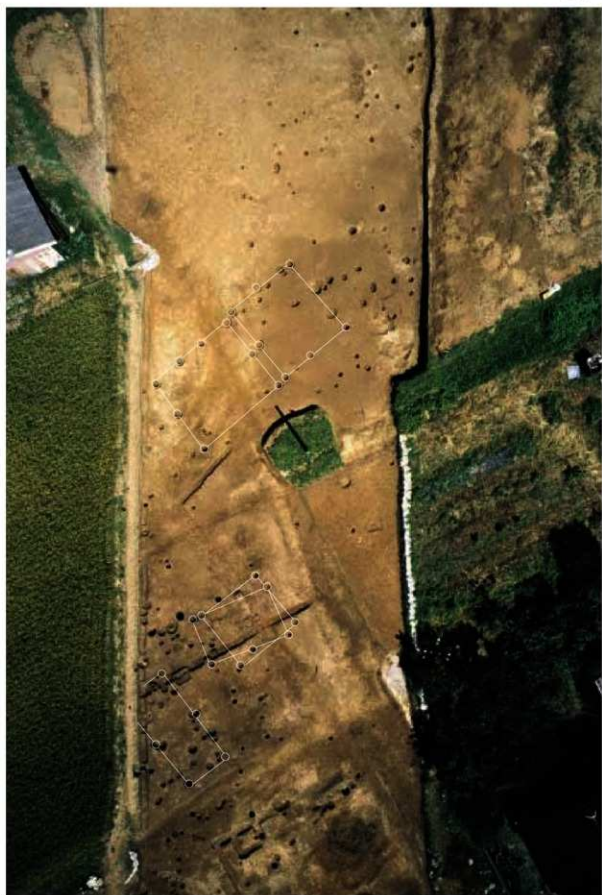
調査区遠景（南東から）



1地区全景（南東から）



2・3地区全景（南東から）



1D・2A地区掘立柱建物群（南西から）



1 A地区遺構群 (西から)



3 A地区遺構群 (北から)



1 B地区 S K 1263遺物出土状況（東から）



1 B地区 S K 1263遺物出土状況（北から）



1 B 地区 S K 1262 完掘状況 (南西から)



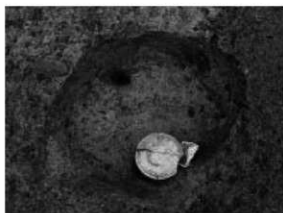
1 B 地区 S K 1262 完掘状況 (北西から)



2 A地区 S K 2012遺物出土状況 (上層 北西から)



2 A地区 S K 2012遺物出土状況 (上層 北西から)



2 A地区 S K 2012遺物出土状況 (下層 北東から)



2 A地区 S K 2014遺物出土状況 (北から)



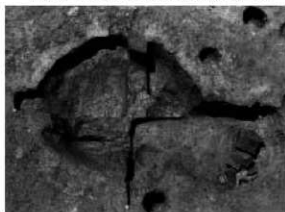
2 A地区 S K 2001遺物出土状況 (南から)



1 A地区 S K 1015遺物出土状況 (南から)



1 A地区 S K 1016遺物出土状況 (東から)



1 B地区 S K 1155完掘状況 (北から)



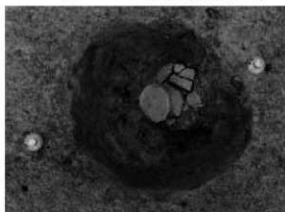
3 A地区 S K 3001完掘状況 (東から)



3 A地区 S K 3002土層断面 (南西から)



1 D地区 S D 1164完掘状況 (北から)



3 A地区 S P 3004遺物出土状況 (南から)



1 B地区 S P 1004遺物出土状況 (東から)



1 B 地区 S P 1013 遺物出土状況 (北から)



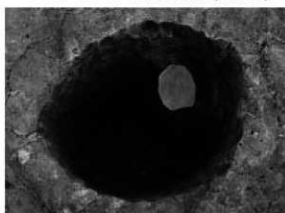
1 B 地区 S P 1134 遺物出土状況 (東から)



1 A 地区 S P 1264 遺物出土状況 (西から)



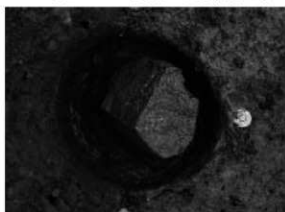
2 A 地区 S P 2007 遺物出土状況 (西から)



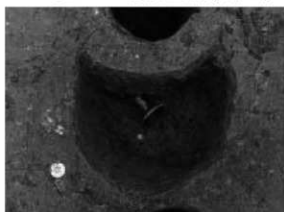
1 B 地区 S P 1205 遺物出土状況 (南から)



1 B 地区 S P 1075 遺物出土状況 (西から)



1 D 地区 S P 1018 遺物出土状況 (南から)



1 A 地区 S P 1014 遺物出土状況 (東から)



1 B地区 S P 1261遺物出土状況 (北から)



1 B地区遺物包含層遺物出土状況 (西から)



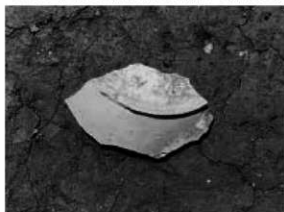
2 A地区遺物包含層遺物出土状況 (西から)



2 A地区遺物包含層遺物出土状況 (西から)



2 A地区遺物包含層遺物出土状況 (北から)



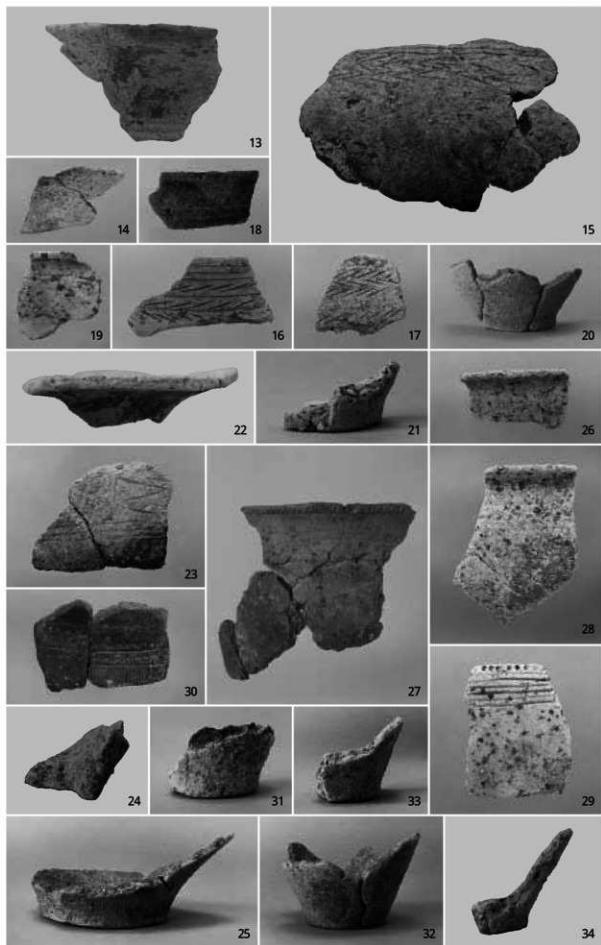
2 A地区遺物包含層遺物出土状況 (東から)



3 A地区トレンチ東側 (北東から)



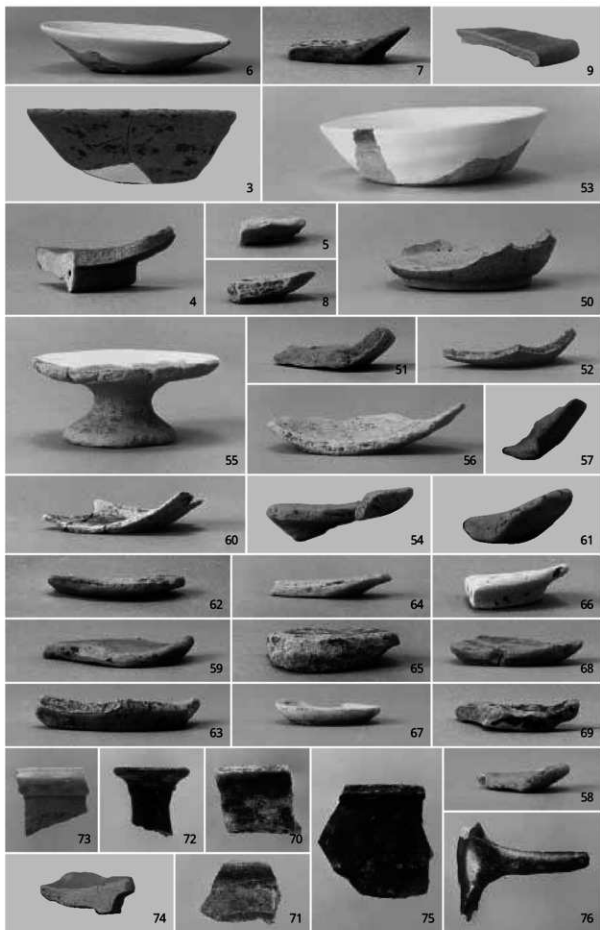
3 A地区トレンチ西側 (北東から)



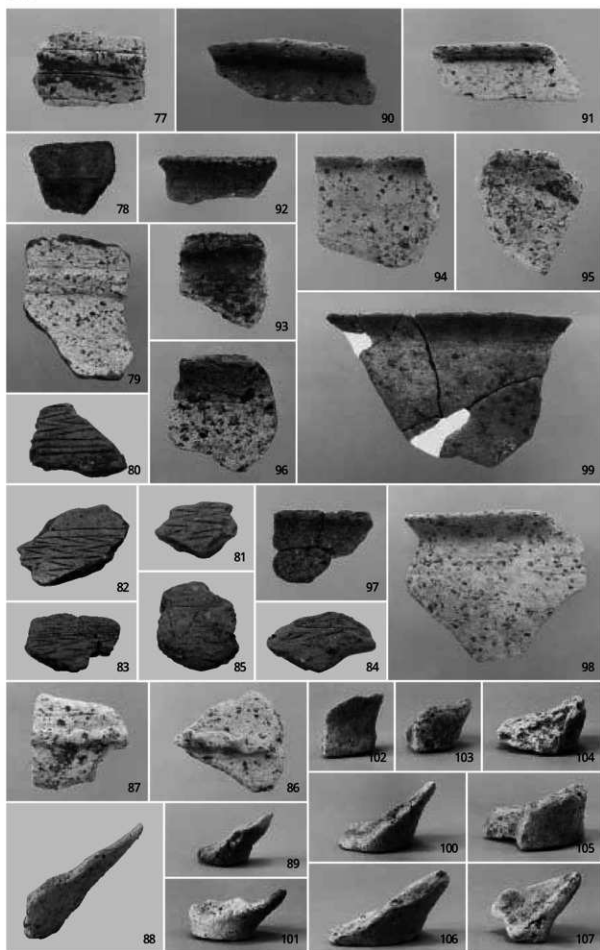
土坑出土遺物



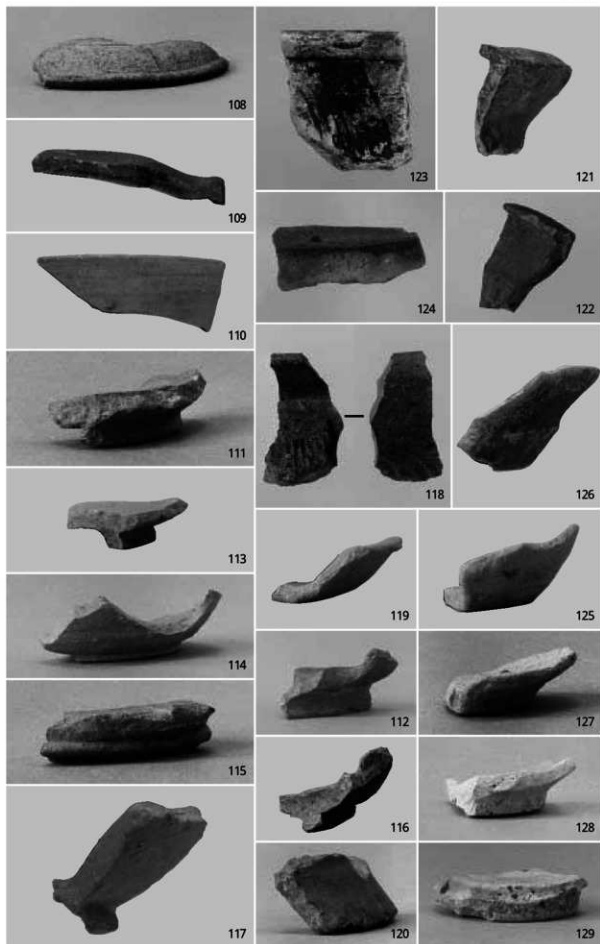
土坑出土遺物 · 掘立柱建物跡出土遺物



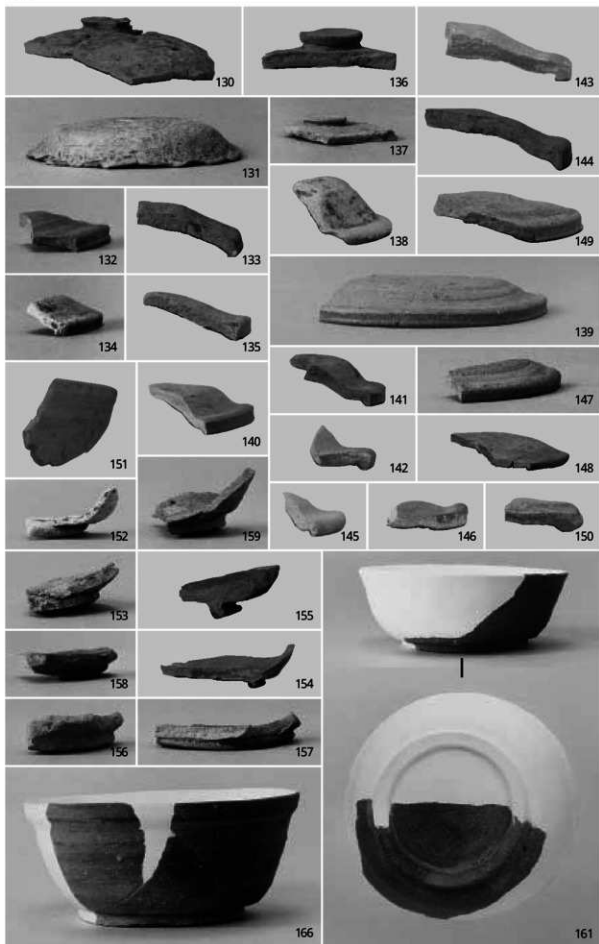
掘立柱建物跡出土遺物 · 柱穴出土遺物



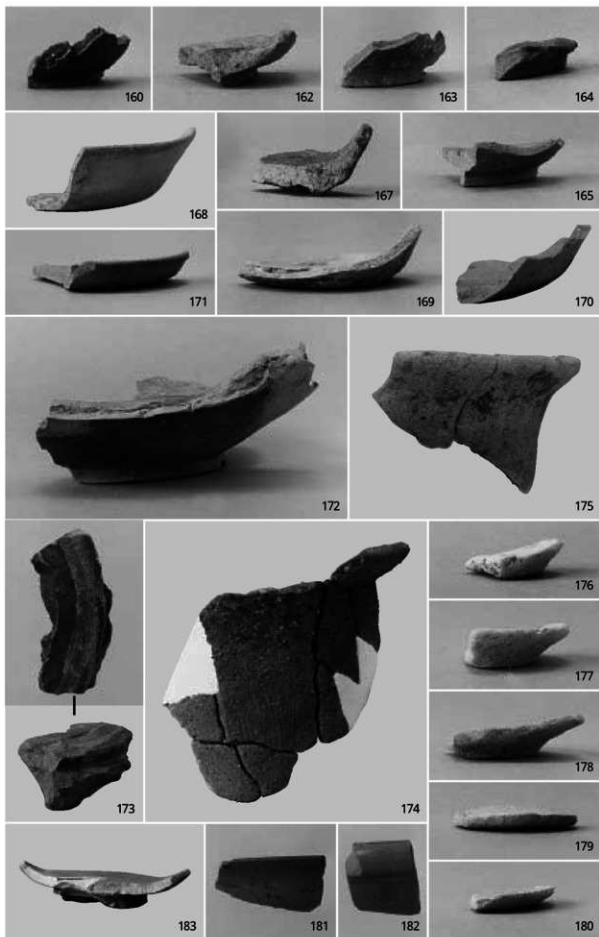
1 A · 1 B地区遗物包含層出土遺物



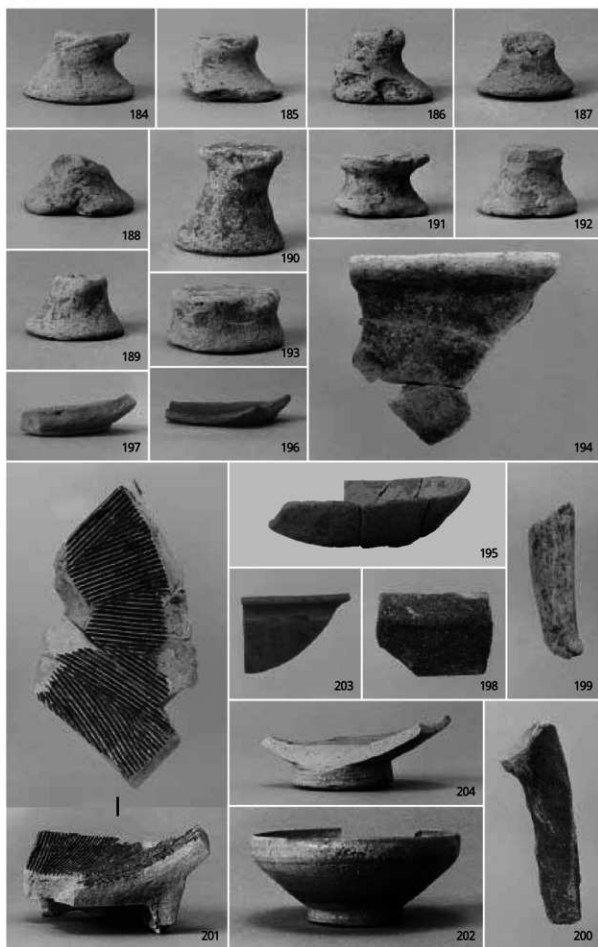
1 A · 1 B地区遺物包含層出土遺物



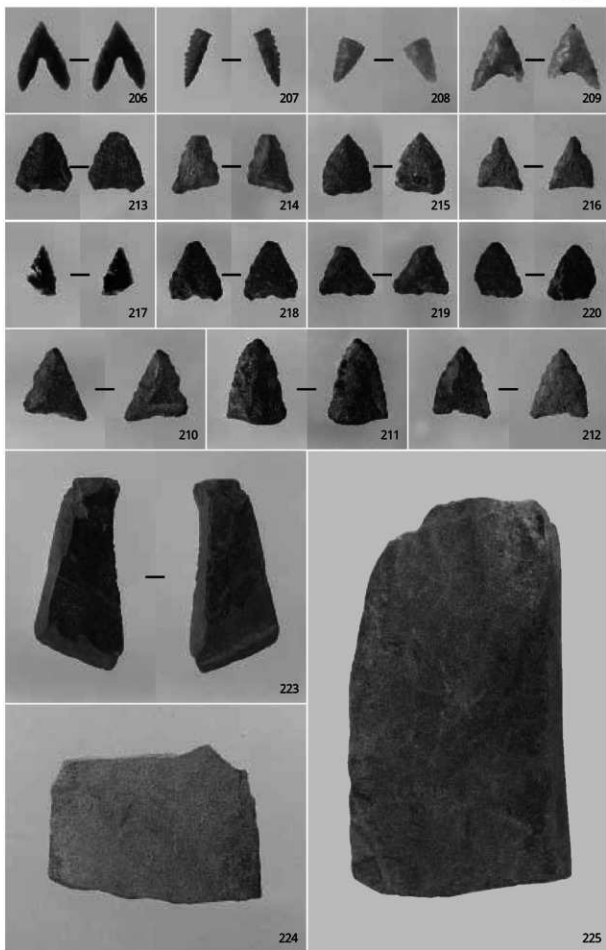
1 D · 2 A地区遺物包含層出土遺物

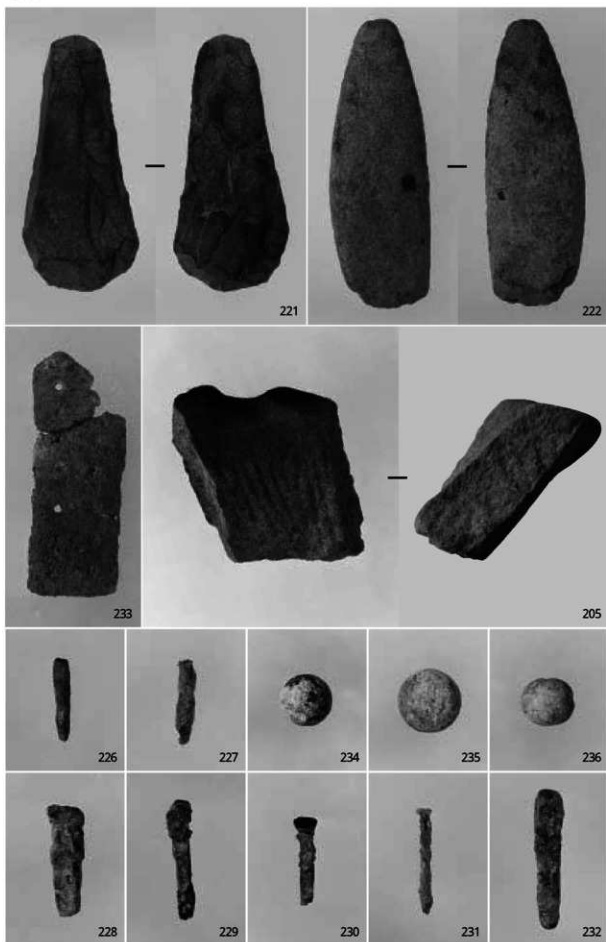


1 D · 2 A地区遺物包含層出土遺物



表面採集遺物





報告書抄録

ふりがな	かみりょういせき
書名	上領遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	山口県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第40集
編著者名	林 修司 松浦 孝和 有馬 啓介
編集機関	財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター
所在地	〒753-0073 山口県山口市春日町3番22号 TEL 083-923-1060
発行年月日	西暦2004年3月25日(平成16年3月25日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみりょういせき 上領遺跡	山口県 美祿市 大嶺町 大字東分 字上領	35213		34 10 54	131 12 22	2003.4.15 } 2003.9.26	3,200	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上領遺跡	集落跡	弥生時代 古代 中世	掘立柱建物跡26棟 土坑 38基 溝状遺構 6条 柱穴 約1,100個	弥生土器 土師器 須恵器 瓦質土器 輸入磁器 陶磁器 石器・石製品 金属製品 木製品	弥生時代から中世にかけて 断続的に営まれた集落跡。 湯免式壺の影響を受ける弥 生土器出土。 古代の文字関係資料である ヘラ書き須恵器と円面硯出 土。

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第40集

上 領 遺 跡

2004年3月

編集・発行 財団法人山口県教育財団
山口県埋蔵文化財センター
〒753-0073 山口市春日町3番22号

印 刷 大村印刷株式会社
〒747-0849 防府市西仁井令1丁目21番5号